参考資料３

芦屋町コミュニティ活動状況調査
結果報告書

令和５年３月

福岡県　芦屋町

目　次

Ⅰ　調査の概要 1

１．調査の目的 1

２．調査の概要 1

３．報告書の見方 2

Ⅱ　調査結果 3

１．調査対象者について 3

２．町の暮らしやすさについて 10

３．町の取り組みに対する満足度・重要度について 18

４．その他、まちの重点的な取り組みなどについて 26

５．今後の芦屋町について 57

Ⅲ　調査結果の経年比較分析（平成21年度～令和4年度）........... 61

１．調査票回収状況 61

２．満足度と重要度の経年比較による分析 62

３．資料編 73

Ⅰ　調査の概要

1. 調査の目的

現行計画である第６次芦屋町総合振興計画に対する住民の評価や、今後のまちづくりに対する意向などを把握し、今後の取り組みに資することを目的に実施しました。

2. 調査の概要

調査地域　：　芦屋町全域
調査対象者　：　芦屋町在住の 18 歳以上 2,000 名を無作為抽出
調査期間　：　令和４年９月～10 月
調査方法　：　郵送による配布
郵送、またはインターネットによる回収

配布数（Ａ）	2,000
回収票数（Ｂ）	832
郵送	669
インターネット	163
回収率（Ｂ／Ａ）	41.6%
郵送	33.5%
インターネット	8.2%

前回からの変更点：（1）調査仕様に関わる変更点

①令和４年４月１日からの成人年齢の引き下げに伴い、調査対象者を 18 歳以上に変更

②従来の郵送での回答に加え、インターネットでの回答にも対応

（2）設問に関わる変更点

①問２の性別を問う設問の選択肢に「どちらでもない／わからない」、「答えたくない」を新設

②問 14-2 に地域情報伝達システムの戸別受信機についての設問を新設

③問 23～25 にインターネット環境、情報入手経路についての設問を新設

④問 26 に新型コロナウイルス感染症施策についての設問を新設

３. 報告書の見方

●回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものです。このため、単数回答（複数の選択肢から１つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

●複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。このため、合計が 100.0%を超える場合があります。

●図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。

●図表中の「N」は、集計対象者総数、「n」は、回答者限定設問の限定条件に該当する人を表しています。

●本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

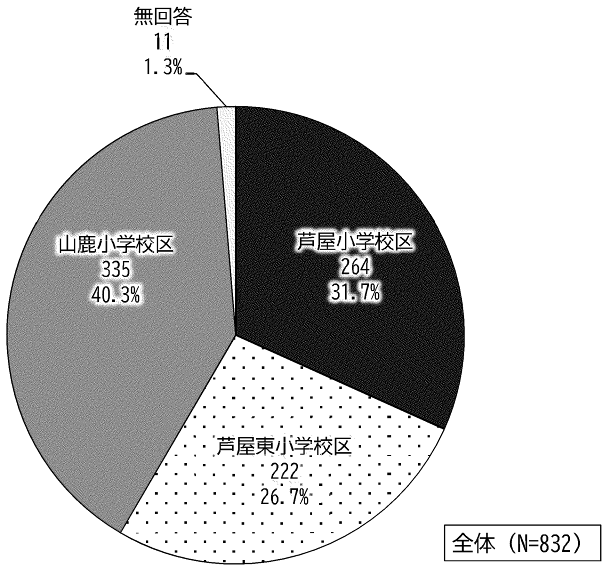
●この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜掲載しています。

Ⅱ　調査結果

1．調査対象者について

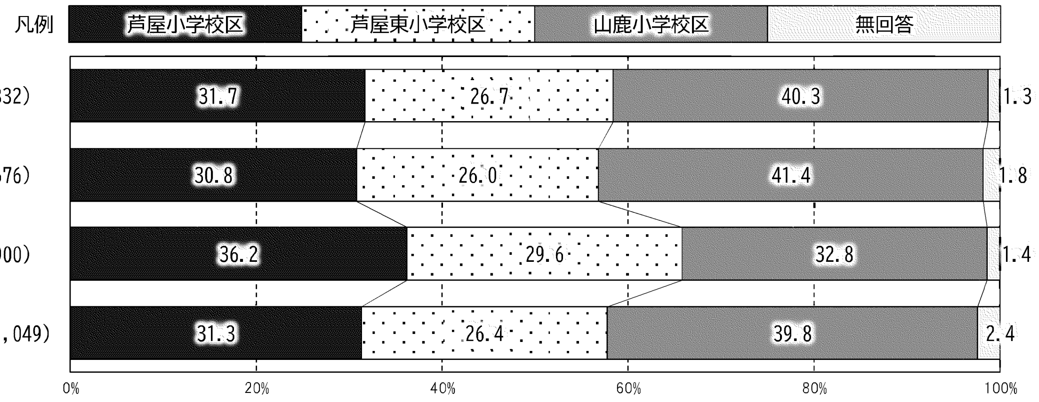
1． 小学校区別構成比（問１）

対象者の小学校区別構成比は、芦屋小学校区が 31.7％、芦屋東小学校区が 26.7％、山鹿小学校区が 40.3％となっています。



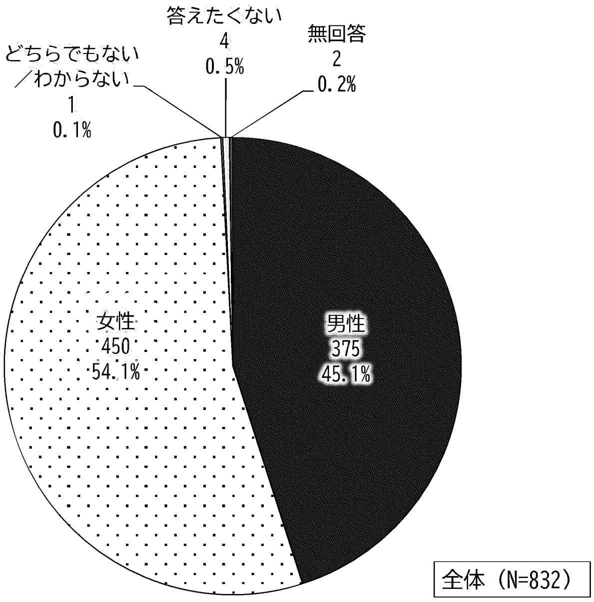
■過年度比較

過年度で比較して、大きな変化は見られません。



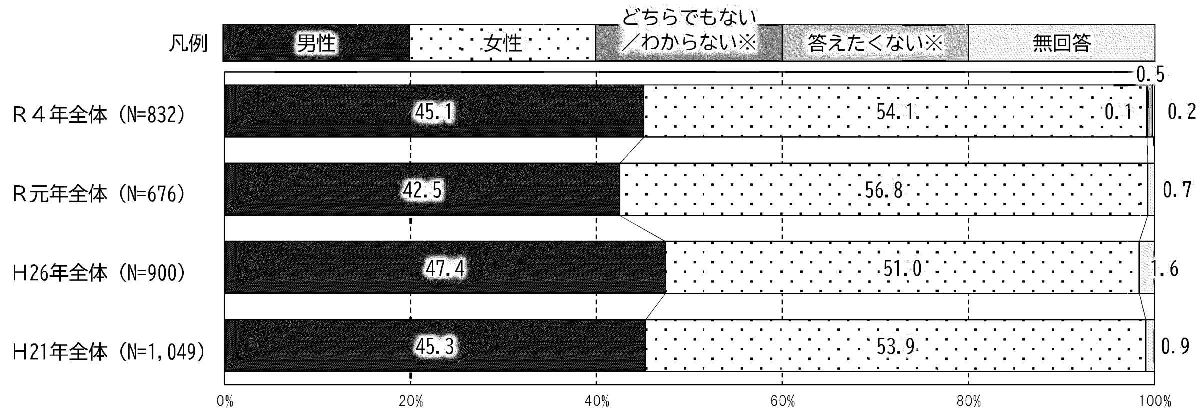
２．性別構成比（問２）

対象者の性別構成比は、男性が 45.1％、女性が 54.1％となっています。



■過年度比較

過年度で比較すると、令和元年度調査よりも男性が 2.6 ポイント上昇、女性が 2.7 ポイント低下しています。

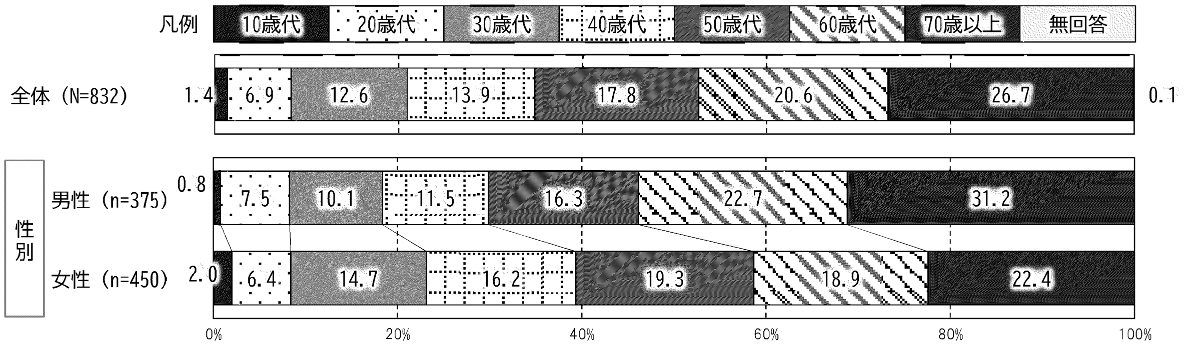


※ 「どちらでもない／わからない」「答えたくない」はH21年、H26年、R元年では設定なし

３．年齢別構成比（問３）

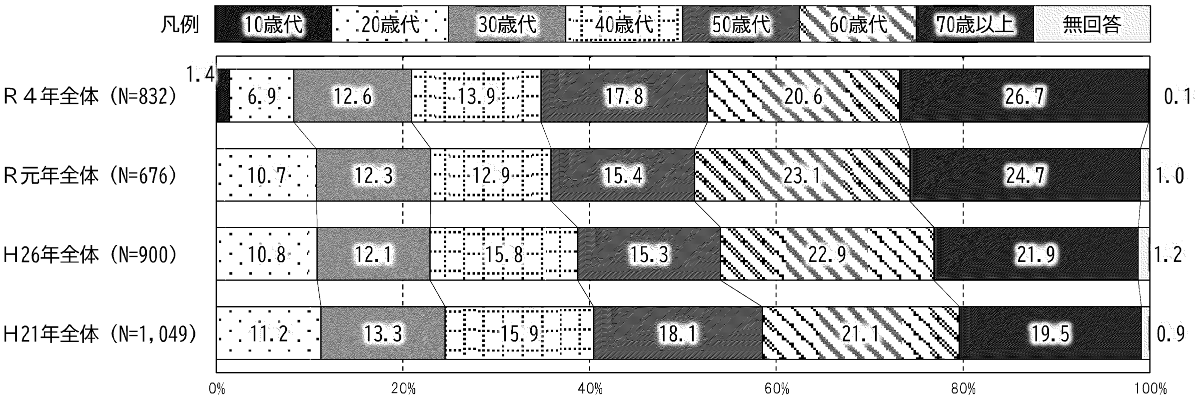
対象者の年齢別構成比は、「70 歳以上」が 26.7％と最も高く、次いで「60 歳代」が 20.6％、「50 歳代」が 17.8％などとなっています。

性別でみると、男性は女性に比べ「70 歳以上」の割合が高く、『60 歳以上』（「60 歳代」+「70 歳以上」）の割合は５割を超えています（53.9％）。女性は男性に比べ「30 歳代」や「40 歳代」、「50 歳代」の割合が高くなっています。



■過年度比較

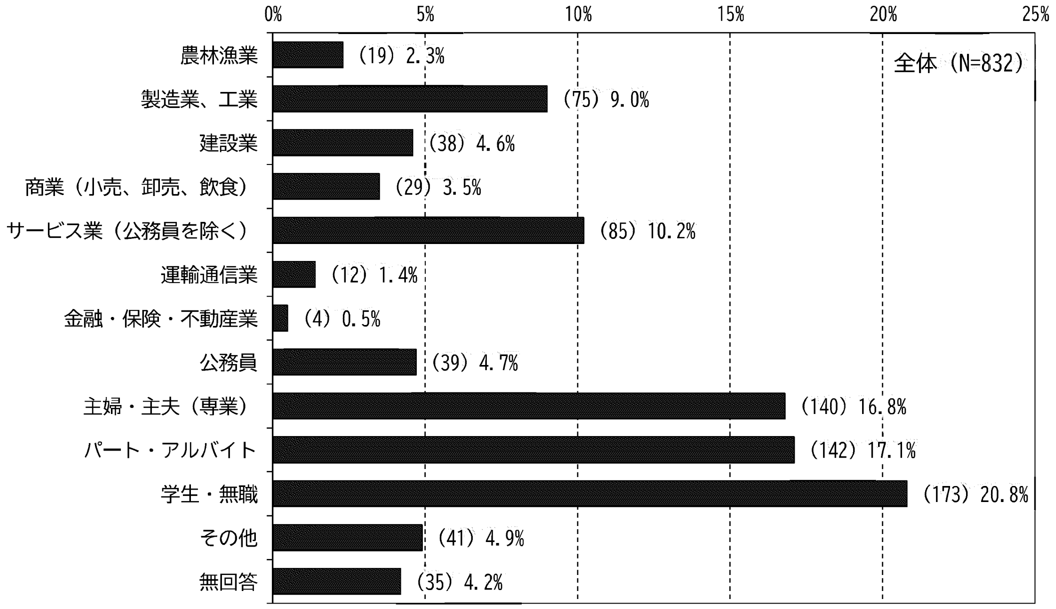
過年度で比較して大きな変化はないものの、『20 歳代以下』（「10 歳代」+「20 歳代」）の割合は 8.3％で、前回以前よりもやや低下しています。



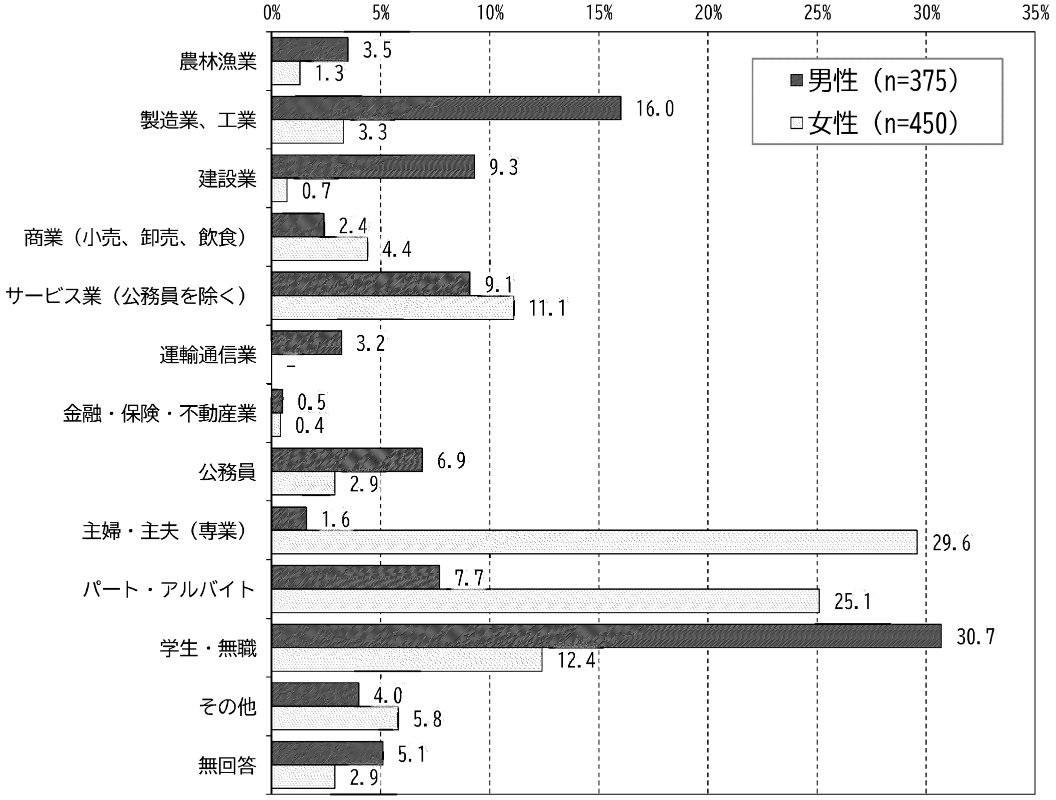
※ 「10歳代」はH21年、H26年、Ｒ元年では設定なし

4．職業別構成比（問４）

対象者の職業別構成比は、「学生・無職」が 20.8％と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 17.1％、「主婦・主夫（専業）」が 16.8％などとなっています。

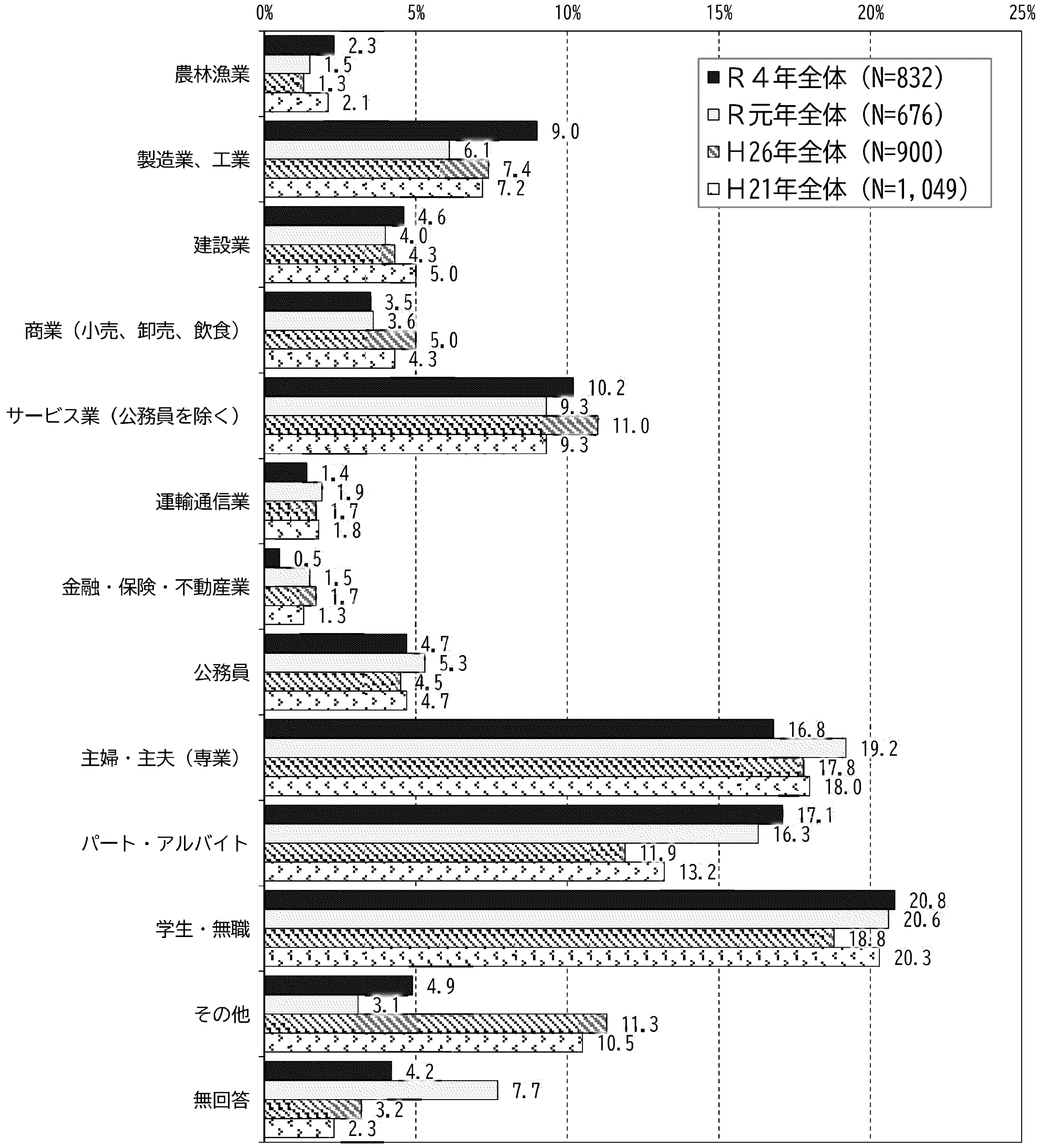


性別でみると、男性は女性に比べ「学生・無職」や「製造業、工業」の割合が高く、女性は「主婦・主夫（専業）」、「パート・アルバイト」の割合が男性を大きく上回っています。



■過年度比較

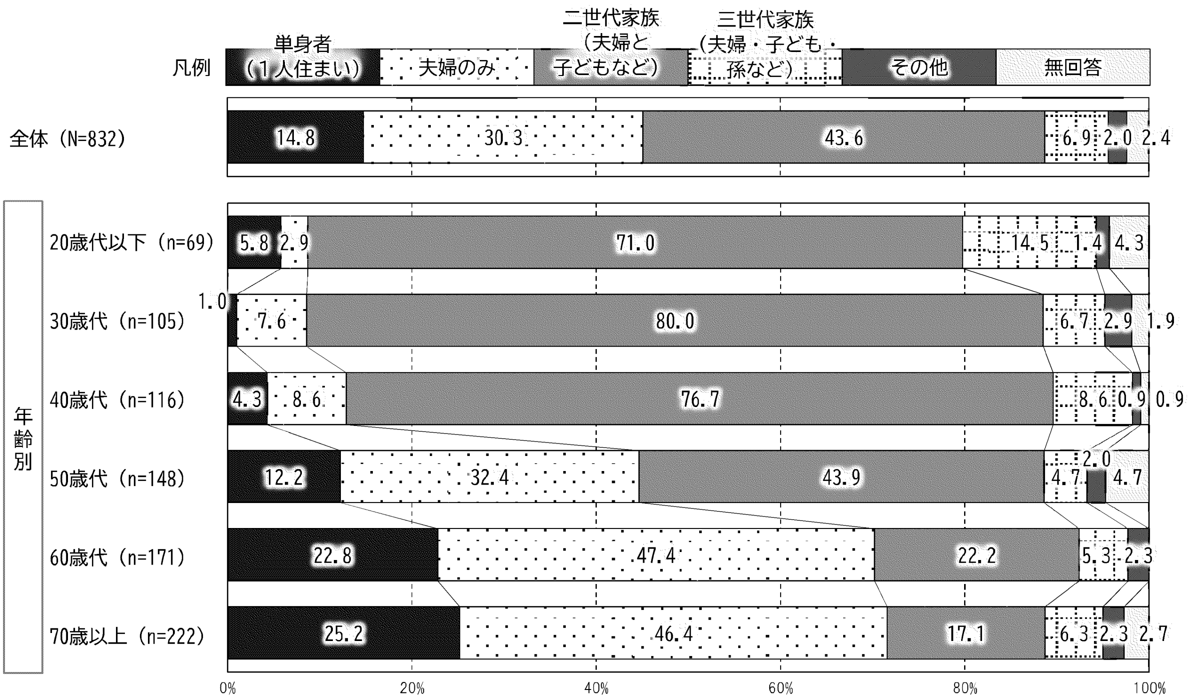
過年度で比較すると、傾向に大きな変化はないものの、「パート・アルバイト」や「製造業、工業」は前回以前よりも高い割合となっています。



５．同居家族別構成比（問５）

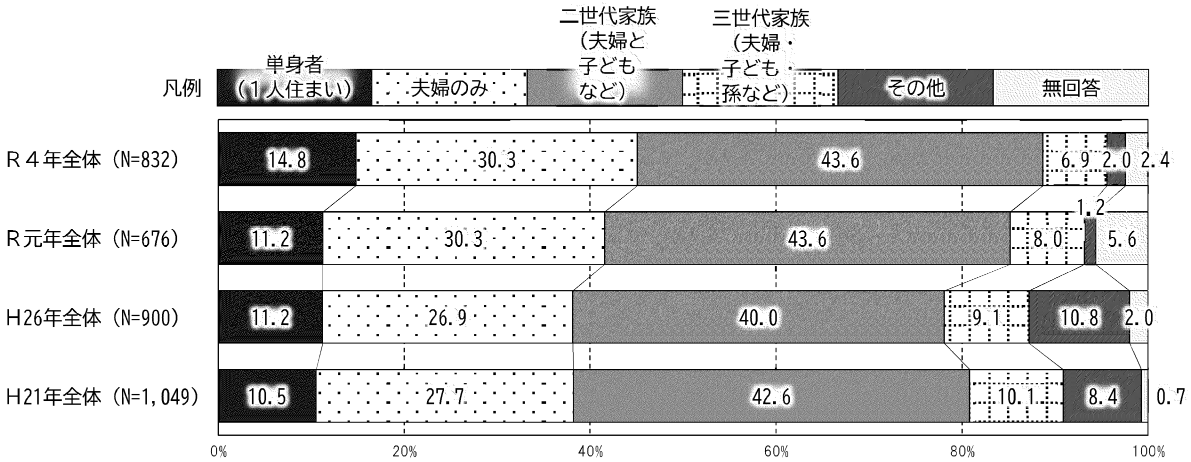
対象者の同居家族別構成比は、「二世代家族（夫婦と子どもなど）」が 43.6％と最も高く、次いで「夫婦のみ」が 30.3％、「単身者（１人住まい）」が 14.8％などとなっています。

年齢別でみると、20 歳代以下から 40 歳代では「二世代家族（夫婦と子どもなど）」が７割を超えています。また、60 歳代と 70 歳代では「単身者（１人住まい）」は２割超、「夫婦のみ」はおよそ５割を占め、それぞれ他の年代よりも高くなっています。



■過年度比較

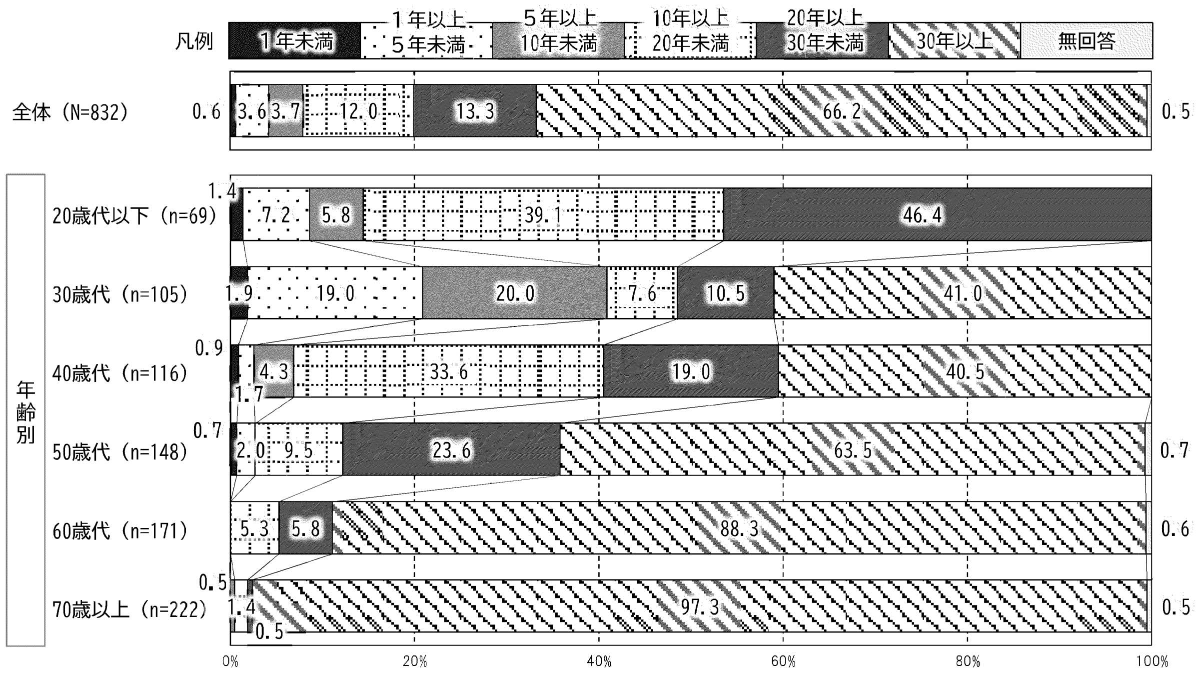
過年度で比較すると、「単身者（１人住まい）」の割合は上昇傾向、一方「三世代家族（夫婦・子ども・孫など）」は低下傾向となっています。



６．芦屋町での通算居住年数別構成比（問６）

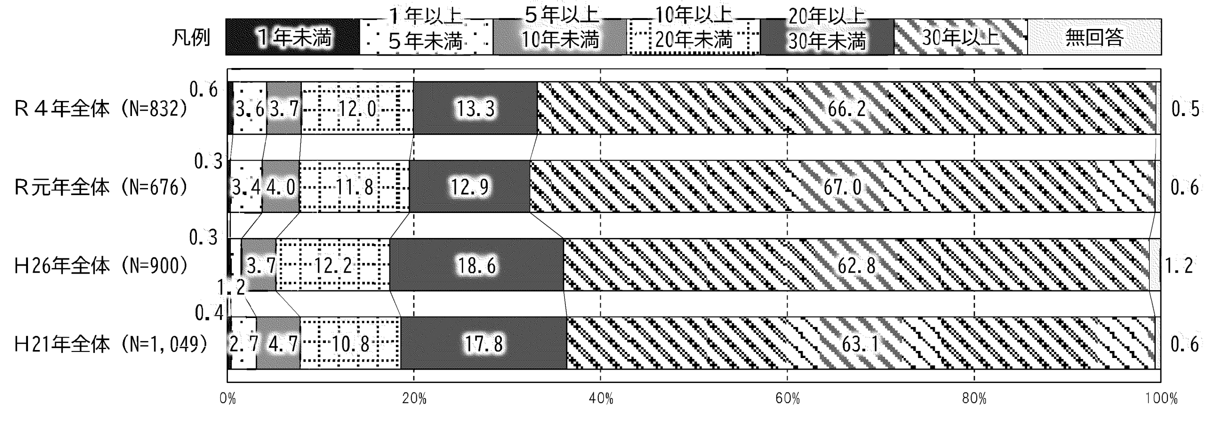
対象者の芦屋町での通算居住年数別構成比は、「30 年以上」が最も高く、およそ７割を占めています。

年齢別でみると、年齢が上がるほど通算居住年数が高くなる傾向がみられ、40 歳代以上では『10 年以上』（「10 年以上 20 年未満」+「20 年以上 30 年未満」+「30 年以上」）が９割を超えています。



■過年度比較

過年度で比較して、大きな変化は見られず、『10 年以上』（「10 年以上 20 年未満」+「20 年以上 30 年未満」+「30 年以上」）は約９割、中でも「30 年以上」が約６割を占めています。



2. 町の暮らしやすさについて

問７　芦屋町は住みやすいと感じていますか。（１つに○）

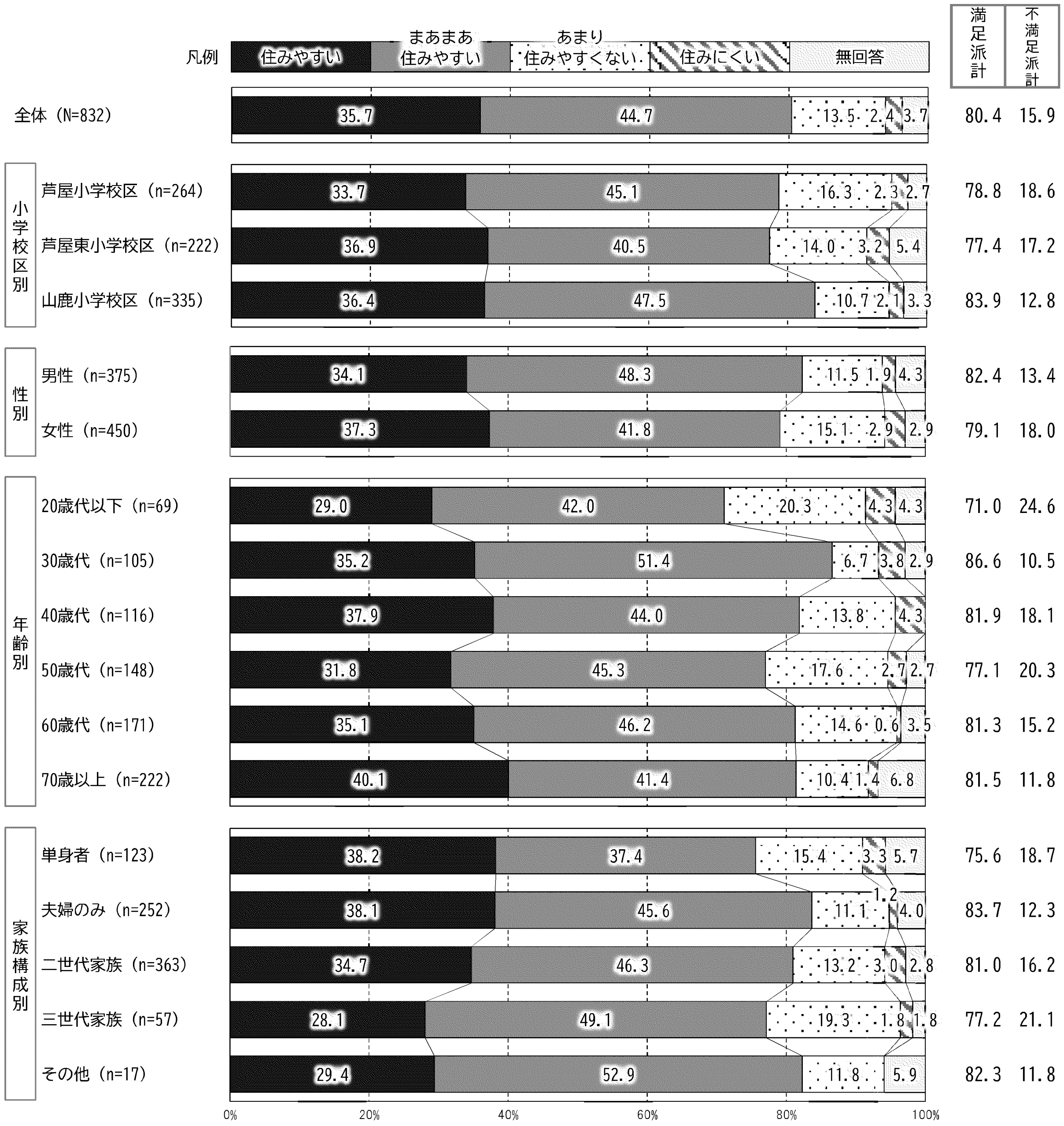
芦屋町の住みやすさをみると、「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」を合わせた『住みやすい（以下『満足派』と表記）』と回答した人は 80.4％で、約８割を占めています。

小学校区別でみると、山鹿小学校区の『満足派』の割合が 83.9％で最も高くなっています。

性別でみると、『満足派』に大きな差は無いものの、『不満足派』(「住みにくい」+「あまり住みやすくない」) の割合は、女性が 18.0％で男性（13.4％）よりも高くなっています。

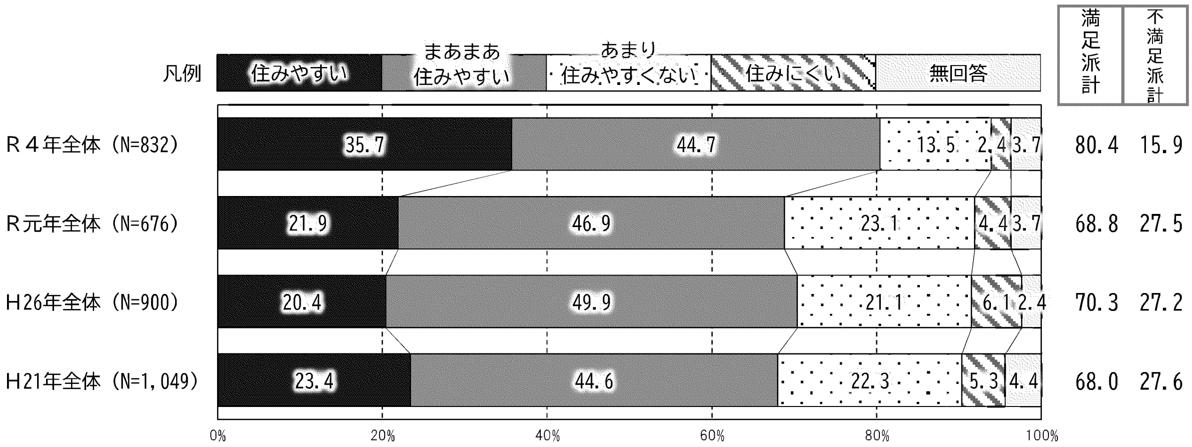
年齢別でみると、『満足派』の割合は 30 歳代（86.6％）が最も高く、20 歳代以下（71.0％）が最も低くなっています。

家族構成別でみると、夫婦のみの『満足派』の割合が 83.7％で最も高くなっています。



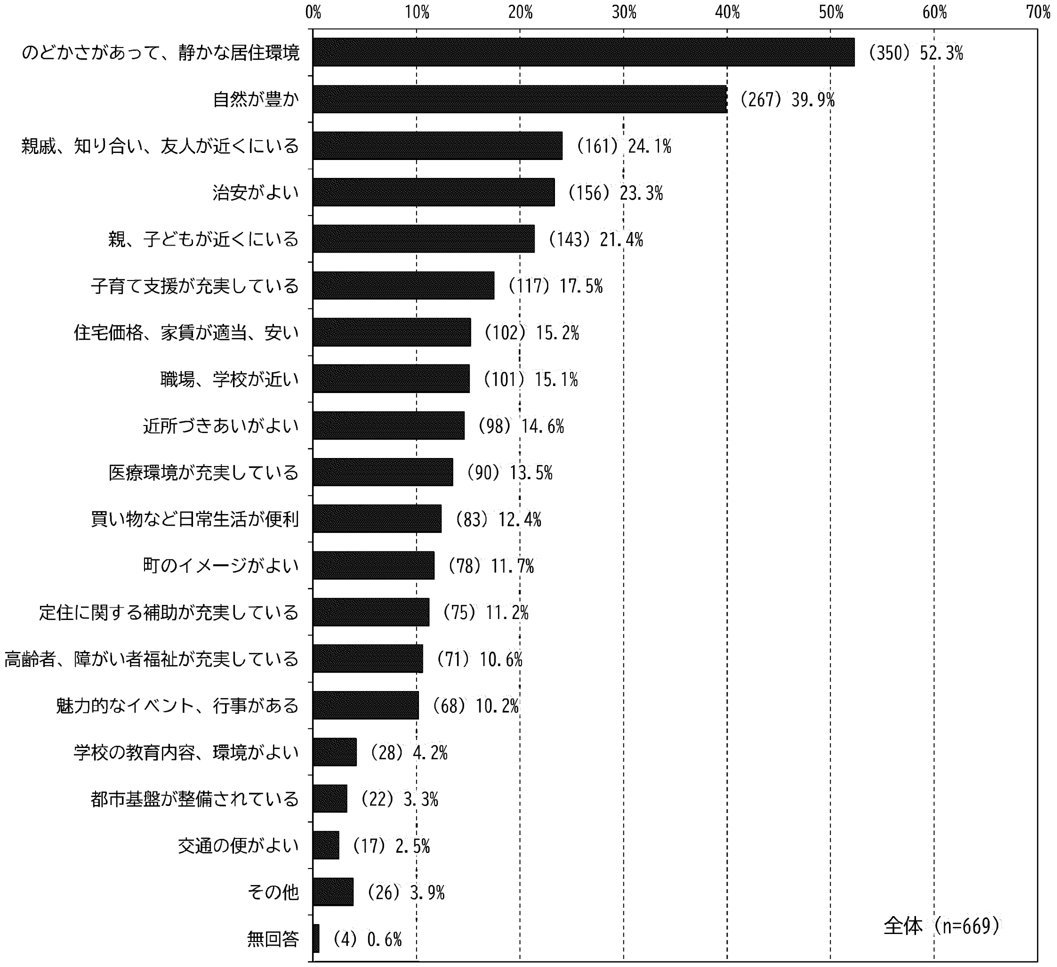
■過年度比較

過年度で比較すると、「住みやすい」と回答した人の割合は前回令和元年度調査の 21.9%から 13 ポイント以上も大きく上昇しており、『満足派』の割合も 80.4%で過去最高となっています。



※問７で「１」「２」を選んだ方におたずねします。
問７－１　どのような点で住みやすいと感じていますか。（複数回答）

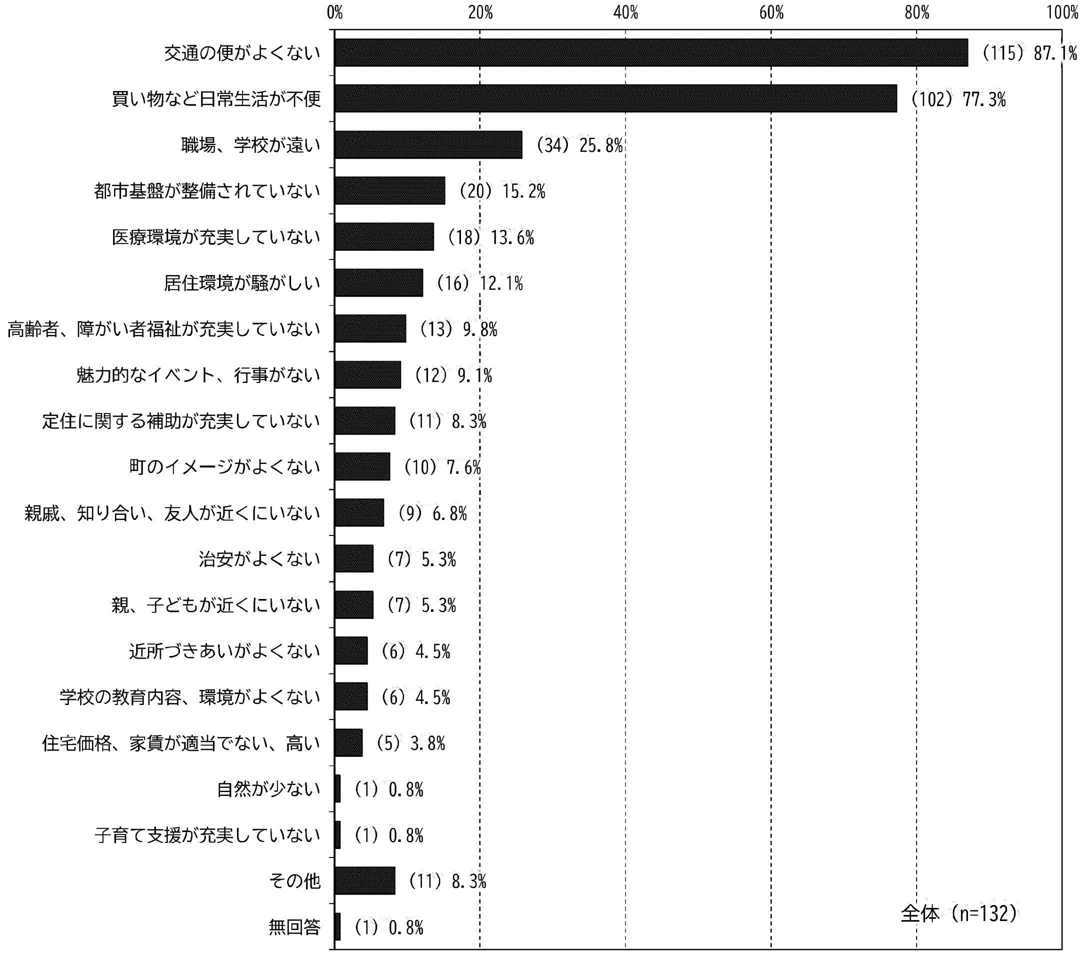
住みやすいと感じる理由をみると、「のどかさがあって、静かな居住環境」の割合が 52.3％で最も高く、次いで「自然が豊か」が 39.9％、「親戚、知り合い、友人が近くにいる」が 24.1％などの順となっています。



※問７で「３」「４」を選んだ方におたずねします。

問７−２　どのような点で住みにくいと感じていますか。（複数回答）

住みにくいと感じる理由をみると、「交通の便がよくない」が 87.1%で最も高く、次いで「買い物など日常生活が不便」が 77.3%、「職場、学校が遠い」が 25.8%などの順となっています。



問８　今後も芦屋町に住み続けたいですか。（１つに○）

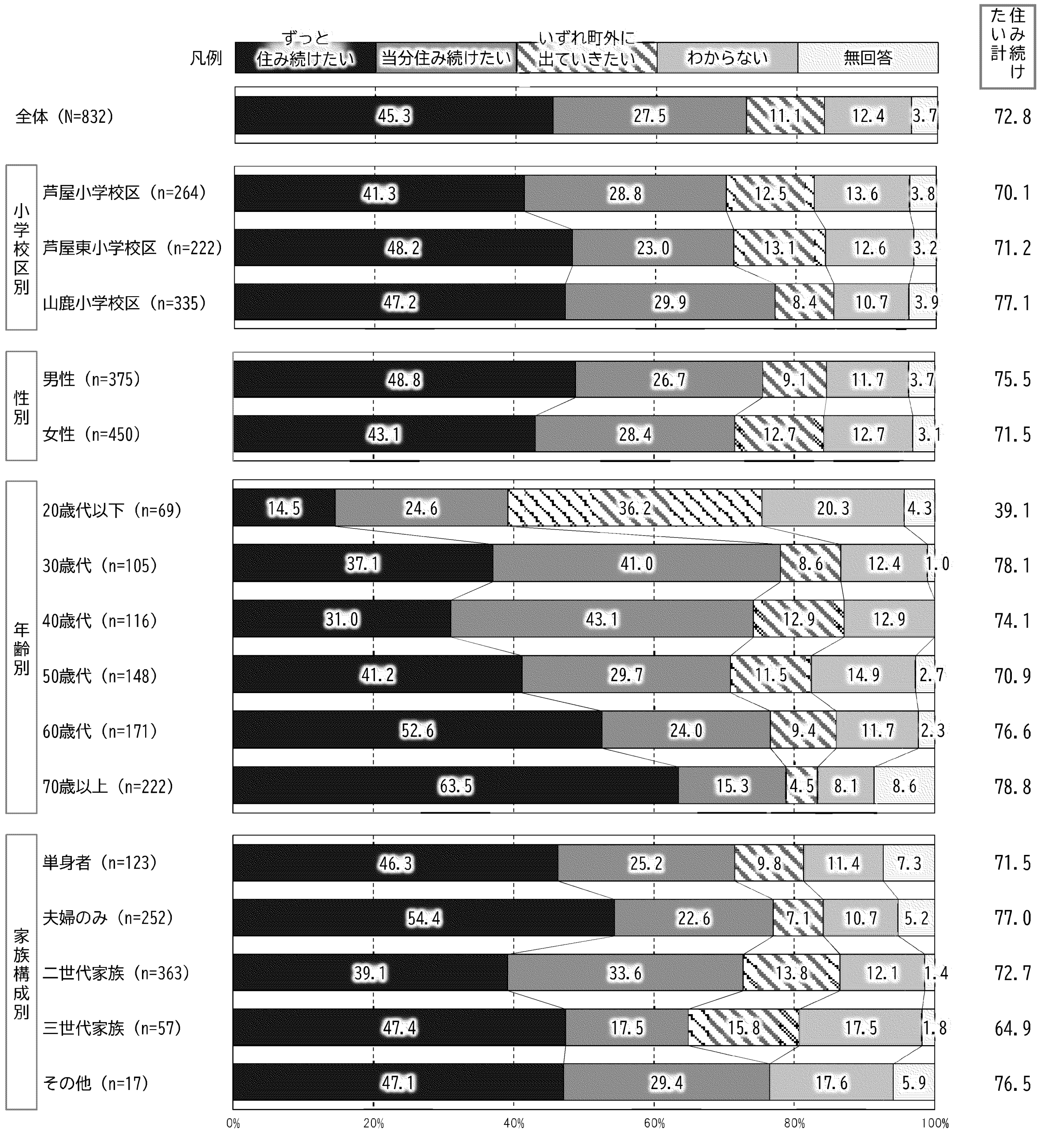
芦屋町の居住意向をみると、「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』と回答した人の割合が 72.8％で、約７割を占めています。

小学校区別でみると、山鹿小学校区の『住み続けたい』の割合が 77.1％で最も高くなっています。

性別でみると、『住み続けたい』の割合は男性（75.5％）の方が女性（71.5％）よりもやや高くなっています。

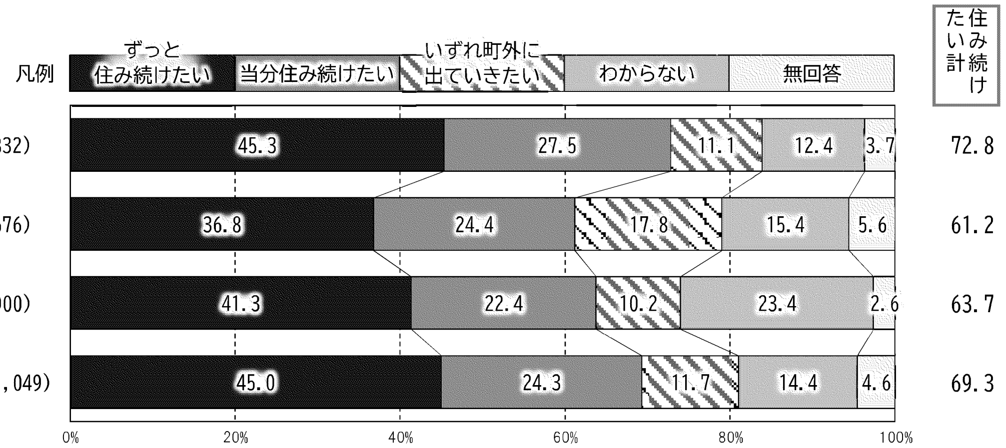
年齢別でみると、30 歳代以上では『住み続けたい』の割合は７割を超えています。

家族構成別でみると、『住み続けたい』の割合は三世代家族（64.9％）が他と比較して低くなっています。



■過年度比較

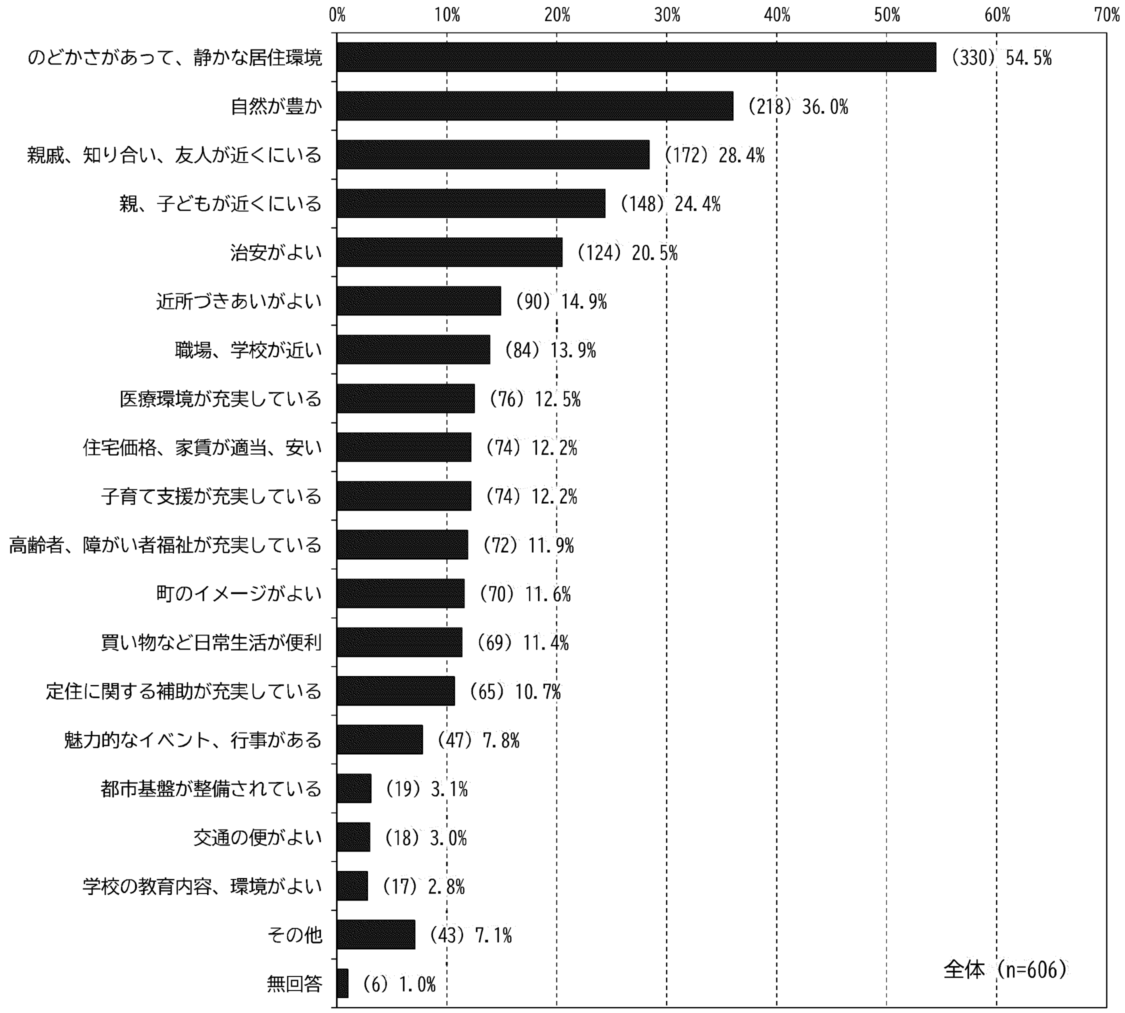
過年度で比較すると、『住み続けたい』の割合は、平成 21 年度調査の 69.3%から、平成 26 年度調査は 63.7%、令和元年度調査は 61.2%と低下傾向でしたが、今回は 72.8%で、過去最高となっています。



※問８で「１」「２」を選んだ方におたずねします。

問８－１　どのような点で今後も住み続けたいと思いますか。（複数回答）

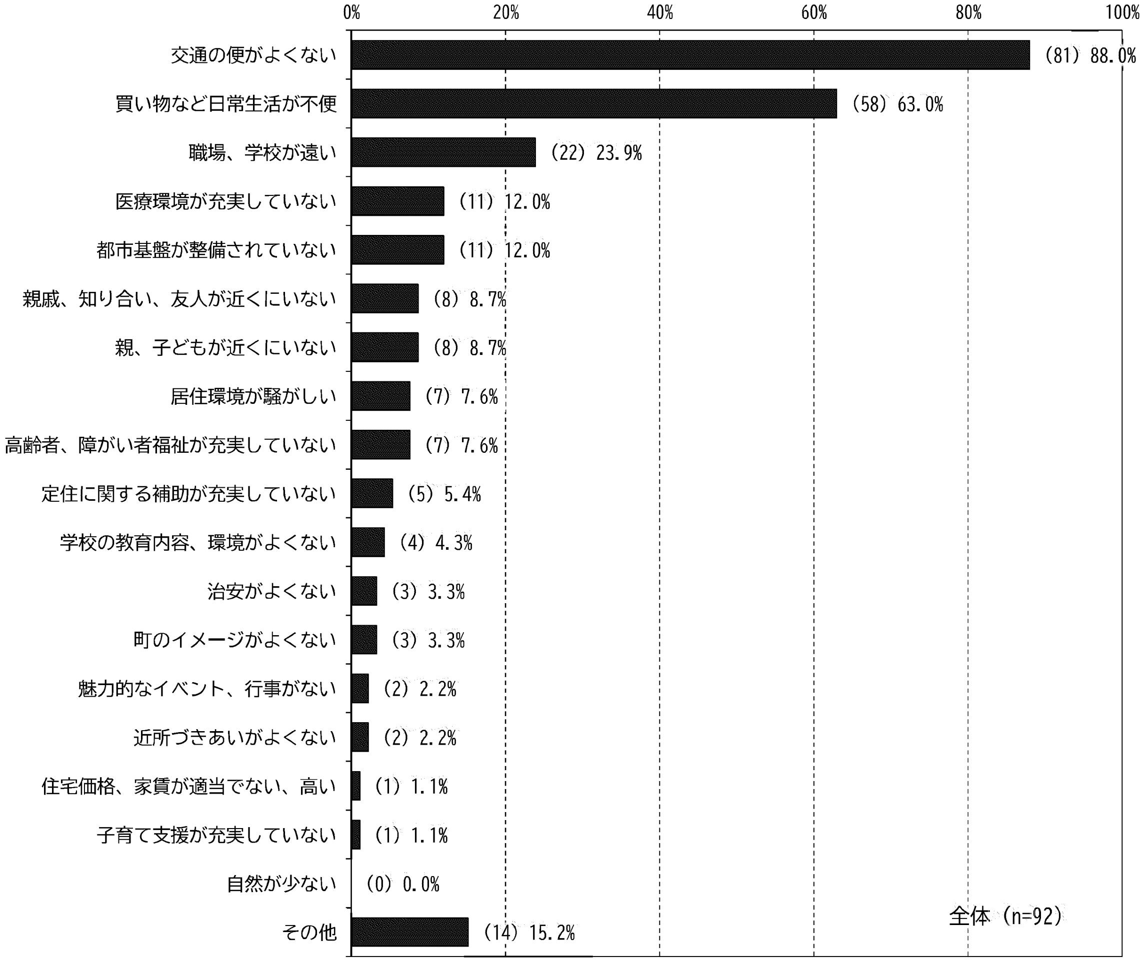
住み続けたい理由をみると、「のどかさがあって、静かな居住環境」の割合が 54.5％で最も高く、次いで「自然が豊か」が 36.0％、「親戚、知り合い、友人が近くにいる」が 28.4％などの順となっています。



※問８で「３」を選んだ方におたずねします。

問８-２ どのような点でいずれ町外に出ていきたいと思いますか。（複数回答）

町外に出ていきたい理由をみると、「交通の便がよくない」の割合が 88.0％で最も高く、次いで「買い物など日常生活が不便」が 63.0％、「職場、学校が遠い」が 23.9％などの順となっていて、上位３つは住みにくいと感じる理由と同じ項目が挙がっています。



3. 町の取り組みに対する満足度・重要度について

問９　芦屋町のこれまでの取り組みについて、あなたはどのくらい満足し、また、重要とお考えですか。（各項目について、「満足度」、「重要度」からそれぞれ１つずつに○）

町の取り組みについて、39 の項目を掲げ、それぞれの「満足度」「重要度」を４段階評価で回答を得ました。

■町の取り組み

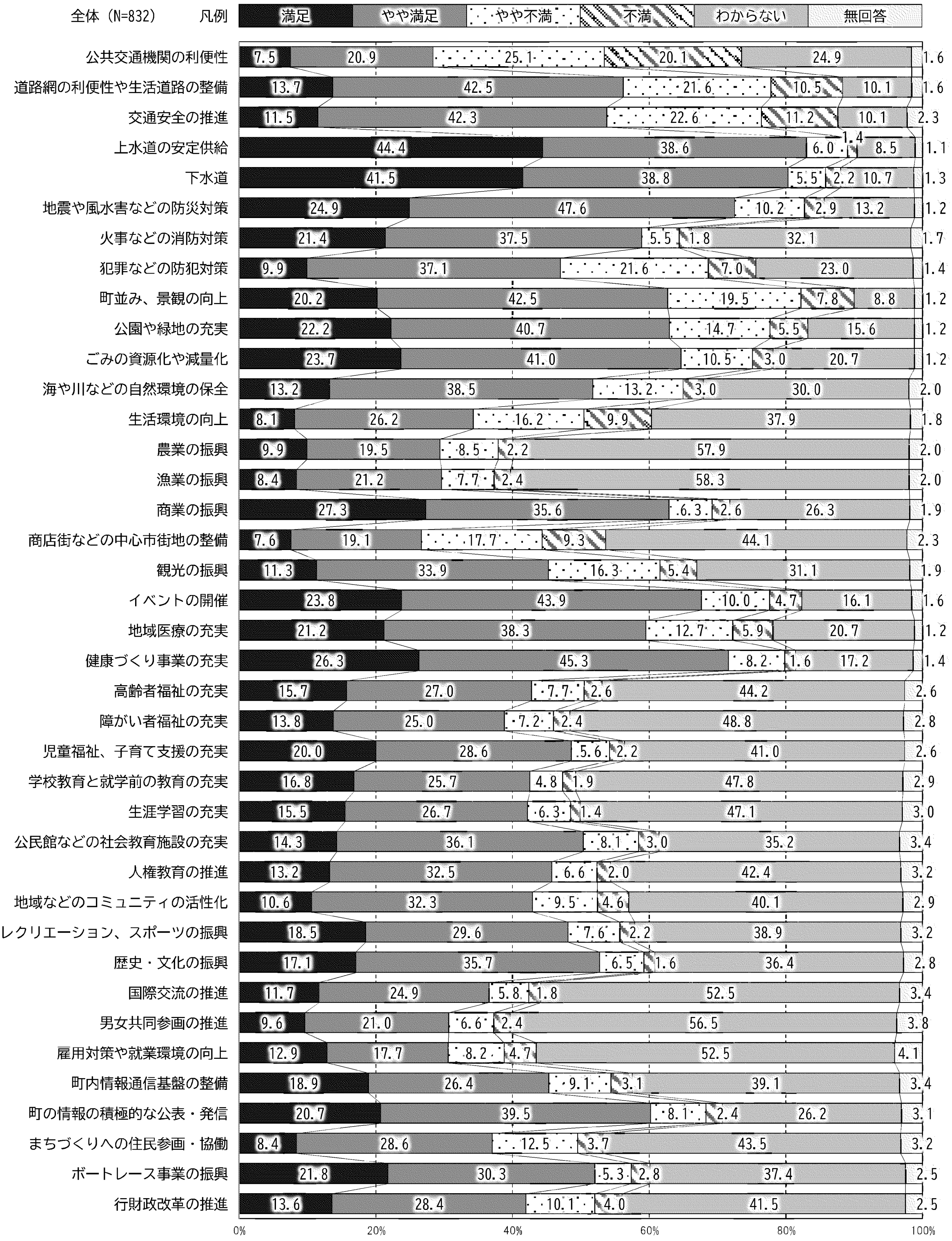
	項目	代表的な事業など
1	公共交通機関の利便性	・町内を運行する北九州市営バス、芦屋タウンバスの路線や運行本数、巡回バスの運行など
2	道路網の利便性や生活道路の整備	・幹線道路、身近な生活道路の利便性、整備の状態など
3	交通安全の推進	・交通安全運動の実施、カーブミラーや道路照明などの交通安全施設の設置状況など
4	上水道の安定供給	・北九州市による水道の安全・安定供給など
5	下水道	・下水道施設の整備状況など
6	地震や風水害などの防災対策	・自主防災組織への支援、防災訓練の実施、防災無線や防災マップの整備、避難所の設置状況など
7	火事などの消防対策	・迅速な消火活動、消防団活動の支援など
8	犯罪などの防犯対策	・自治防犯組合などの町内巡回活動の支援、見回りの強化、防犯街灯や防犯カメラの設置など
9	町並み、景観の向上	・花壇の整備、街路樹の剪定、誘導看板や総合案内板などの整備状況など
10	公園や緑地の充実	・中央公園、海浜公園、夏井ヶ浜はまゆう公園などの維持や整備など
11	ごみの資源化や減量化	・自治区などによる資源物の集団回収奨励制度、生ごみ処理容器やダンボールコンポストなどの助成制度など
12	海や川などの自然環境の保全	・ラブアース活動（海岸線や河川の一斉清掃）など
13	生活環境の向上	・不法投棄防止パトロール、放置自転車対策、不法係留船対策など
14	農業の振興	・新規就農者への就農支援、用水路やため池などの維持や整備など
15	漁業の振興	・漁港や漁業施設の維持や整備など
16	商業の振興	・にこにこ商品券・高額商品券発行の補助、商工業者への運営や設備資金の借入支援など
17	商店街などの中心市街地の整備	・商業者への支援や企業誘致、空店舗活用の補助制度など
18	観光の振興	・国民宿舎・レジャープールアクアシアン・芦屋海水浴場の運営、観光情報の発信、芦屋港レジャー港化の推進など
19	イベントの開催	・あしや砂像展の実施、花火大会や祭りあしやなどの開催支援など
20	地域医療の充実	・芦屋中央病院の医療機器の充実や町内の医院との連携など

	項目	代表的な事業など
21	健康づくり事業の充実	・特定健診・がん検診・乳幼児健診の実施、健康・運動教室や保健指導・栄養指導の実施など
22	高齢者福祉の充実	・介護予防事業、地域交流サロン事業や配食サービスなどの在宅福祉サービスの実施など
23	障がい者福祉の充実	・公共施設のバリアフリー化、福祉タクシーチケット給付、手話通訳者の派遣、障がい児デイサービス「芦屋すてっぷくらぶ」の運営など
24	児童福祉、子育て支援の充実	・子ども医療費の助成、学童クラブの運営、保育所などの利用、子育て支援センターの運営や育児教室・相談の実施など
25	学校教育と就学前の教育の充実	・中学校３年生への放課後特別授業の実施、英語教育の充実（外国語専科教員の配置等）、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携、特別支援教育の推進、ICT（情報通信技術）教育の推進など
26	生涯学習の充実	・各公民館講座、祖父母学級、同好会活動などの推進、文化協会への活動支援など
27	公民館などの社会教育施設の充実	・中央公民館、東公民館、山鹿公民館、図書館、町民会館などの運営など
28	人権教育の推進	・人権まつり、人権講演会の実施、人権カレンダーの発行や人権啓発の実施など
29	地域などのコミュニティの活性化	・自治区活動への支援、自治区担当職員制度（職員が地域活動に参加し、町民による自主的な地域づくりのサポートを行う活動）の推進など
30	レクリエーション、スポーツの振興	・総合体育館・小体育館などの体育施設の管理運営、スロートレーニングなど健康づくり講座の開催、スポーツ大会や体育協会への支援など
31	歴史・文化の振興	・芦屋釜復興への取り組み、芦屋釜の里の運営やさくらコンサートなどの事業、歴史の里の運営や企画展の実施、ギャラリーあしやの運営など
32	国際交流の推進	・国際交流協会への支援、小学生を対象とした英語体験活動の実施、中学生を対象とした英語研修（ホームステイ・国内研修）事業など
33	男女共同参画の推進	・男女共同参画社会の実現に向けての啓発や講演会の実施など
34	雇用対策や就業環境の向上	・企業誘致を促進する条例、創業等促進支援事業補助金制度など
35	町内情報通信基盤の整備	・芦屋釜の里、レジャープールアクアシアン、マリンテラスあしや、町民会館、総合体育館、中央公民館、役場庁舎への無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備
36	町の情報の積極的な公表・発信	・広報あしやの発行、出前町長室、出前講座、町のホームページ、公式LINEなどの各種SNS運営、KBCテレビｄボタン広報誌、地域情報伝達システムの戸別受信機など
37	まちづくりへの住民参画・協働	・住民と行政との情報の共有、パブリックコメントの実施、計画などへの住民の意見の反映など
38	ボートレース事業の振興	・売上向上に向けた取り組み（電話投票の拡大、キャッシュレス投票の促進）、来場者増加に向けた取り組み（各種イベント、モーヴィ芦屋）、夢リアホールの活用、無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備など
39	行財政改革の推進	・自主財源の確保、効率的な行政運営の推進など

（1）満足度

満足度が高い取り組み（満足、やや満足を回答）は、「上水道の安定供給」（83.0%）、「下水道」（80.3%）、「地震や風水害などの防災対策」（72.5%）、「健康づくり事業の充実」（71.6%）、「イベントの開催」（67.7%）などとなっています。

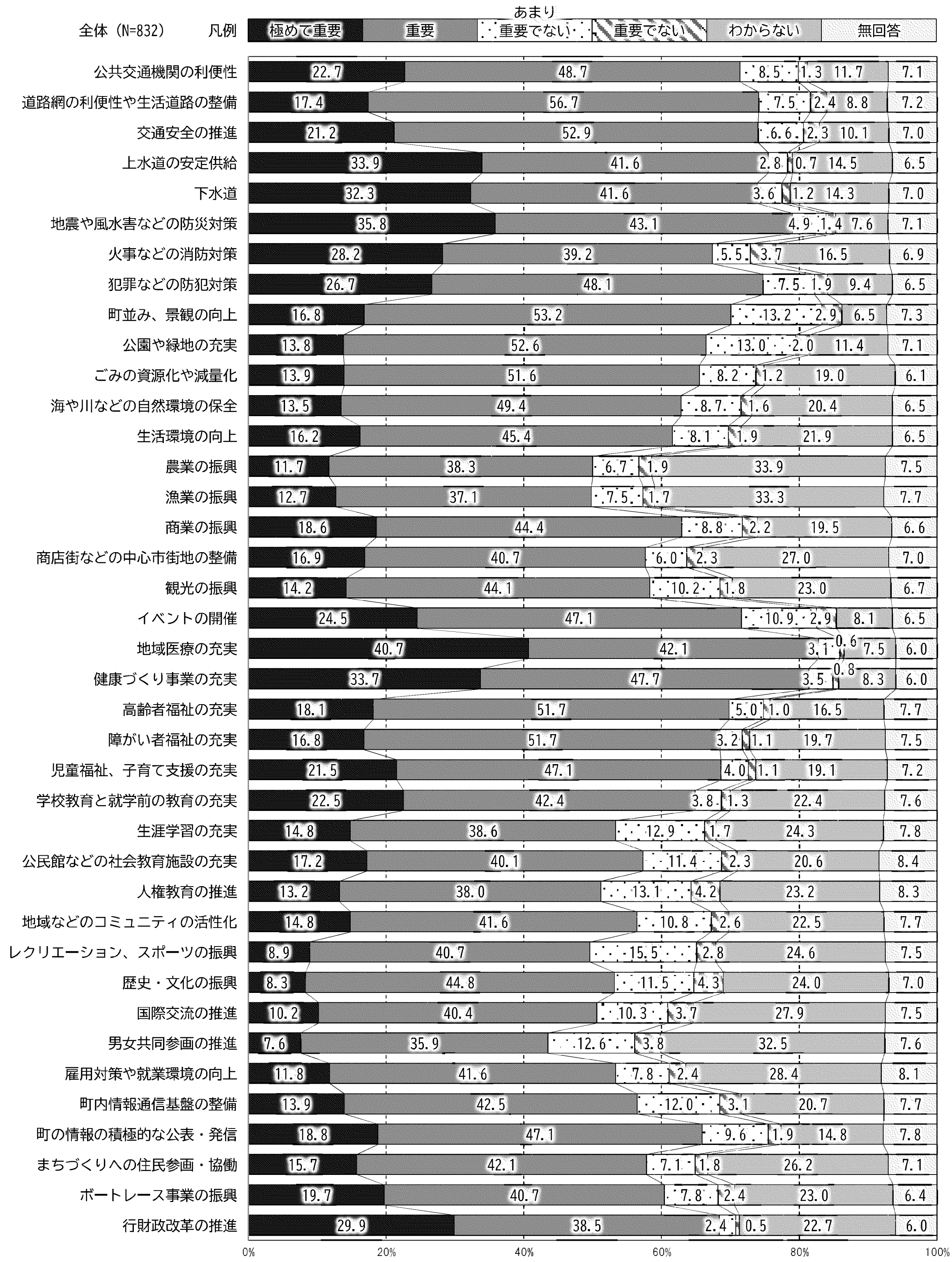
一方、満足度が低い取り組み（やや不満、不満を回答）は、「公共交通機関の利便性」（45.2%）、「交通安全の推進」（33.8%）、「道路網の利便性や生活道路の整備」（32.1%）、「犯罪などの防犯対策」（28.6%）、「町並み、景観の向上」（27.3%）などとなっています。



（２）重要度

重要度が高い取り組み（極めて重要、重要を回答）は、「地域医療の充実」(82.8%)、「健康づくり事業の充実」(81.4%)、「地震や風水害などの防災対策」(78.9%)、「上水道の安定供給」(75.5%)、「犯罪などの防犯対策」(74.8%）などとなっています。

一方、重要度が低い取り組み（あまり重要でない、重要でないを回答）は、「レクリエーション、スポーツの振興」(18.3%)、「人権教育の推進（17.3%)」、「男女共同参画の推進（16.4%)」、「町並み、景観の向上」(16.1%)、「歴史・文化の振興」(15.8%）などとなっています。



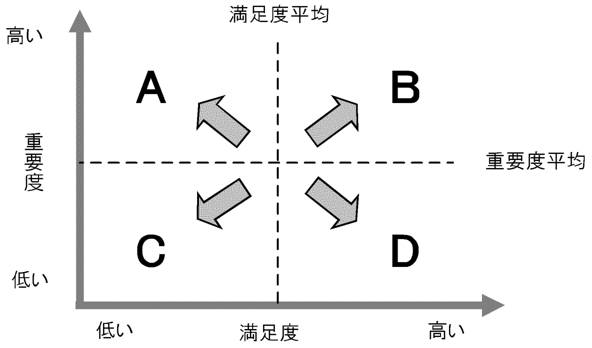
満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度は以下に示す平均評定値（加重平均値）を算出する方法で点数化しています。

○「満足度」については「満足」「やや満足」への回答とともに、「やや不満」「不満」という選択肢もあります。このため、「満足度」をより的確に分析するために、平均評定値による指標化を行いました。
○平均評定値は、「満足」に４点、「やや満足」に３点、「やや不満」に２点、「不満」に１点の係数（ウエイト）を設定し、
【「満足」の回答件数×４点＋「やや満足」の回答件数×３点＋「やや不満」の回答件数×２点＋「不満」の回答件数×1 点】÷【回答者件数－無回答件数－「わからない」の回答件数】の計算によって算出し、指標としています。
○この指標によって、「満足度」の強弱をより明確に分析することが可能です。
○「重要度」についても、同様の算出方法で平均評定値を算出しています。

満足度と重要度それぞれの平均評定値に基づき、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、39 の項目を散布図上に示したものが相関図です。

縦軸に重要度、横軸に満足度をとった相関図では、満足度と重要度を４つの区画上に示すことで、各項目の位置づけを整理します。満足度と重要度の各々の平均を示す点から左上（A）、右上（B）、左下（C）、右下（D）の４方向に進むに従い、以下の傾向を示しています。



A．重要度が高く、満足度が低い（重点化･見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、項目の重点化や抜本的な見直しなども含め満足度を高める必要のある領域です。

「地域医療の充実」、「行財政改革の推進」、「犯罪などの防犯対策」、「公共交通機関の利便性」、「交通安全の推進」、「商店街などの中心市街地の整備」が該当します。

B．重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域です。

「上水道の安定供給」、「下水道」、「健康づくり事業の充実」、「地震や風水害などの防災対策」、「学校教育と就学前の教育の充実」、「児童福祉・子育て支援の充実」などが該当します。

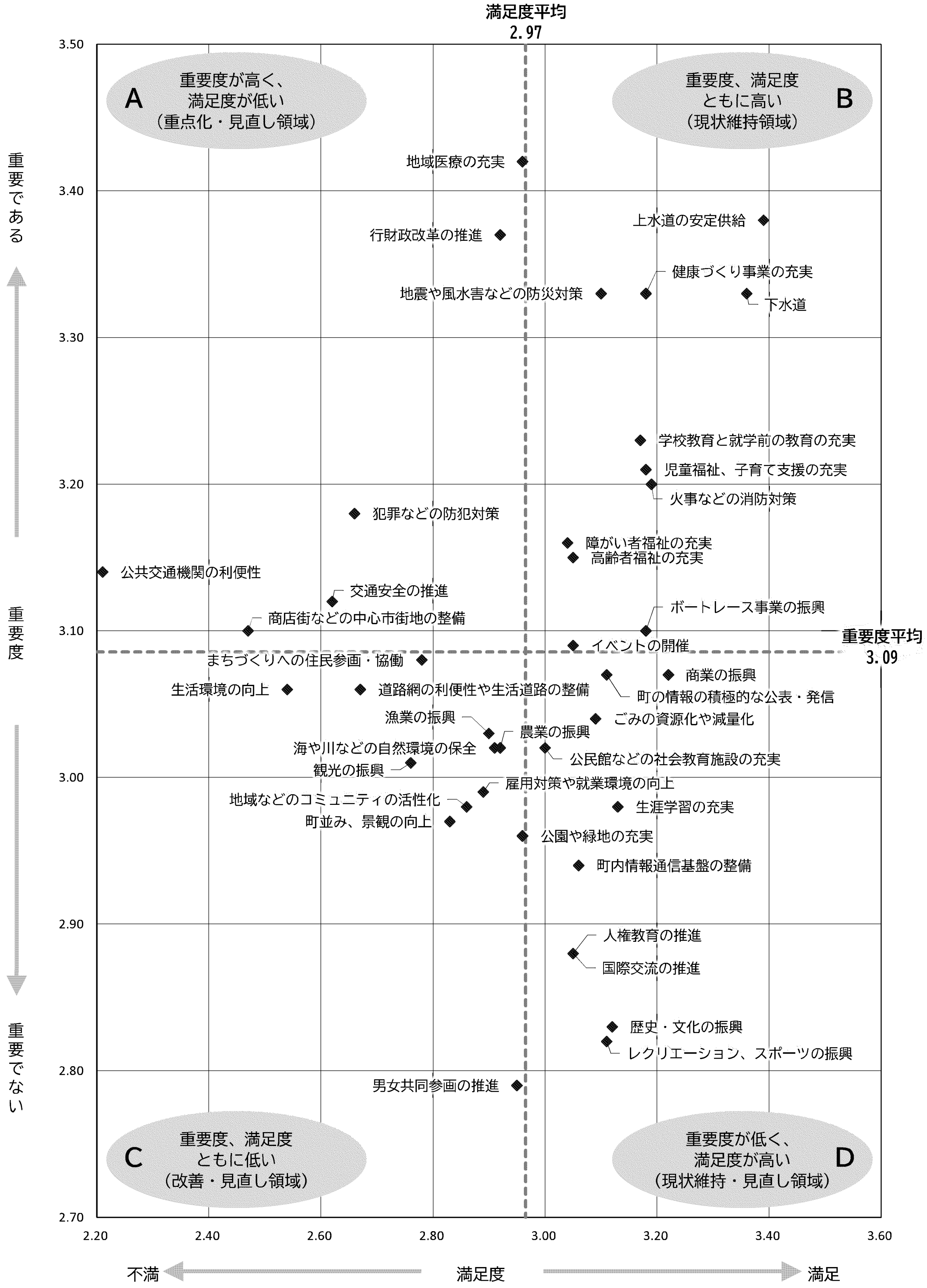
C．重要度、満足度ともに低い（改善･見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、項目の目的やニーズを再確認するとともに、項目のあり方や進め方そのものをあらためて見直す必要のある領域です。
「まちづくりへの住民参画・協同」、「道路網の利便性や生活道路の整備」、「生活環境の向上」、「漁業の振興」、「農業の振興」、「海や川などの自然環境の保全」などが該当します。

D．重要度が低く、満足度が高い（現状維持･見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは項目のあり方を含めて見直すべき必要のある領域です。
「商業の振興」、「町の情報の積極的な公表・発信」、「ごみの資源化や減量化」、「公民館などの社会教育施設の充実」、「生涯学習の充実」などが該当します。

◆満足度と重要度の相関図による分析◆



■過年度比較

【平均評定値】	満足度				重要度			
	H21	H26	R元	R４	H21	H26	R元	R４
平均	2.65	2.70	2.72	2.97	3.00	2.99	3.04	3.09
公共交通機関の利便性	2.25	1.99	1.98	2.21	3.18	3.21	3.27	3.14
道路網の利便性や生活道路の整備	2.80	2.72	2.67	2.67	2.97	3.05	3.08	3.06
交通安全の推進	2.73	2.59	2.52	2.62	3.14	3.19	3.21	3.12
上水道の安定供給	3.25	3.22	3.30	3.39	3.25	3.26	3.38	3.38
下水道	3.27	3.23	3.28	3.36	3.28	3.27	3.36	3.33
地震や風水害などの防災対策	2.49	2.56	2.61	3.10	3.35	3.38	3.39	3.33
火事などの消防対策	3.02	3.06	3.11	3.19	3.31	3.34	3.38	3.20
犯罪などの防犯対策	2.53	2.58	2.46	2.66	3.33	3.32	3.36	3.18
町並み、景観の向上	2.58	2.74	2.64	2.83	2.80	2.82	2.88	2.97
公園や緑地の充実	2.40	2.61	2.93	2.96	2.97	2.81	2.82	2.96
ごみの資源化や減量化	2.76	2.93	2.85	3.09	3.21	2.90	2.98	3.04
海や川などの自然環境の保全	2.69	2.81	2.86	2.91	3.16	3.01	3.03	3.02
生活環境の向上	2.40	2.32	2.33	2.54	3.09	3.09	3.07	3.06
農業の振興	2.78	2.83	2.62	2.92	2.85	2.80	2.92	3.02
漁業の振興	2.74	2.78	2.62	2.90	2.83	2.82	2.94	3.03
商業の振興	2.46	2.63	2.54	3.22	2.90	2.76	2.78	3.07
商店街などの中心市街地の整備	2.05	2.08	1.86	2.47	3.08	3.02	3.02	3.10
観光の振興	2.62	2.49	2.61	2.76	2.95	3.00	3.03	3.01
イベントの開催	2.51	2.73	2.92	3.05	2.93	2.94	2.96	3.09
地域医療の充実	2.56	2.22	2.62	2.96	3.46	3.38	3.41	3.42
健康づくり事業の充実	2.82	2.98	3.07	3.18	3.24	3.20	3.27	3.33
高齢者福祉の充実	2.76	2.74	2.78	3.05	3.14	3.17	3.19	3.15
障がい者福祉の充実	2.75	2.79	2.70	3.04	3.06	3.14	3.20	3.16
児童福祉、子育て支援の充実	2.72	2.83	2.97	3.18	3.08	3.19	3.22	3.21
学校教育と就学前の教育の充実	2.85	2.86	2.97	3.17	3.06	3.26	3.33	3.23
生涯学習の充実	2.80	2.83	2.85	3.13	2.68	2.81	2.84	2.98
公民館などの社会教育施設の充実	2.72	2.86	2.86	3.00	2.73	2.88	2.87	3.02
人権教育の推進	2.80	2.83	2.80	3.05	2.62	2.60	2.59	2.88
地域などのコミュニティの活性化	2.64	2.71	2.70	2.86	2.57	2.72	2.83	2.98
レクリエーション、スポーツの振興	2.75	2.86	2.85	3.11	2.55	2.73	2.84	2.82
歴史・文化の振興	2.79	2.82	2.85	3.12	2.61	2.66	2.75	2.83
国際交流の推進	2.77	2.90	2.90	3.05	2.60	2.64	2.65	2.88
男女共同参画の推進	2.64	2.77	2.74	2.95	2.46	2.58	2.58	2.79
雇用対策や就業環境の向上	2.15	2.40	2.19	2.89	3.18	3.04	3.03	2.99
町内情報通信基盤の整備	2.44	2.55	2.59	3.06	2.87	2.80	2.87	2.94
町の情報の積極的な公表・発信	2.80	2.78	2.83	3.11	2.98	2.93	2.95	3.07
まちづくりへの住民参画・協働	2.46	2.50	2.43	2.78	3.03	2.95	2.99	3.08
ボートレース事業の振興	2.38	2.67	2.73	3.18	2.79	2.78	2.92	3.10
行財政改革の推進	2.32	2.41	2.34	2.92	3.14	3.21	3.29	3.37

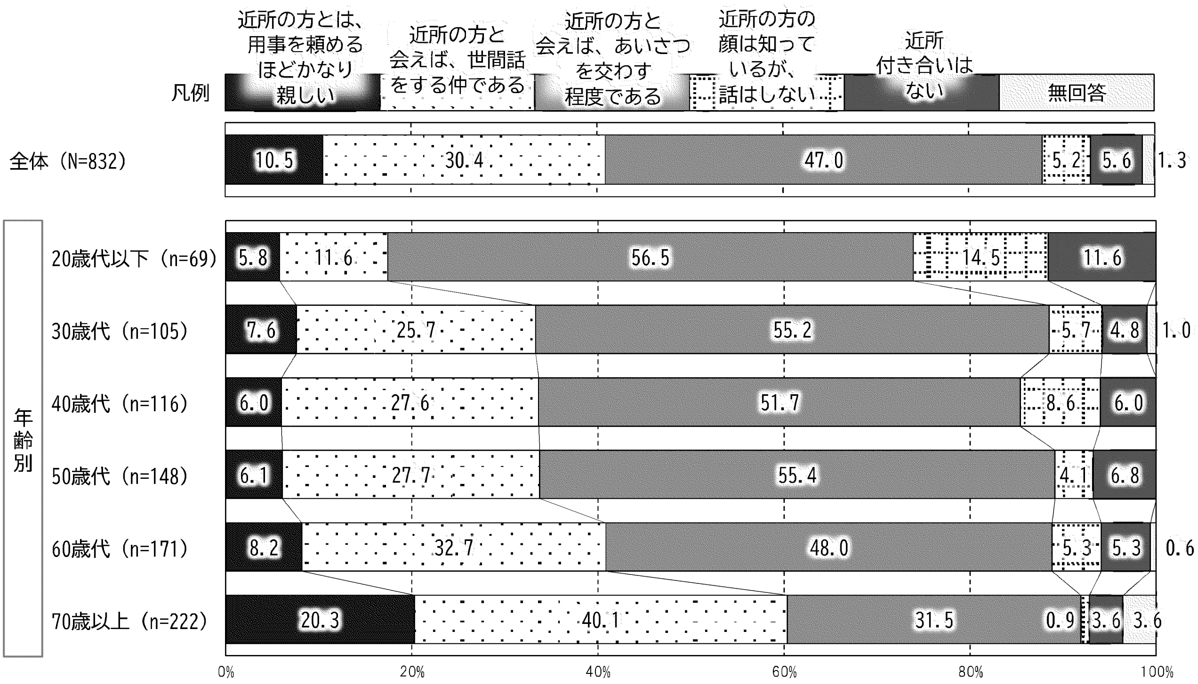
4. その他、まちの重点的な取り組みなどについて

◆地域について

問10　ふだん近所の方とどの程度の付き合いをされていますか。（１つに○）

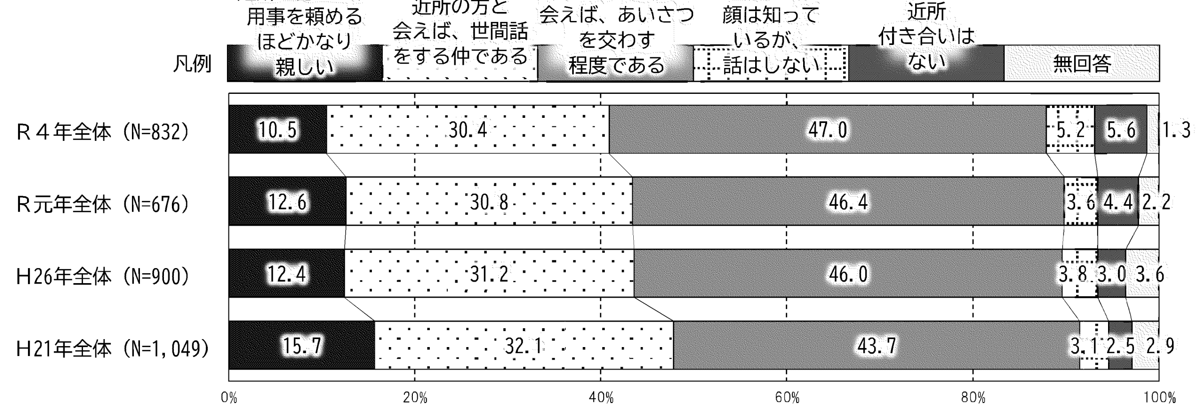
近所との付き合いの程度をみると、「近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である」の割合が47.0%で最も高く、次いで「近所の方と会えば、世間話をする仲である」が30.4%、「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」が10.5%などの順となっています。

年齢別でみると、唯一20歳代以下で「近所の方の顔は知っているが、話はしない」（14.5%）や「近所付き合いはない」（11.6%）の割合が10%を超えています。「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」は、70歳以上で20.3%と突出して高くなっています。



■過年度比較

過年度で比較すると、「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」の割合が低下傾向となっています。



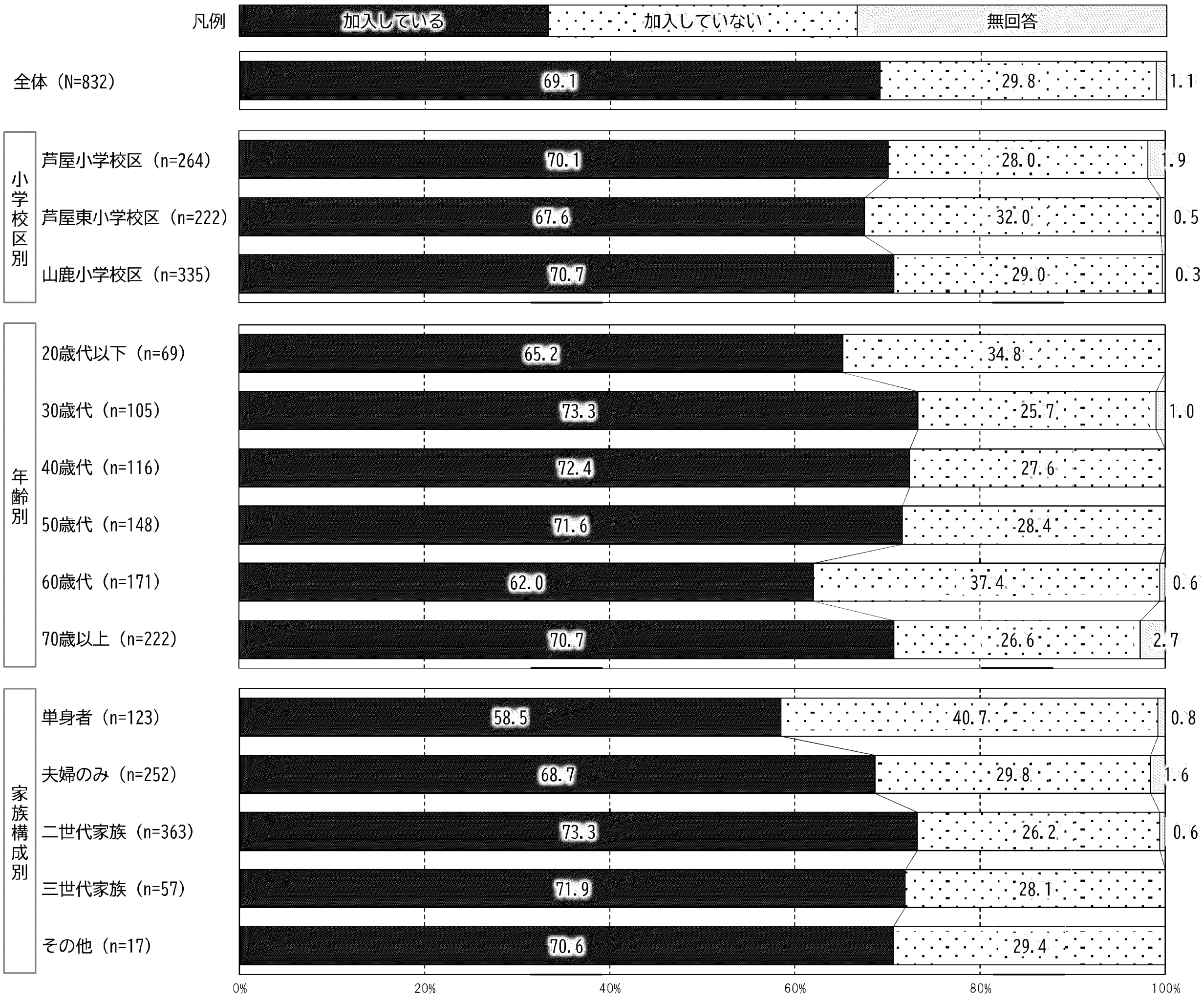
問 11　自治区に加入していますか。（１つに○）

自治区の加入状況をみると、「加入している」の割合（以下、「加入率」）は 69.1％で、約７割を占めています。

小学校区別でみると、「加入率」はどの校区も約７割となっています。

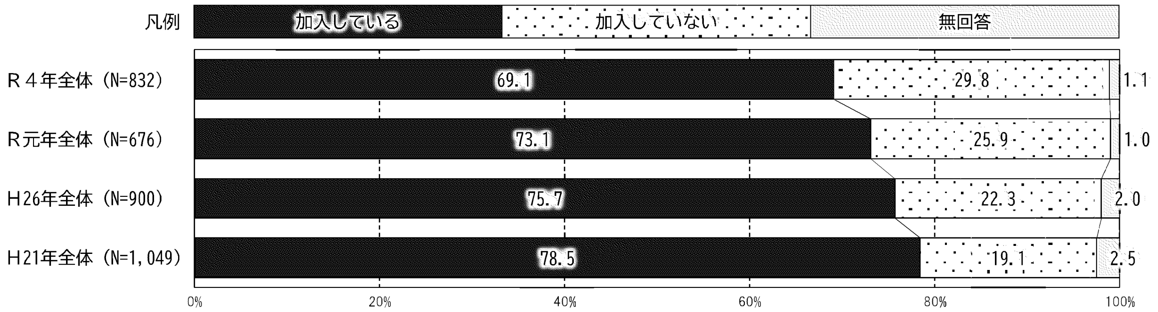
年齢別でみると、「加入率」は 60 歳代（62.0％）や 20 歳代以下（65.2％）でやや低めです。

家族構成別でみると、単身者の「加入率」が 58.5％で、他と比べて低くなっています。



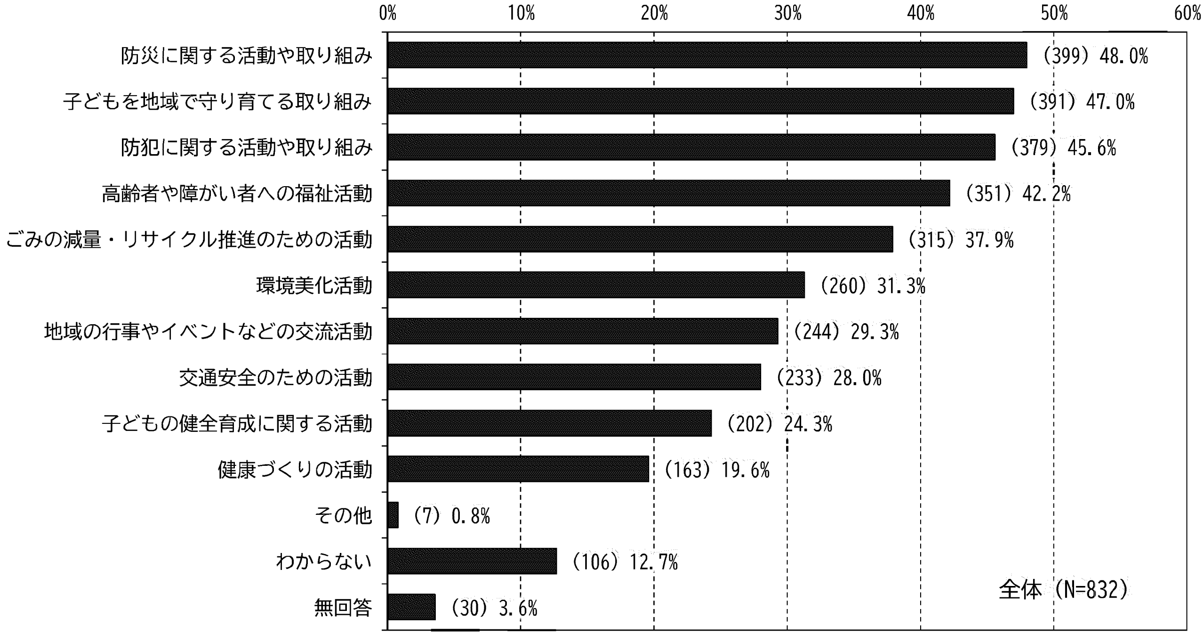
■過年度比較

過年度で比較すると、「加入率」は低下傾向となっています。



問 12　自治区の活動に今後どのような活動が必要だと思いますか。（複数回答）

自治区に今後必要な活動をみると、「防災に関する活動や取り組み」の割合が 48.0％で最も高く、次いで「子どもを地域で守り育てる取り組み」が 47.0％、「防犯に関する活動や取り組み」が 45.6％、「高齢者や障がい者への福祉活動」が 42.2％などの順となっています。



小学校区別や性別でみて、大きな差はありません。

年齢別でみると、20 歳代以下～40 歳代は「子どもを地域で守り育てる取り組み」、50 歳代、60 歳代は「防災に関する活動や取り組み」、70 歳以上は「高齢者や障がい者への福祉活動」の割合が高くなっています。

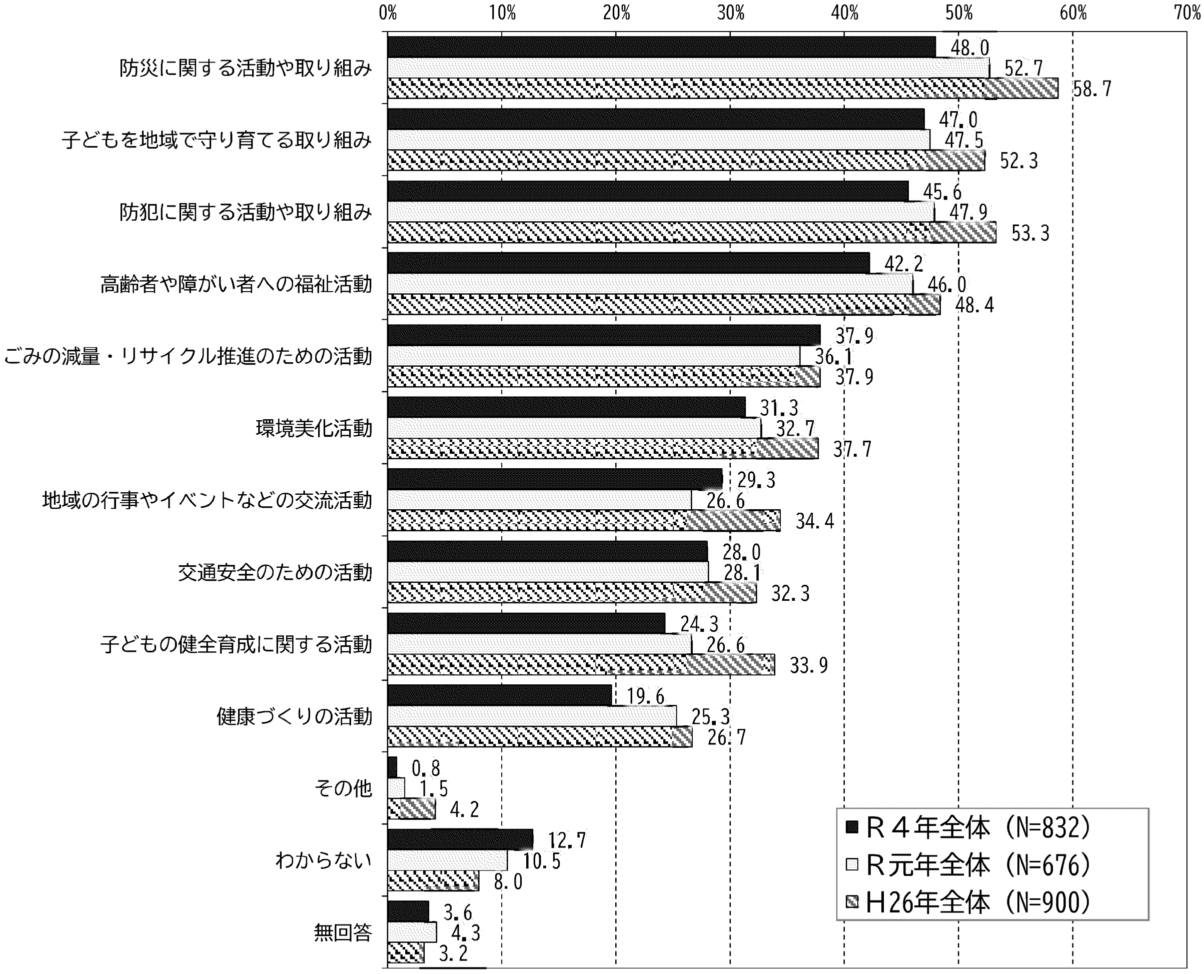
単位：%

		サンプル数（人）	防災に関する活動や取り組み	子どもを地域で守り育てる取り組み	防犯に関する活動や取り組み	高齢者や障がい者への福祉活動	ごみの減量・リサイクル推進のための活動	環境美化活動	地域の行事やイベントなどの交流活動	交通安全のための活動	子どもの健全育成に関する活動	健康づくりの活動	その他	わからない	無回答
全体		832	48.0	47.0	45.6	42.2	37.9	31.3	29.3	28.0	24.3	19.6	0.8	12.7	3.6
小学校区別	芦屋小学校区	264	47.3	48.9	47.3	42.4	35.6	32.2	29.9	26.9	23.9	18.6	0.4	11.0	4.9
	芦屋東小学校区	222	47.3	45.5	47.7	37.8	35.1	29.7	28.8	30.6	24.8	19.4	1.8	16.7	3.6
	山鹿小学校区	335	49.6	47.2	43.0	46.0	41.8	32.5	29.0	27.8	24.8	20.6	0.6	11.0	2.4
性別	男性	375	47.2	46.1	47.5	40.8	37.3	33.9	30.9	29.6	24.8	20.8	0.3	13.1	4.0
	女性	450	48.9	48.2	44.2	43.6	38.7	29.3	28.2	26.9	24.2	18.7	1.3	12.7	3.1
年齢別	20歳代以下	69	40.6	42.0	31.9	23.2	29.0	17.4	29.0	31.9	17.4	10.1	-	27.5	-
	30歳代	105	42.9	58.1	41.0	36.2	29.5	24.8	38.1	29.5	35.2	14.3	1.0	13.3	3.8
	40歳代	116	45.7	52.6	42.2	30.2	37.1	28.4	24.1	31.0	23.3	12.9	2.6	15.5	-
	50歳代	148	52.0	45.9	48.0	41.9	39.2	25.7	24.3	27.0	20.3	18.2	1.4	16.2	1.4
	60歳代	171	52.6	43.9	49.1	45.6	39.2	39.8	27.5	25.1	25.1	20.5	0.6	12.3	3.5
	70歳以上	222	47.7	43.2	49.1	55.0	43.2	37.4	32.9	27.5	23.9	28.8	-	4.5	8.1

※■は１番多い項目、□は２番目に多い項目を示している

■**過年度比較**

過年度で比較すると、多くの項目で平成 26 年度調査や令和元年度調査よりも低く、「わからない」の割合の上昇と併せて、加入率の低下とともに関心の低下がうかがえます。

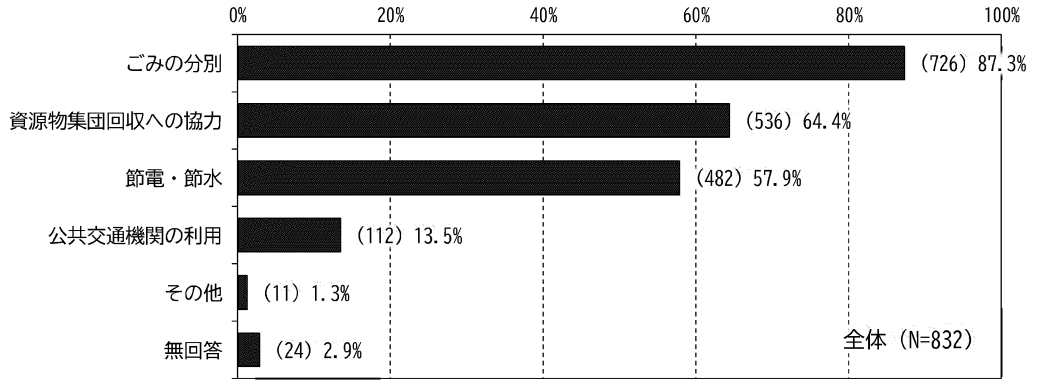


※ H21年は質問を設けていない

◆環境問題への取り組みについて

問 13　日ごろから環境問題について、どのような取り組みをされていますか。（複数回答）

環境問題への取り組みをみると、「ごみの分別」の割合が 87.3%で最も高く、次いで「資源物集団回収への協力」が 64.4%「節電・節水」が 57.9%などの順となっています。



小学校区別でみると、「公共交通機関の利用」の割合が山鹿小学校区で 8.4%とやや低くなっています。

性別でみると、大きな差はないものの、「節電・節水」や「公共交通機関の利用」の割合は女性の方が男性よりもやや高くなっています。

年齢別でみると、20 歳代以下の若い世代では「資源物集団回収への協力」の割合、30 歳代～50 歳代では「公共交通機関の利用」の割合がやや低くなっています。

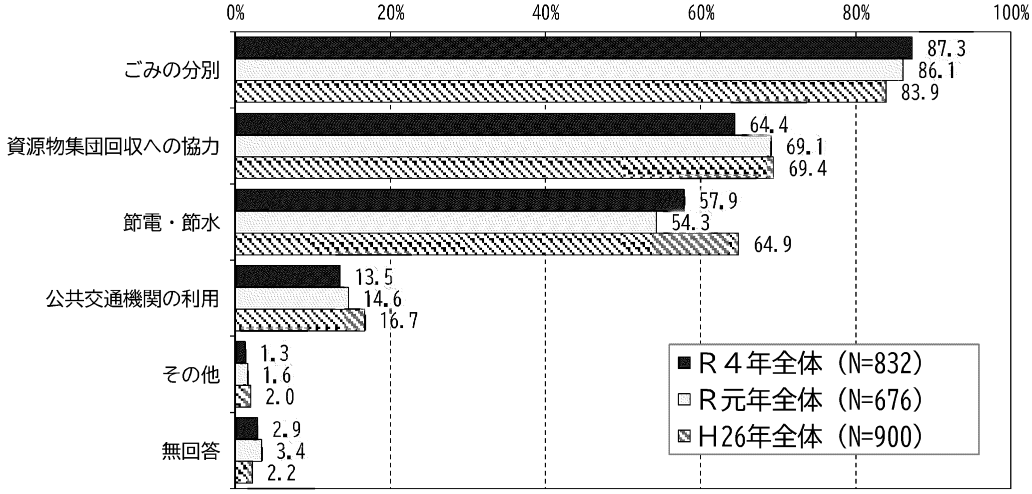
単位：%

		サンプル数（人）	ごみの分別	資源物集団回収への協力	節電・節水	公共交通機関の利用	その他	無回答
全体		832	87.3	64.4	57.9	13.5	1.3	2.9
小学校区別	芦屋小学校区	264	86.4	65.5	52.3	15.9	1.5	4.2
	芦屋東小学校区	222	86.5	62.2	62.2	18.0	0.5	2.3
	山鹿小学校区	335	89.0	66.6	59.7	8.4	1.8	2.1
性別	男性	375	86.4	63.5	54.7	11.2	1.3	3.5
	女性	450	88.4	65.8	60.9	15.1	1.3	2.2
年齢別	20歳代以下	69	89.9	31.9	52.2	23.2	1.4	1.4
	30歳代	105	87.6	52.4	48.6	6.7	1.0	2.9
	40歳代	116	85.3	62.1	56.0	6.9	－	3.4
	50歳代	148	90.5	74.3	58.1	8.8	0.7	－
	60歳代	171	91.2	67.8	60.2	14.0	1.2	1.8
	70歳以上	222	82.4	72.5	63.5	19.4	2.7	5.9

※［濃い網掛け］は１番多い項目、［薄い網掛け］は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

過年度で比較すると、「ごみの分別」は上昇傾向となっています。

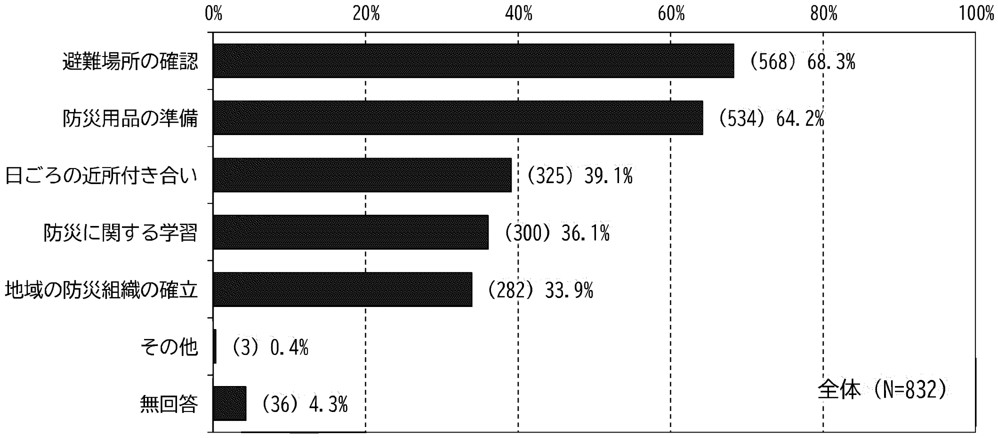


※ H21年は質問を設けていない

◆防災について

問 14-1　地震や洪水に備えてどのようなことが必要と考えていますか。（複数回答）

災害への備えをみると、「避難場所の確認」の割合が 68.3％で最も高く、次いで「防災用品の準備」が 64.2％、「日ごろの近所付き合い」が 39.1％などの順となっています。



小学校区別でみると、芦屋東小学校区では「防災用品の準備」(66.2％) の方が「避難場所の確認」(64.4％) よりも高くなっています。

性別でみると、「防災用品の準備」は女性 (69.6％) の方が男性 (57.9％) よりも 10 ポイント以上高くなっています。

年齢別でみると、30 歳代は「防災用品の準備」の割合が高く、81.0％で８割を超えています。また、70 歳以上は「日ごろの近所付き合い」が他の年齢よりも高く、51.4％で５割を超えていますが、「防災用品の準備」が他の年代よりも低くなっています。

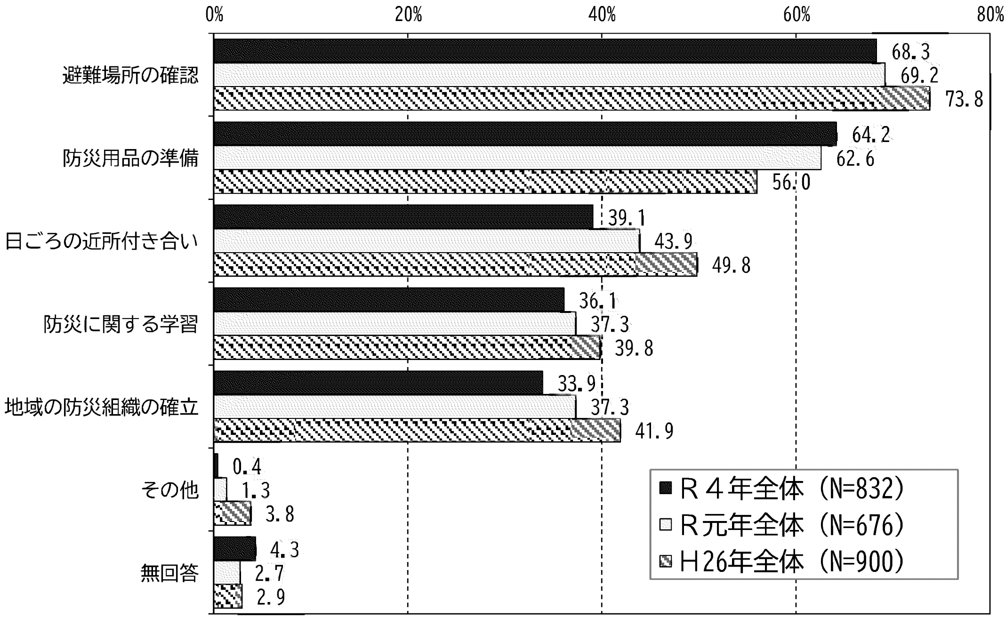
単位：％

		サンプル数（人）	避難場所の確認	防災用品の準備	日ごろの近所付き合い	防災に関する学習	地域の防災組織の確立	その他	無回答
全体		832	68.3	64.2	39.1	36.1	33.9	0.4	4.3
小学校区別	芦屋小学校区	264	72.0	61.7	36.7	37.5	34.1	0.4	3.8
	芦屋東小学校区	222	64.4	66.2	38.3	37.4	30.6	－	3.6
	山鹿小学校区	335	68.4	64.8	42.4	34.3	36.1	0.6	4.8
性別	男性	375	69.1	57.9	38.4	35.7	36.3	0.3	4.8
	女性	450	68.2	69.6	39.8	36.4	32.0	0.4	3.6
年齢別	20歳代以下	69	76.8	72.5	23.2	44.9	24.6	－	－
	30歳代	105	75.2	81.0	30.5	40.0	36.2	－	－
	40歳代	116	67.2	65.5	31.9	45.7	29.3	0.9	3.4
	50歳代	148	71.6	66.2	34.5	35.1	34.5	0.7	3.4
	60歳代	171	67.3	66.1	43.9	35.7	33.9	－	2.3
	70歳以上	222	61.7	50.5	51.4	27.5	37.8	0.5	9.9

※ ▇は１番多い項目、▢は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

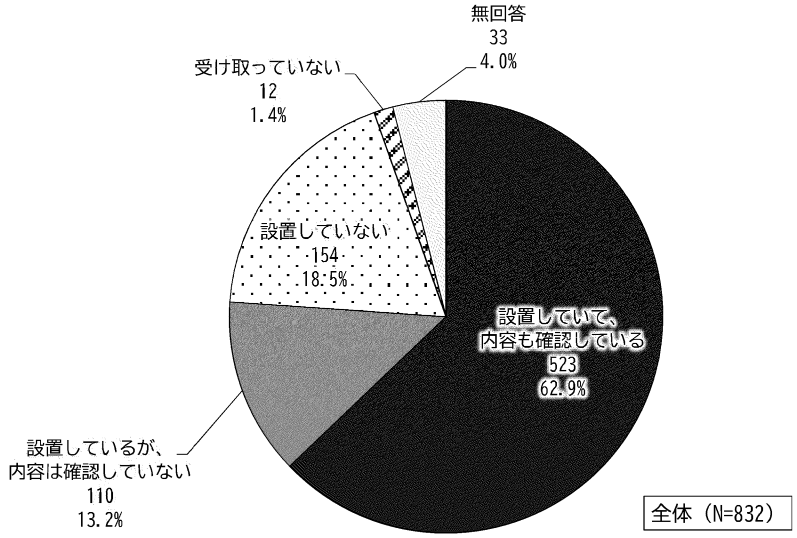
過年度で比較すると、「防災用品の準備」のみ上昇傾向となっています。



※ H21年は質問を設けていない

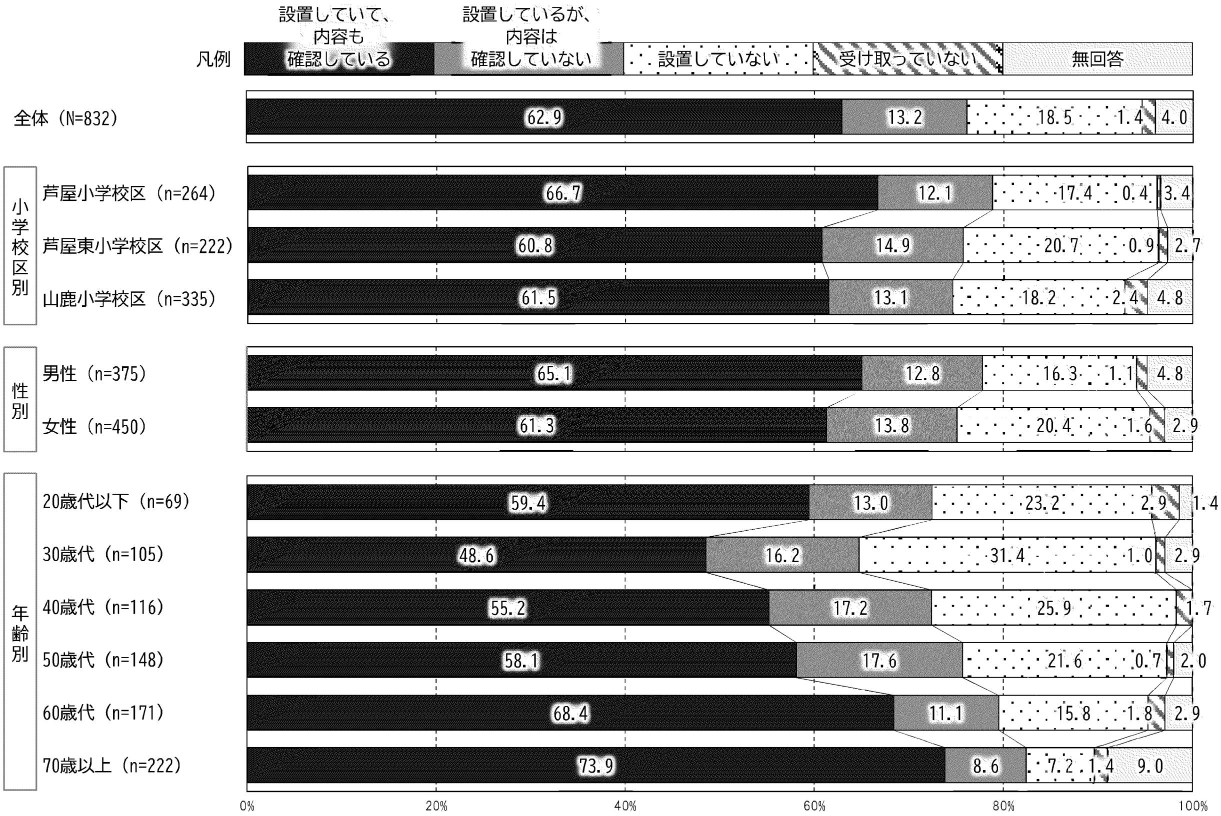
問 14-2　地域情報伝達システムの戸別受信機の設置状況について教えてください。（１つに○）

戸別受信機の設置状況をみると、「設置していて、内容も確認している」の割合は 62.9%、「設置しているが内容は確認していない」は 13.2%で、２つを合わせた『設置している』の割合は 76.1%となっています。一方、「設置していない」は 18.5%、「受け取っていない」は 1.4%となっています。



小学校区別、性別でみると、大きな差はなく、『設置している』は７割を超えています。

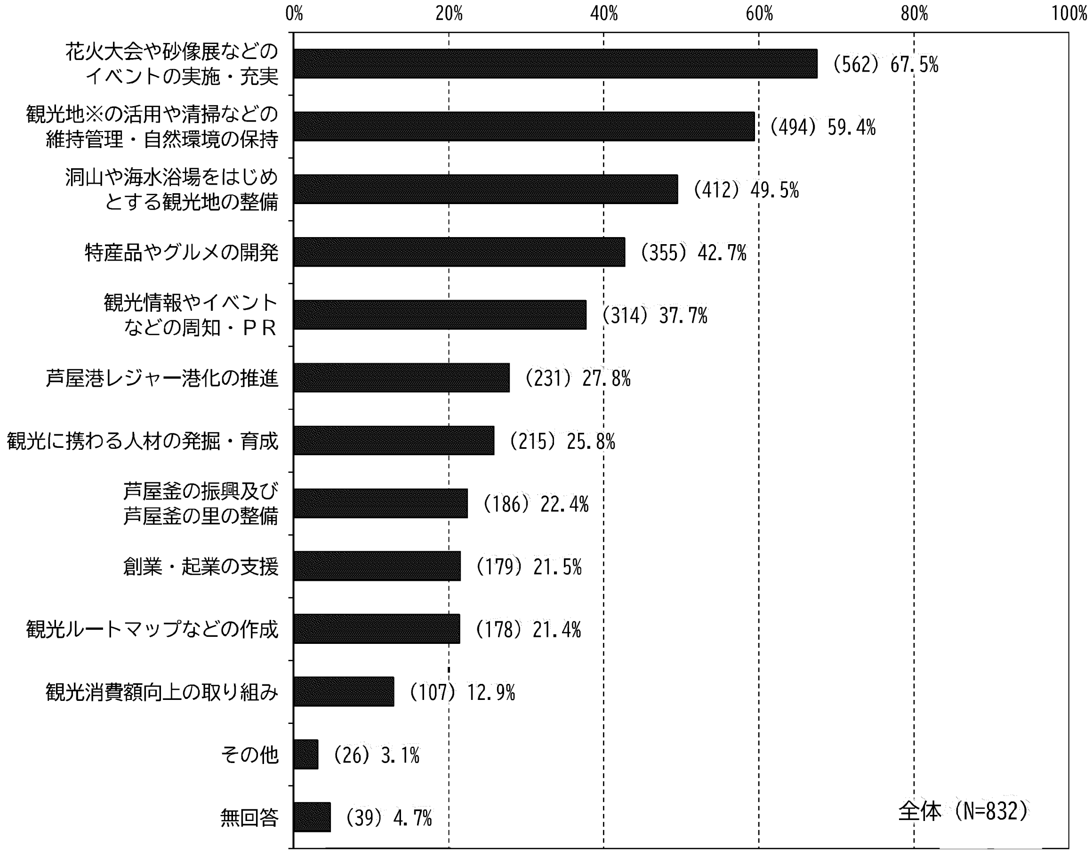
年齢別でみると、『設置している』は 30 歳代が 64.8%で最も低く、それ以上の年代では年齢が高くなるほどその割合も高くなっており、70 歳以上の 82.5%が最も高くなっています。



◆観光の活性化について

問 15　町の観光をより推進するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

観光の活性化のためにすべき取り組みをみると、「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」の割合が 67.5％で最も高く、次いで「観光地の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」が 59.4％、「洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備」が 49.5％などの順となっています。



※ 夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など

小学校区別でみると、大きな差は無いものの、芦屋東小学校区では「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」（71.6％）、山鹿小学校区では「観光地の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」（63.0％）の割合が他の校区よりもやや高くなっています。

性別でみると、大きな差は無いものの、男性は「芦屋港レジャー港化の推進」の割合が 33.3％で、女性（23.3％）よりも 10 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、30 歳代は多くの項目で全体よりも高い割合となっており、特に「洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備」（64.8％）や「芦屋港レジャー港化の推進」（41.9％）などで他の年代よりも高くなっています。

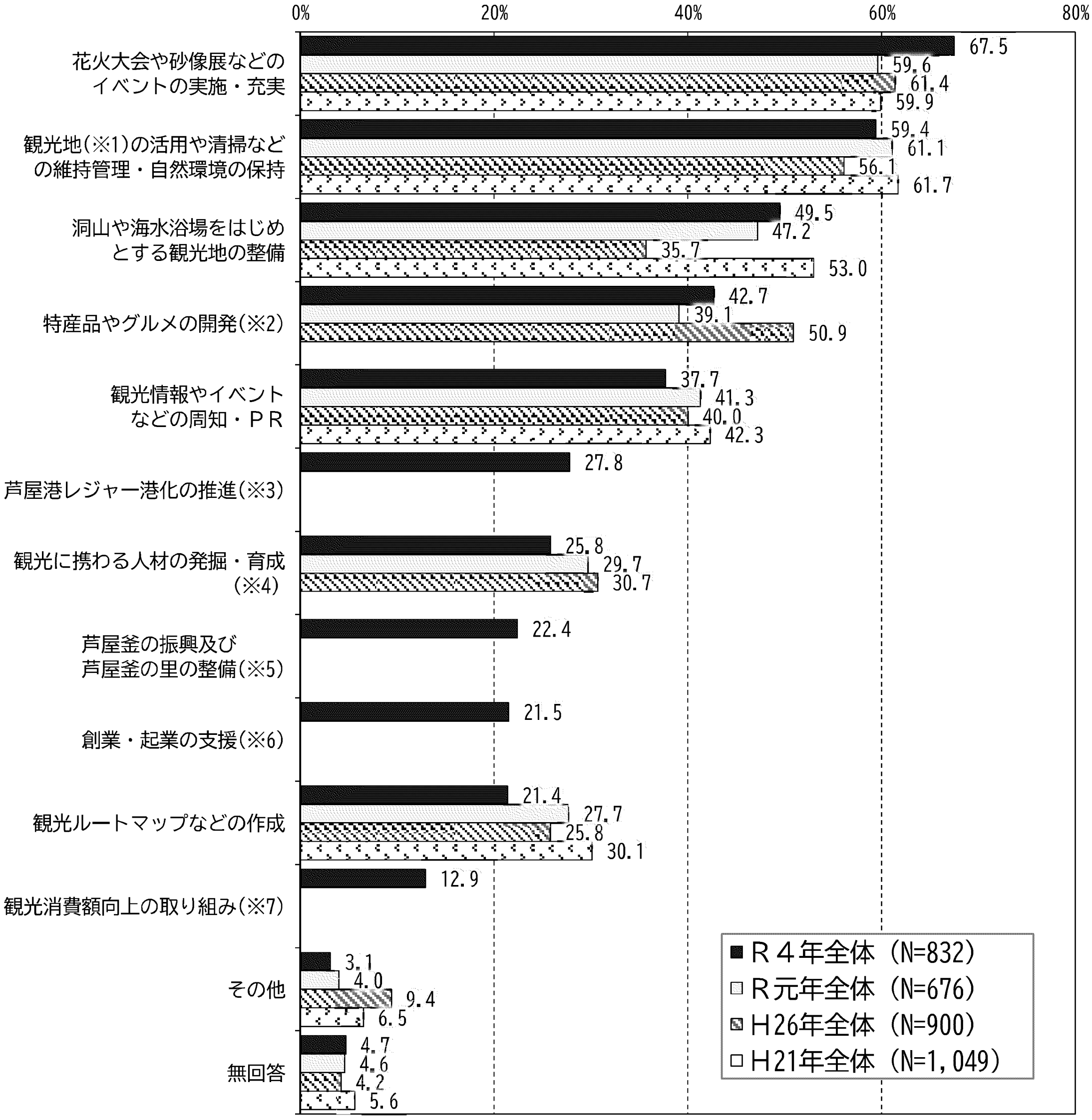
単位：％

		サンプル数（人）	花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実	観光地※の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持	洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備	特産品やグルメの開発	観光情報やイベントなどの周知・PR	芦屋港レジャー港化の推進	観光に携わる人材の発掘・育成	芦屋釜の振興及び芦屋釜の里の整備	創業・起業の支援	観光ルートマップなどの作成	観光消費額向上の取り組み	その他	無回答
全体		832	67.5	59.4	49.5	42.7	37.7	27.8	25.8	22.4	21.5	21.4	12.9	3.1	4.7
小学校区別	芦屋小学校区	264	64.8	56.8	45.8	38.3	39.0	27.3	26.5	22.0	23.1	20.5	15.9	3.8	4.9
	芦屋東小学校区	222	71.6	57.7	50.0	46.4	35.6	30.6	25.2	21.6	20.3	21.6	13.1	2.7	3.6
	山鹿小学校区	335	67.5	63.0	52.8	43.9	37.9	26.6	26.3	23.3	21.5	21.8	10.4	3.0	4.8
性別	男性	375	66.7	60.0	51.2	41.1	37.1	33.3	27.7	23.5	24.0	23.5	13.3	2.9	4.8
	女性	450	68.9	58.9	48.4	44.2	38.7	23.3	24.4	21.8	19.6	20.0	12.7	3.3	4.2
年齢別	20歳代以下	69	78.3	65.2	59.4	42.0	42.0	27.5	18.8	14.5	26.1	20.3	10.1	－	2.9
	30歳代	105	78.1	65.7	64.8	41.9	47.6	41.9	29.5	20.0	27.6	24.8	19.0	3.8	1.0
	40歳代	116	75.0	58.6	50.0	44.8	40.5	34.5	25.9	22.4	19.8	17.2	12.1	7.8	0.9
	50歳代	148	71.6	63.5	48.0	48.0	35.1	27.0	24.3	26.4	28.4	18.2	12.8	4.7	2.7
	60歳代	171	63.2	62.0	47.4	43.3	39.2	20.5	29.2	21.1	18.1	23.4	12.9	1.8	2.3
	70歳以上	222	56.3	50.5	41.9	38.3	31.1	23.9	24.8	24.3	16.2	23.0	11.3	1.4	11.7

※ ▇は１番多い項目、▢は２番目に多い項目を示している
※ 夏井ケ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など

■過年度比較

過年度で比較すると、「花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実」のみ過去の調査よりも高い割合となっています。



(※1) 夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など
(※2)「特産品やグルメの開発」はH21年調査では設定なし
(※3)「芦屋港レジャー港化の推進」はH21年、H26年、Ｒ元年では設定なし
(※4)「観光に携わる人材の発掘・育成」はH21年調査では設定なし
(※5)「芦屋釜の振興及び芦屋釜の里の整備」はH21年、H26年、Ｒ元年では設定なし
(※6)「創業・起業の支援」はH21年、H26年、Ｒ元年では設定なし
(※7)「観光消費額向上の取り組み」はH21年、H26年、Ｒ元年では設定なし

◆教育について

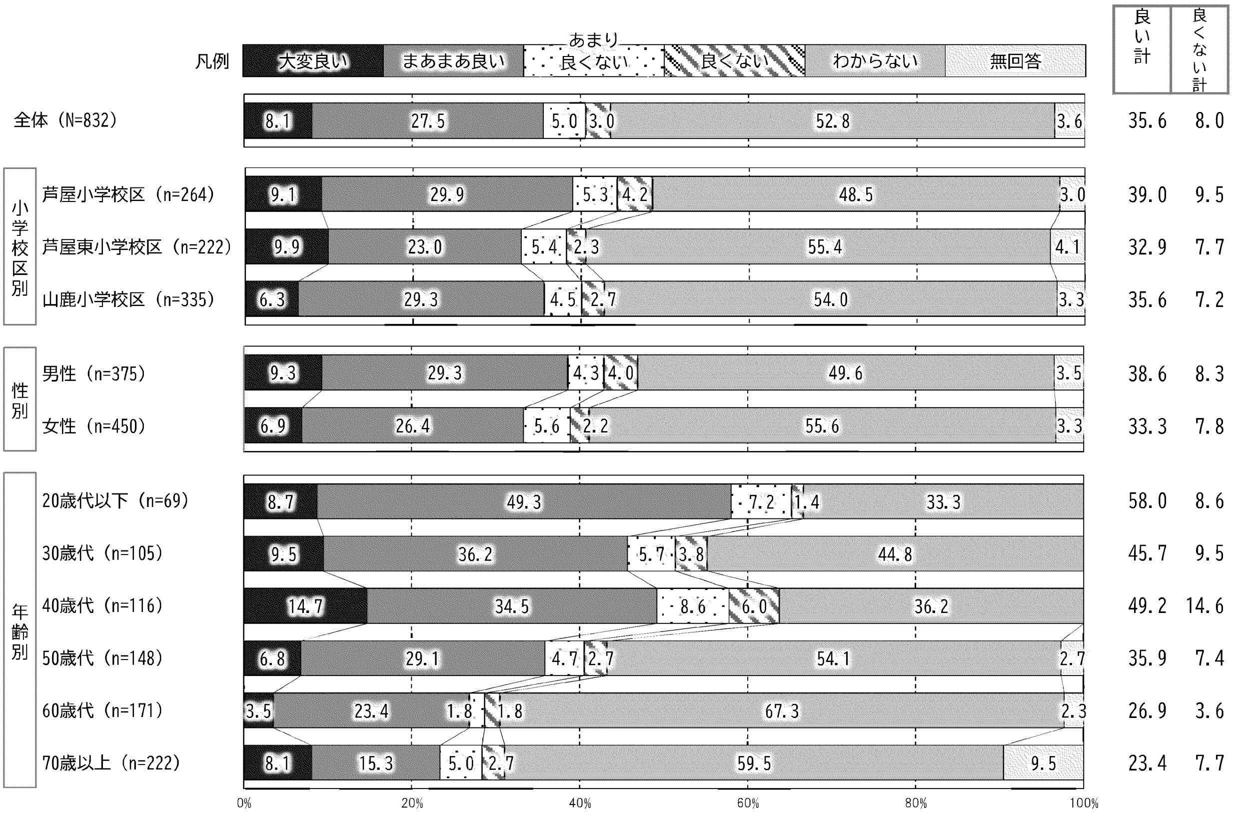
問 16　町の小中学校の教育についてどう評価しますか。（１つに○）

町の小中学校の教育に対する評価をみると、「大変良い」が 8.1%、「まあまあ良い」が 27.5%で合計 35.6%が『良い』と評価しています。一方、「あまり良くない」が 5.0%、「良くない」が 3.0%で合計 8.0%が『良くない』と評価しています。また、「わからない」は 52.8%で半数を占めています。

小学校区別でみると、『良い』の割合は芦屋小学校区の 39.0%が最も高くなっています。

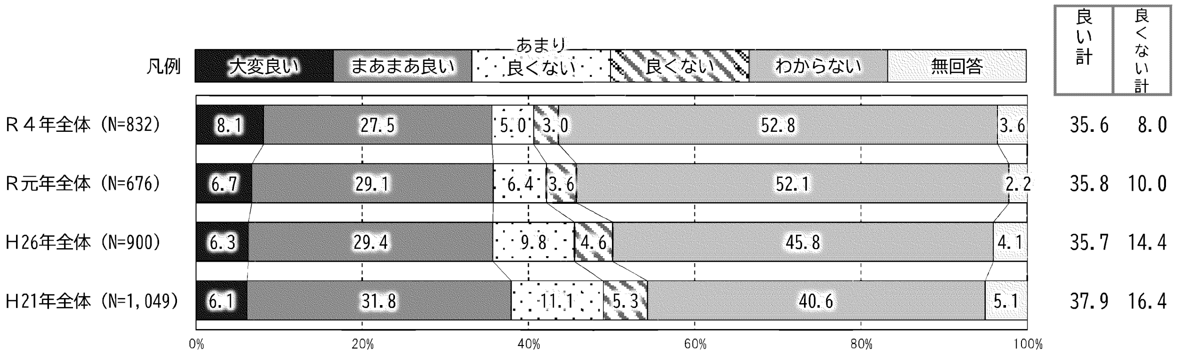
性別でみると、『良い』の割合は男性（38.6%）の方が女性（33.3%）より高くなっています。

年齢別でみると、『良い』の割合は年齢が低い方が高い傾向があり、20 歳代以下が 58.0%で最も高く、70 歳以上が 23.4%で最も低くなっています。



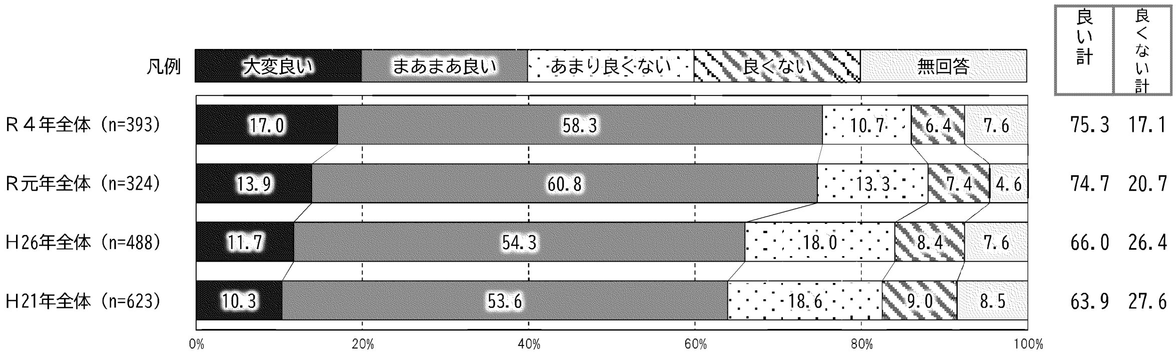
■過年度比較

過年度で比較すると、『良い』の割合に大きな変化はないものの、『良くない』は低下、「わからない」は上昇が続いています。



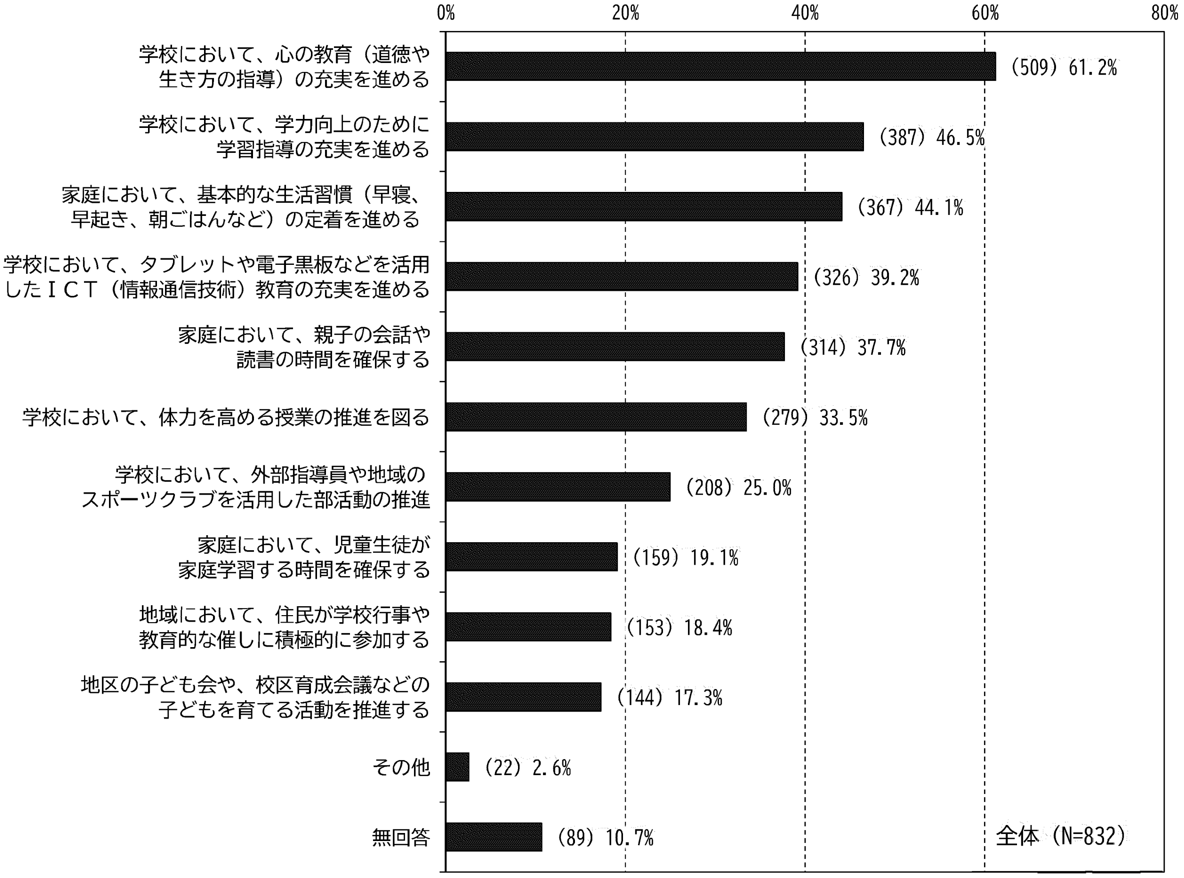
■過年度比較（参考：「わからない」を除く）

本設問については、「わからない」との回答が約５割となっています。このため、参考として「わからない」を除いた過年度比較を掲載します。



問 17　町の小中学生等に対する教育を向上するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

小中学生の教育向上のために力を入れるべきことをみると、「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」の割合が 61.2％で最も高く、次いで「学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める」が 46.5％、「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはんなど）の定着を進める」が 44.1％などの順となっています。



小学校区別でみると、大きな差はありません。

性別でみると、「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」や「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める」、「家庭において、親子の会話や読書の時間を確保する」は女性の方が男性よりも高い割合となっています。

年齢別でみると、どの年代も「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」の割合が最も高く、続くものとして 20 歳代以下では「家庭において、親子の会話や読書の時間を確保する」、30 歳代・40 歳代は「学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める」、60 歳代以上は「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める」の割合が高くなっています。

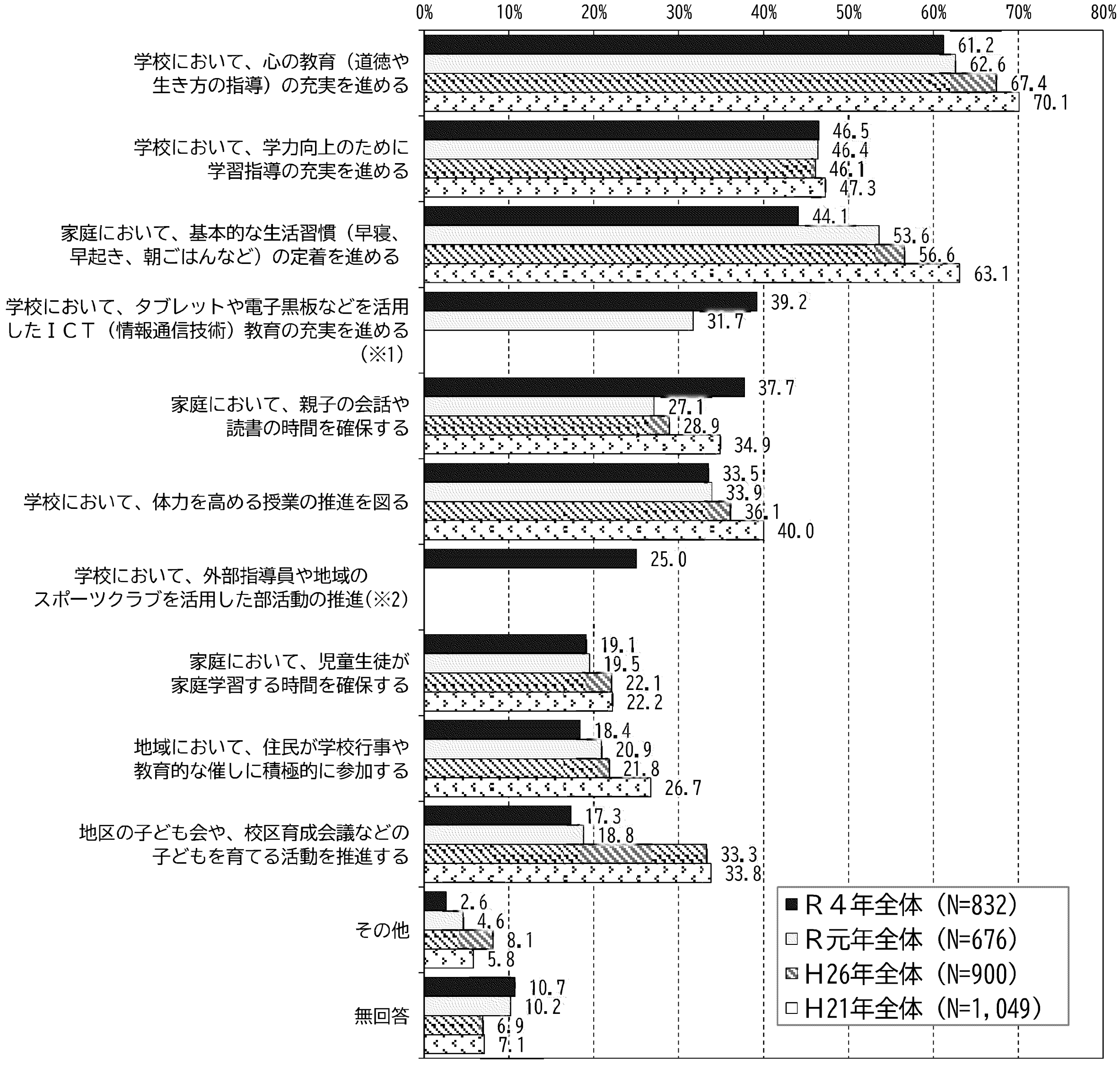
単位：%

		サンプル数（人）	学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める	学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める	家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはんなど）の定着を進める	学校において、タブレットや電子黒板などを活用したICT（情報通信技術）教育の充実を進める	家庭において、親子の会話や読書の時間を確保する	学校において、体力を高める授業の推進を図る	学校において、外部指導員や地域のスポーツクラブを活用した部活動の推進	家庭において、児童生徒が家庭学習する時間を確保する	地域において、住民が学校行事や教育的な催しに積極的に参加する	地区の子ども会や、校区育成会議などの子どもを育てる活動を推進する	その他	無回答
全体		832	61.2	46.5	44.1	39.2	37.7	33.5	25.0	19.1	18.4	17.3	2.6	10.7
小学校区別	芦屋小学校区	264	61.4	47.3	47.0	40.9	37.1	35.2	26.9	19.3	18.2	19.3	3.0	7.6
	芦屋東小学校区	222	63.5	48.6	40.5	38.3	32.4	31.1	24.3	17.6	17.6	19.4	1.8	11.3
	山鹿小学校区	335	59.7	45.4	45.4	39.7	41.5	34.6	24.5	20.3	19.4	14.6	3.0	11.9
性別	男性	375	57.9	45.1	41.6	41.9	34.4	34.7	27.2	18.1	18.4	18.4	3.2	11.2
	女性	450	64.2	48.0	46.4	37.6	40.9	32.9	23.3	20.2	18.4	16.7	2.2	9.6
年齢別	20歳代以下	69	72.5	40.6	27.5	33.3	42.0	29.0	21.7	18.8	15.9	7.2	2.9	1.4
	30歳代	105	69.5	61.9	44.8	48.6	43.8	44.8	33.3	25.7	32.4	26.7	6.7	1.0
	40歳代	116	68.1	51.7	44.0	32.8	38.8	38.8	25.0	16.4	13.8	9.5	5.2	6.0
	50歳代	148	56.8	45.3	39.9	46.6	34.5	25.0	27.7	17.6	20.3	14.9	2.7	6.1
	60歳代	171	60.8	45.0	55.0	36.3	40.9	32.2	23.4	21.1	15.8	18.7	0.6	10.5
	70歳以上	222	53.6	40.5	43.7	37.4	32.9	33.8	21.6	17.1	15.8	20.7	0.9	23.4

※ ■は１番多い項目、□は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

過年度で比較すると、「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」や「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める」の割合は低下傾向となっており、一方「家庭において、親子の会話や読書の時間を確保する」は令和元年度調査より 10 ポイント以上上昇しています。



（※1）「学校において、タブレットや電子黒板などを活用したＩＣＴ（情報通信技術）教育の充実を進める」はH21年、H26年では設定なし
（※2）「学校において、外部指導員や地域のスポーツクラブを活用した部活動の推進」はH21年、H26年、Ｒ元年では設定なし

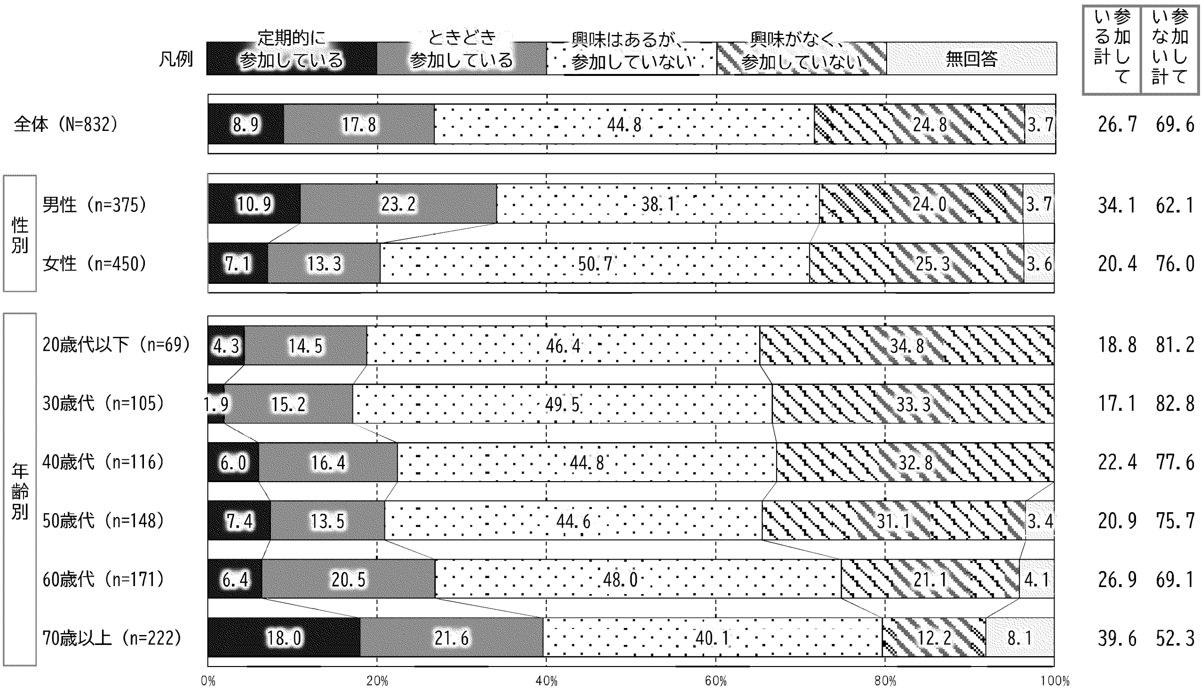
◆協働のまちづくりについて

問18　ボランティア活動に参加していますか。（１つに○）

ボランティア活動への参加状況をみると、「定期的に参加している」の割合が 8.9%、「ときどき参加している」が 17.8%で、２つを合わせた『参加している』は 26.7%となっています。一方、「興味はあるが、参加していない」が 44.8%、「興味がなく、参加していない」が 24.8%で、2 つを合わせた『参加していない』は 69.6%で、『参加している』を大きく上回っています。

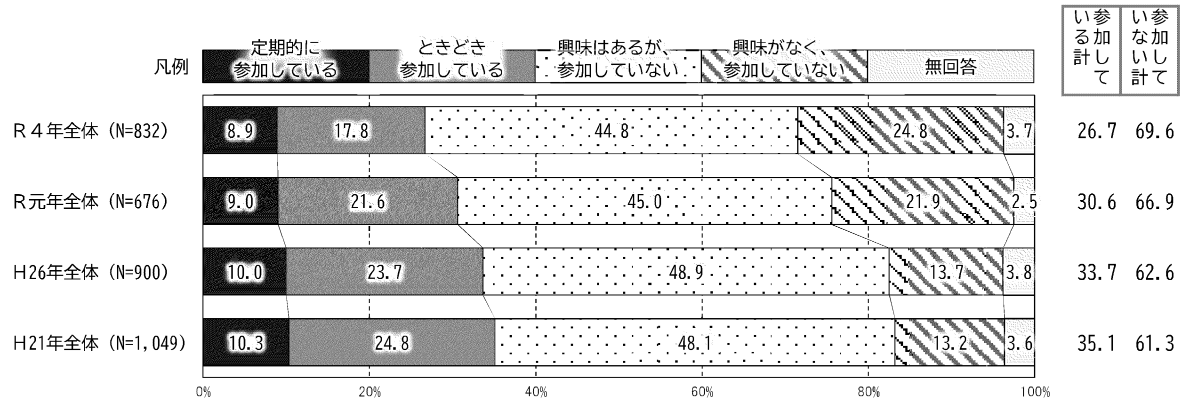
性別でみると、『参加している』は男性（34.1%）の方が女性（20.4%）よりも高くなっています。

年齢別でみると、70 歳以上は『参加している』の割合が高く、約４割（39.6%）を占めています。



■過年度比較

過年度で比較すると、『参加している』の割合は低下傾向となっており、特に「ときどき参加している」は平成 21 年度調査よりも 7.0 ポイント低下の 17.8%となっています。

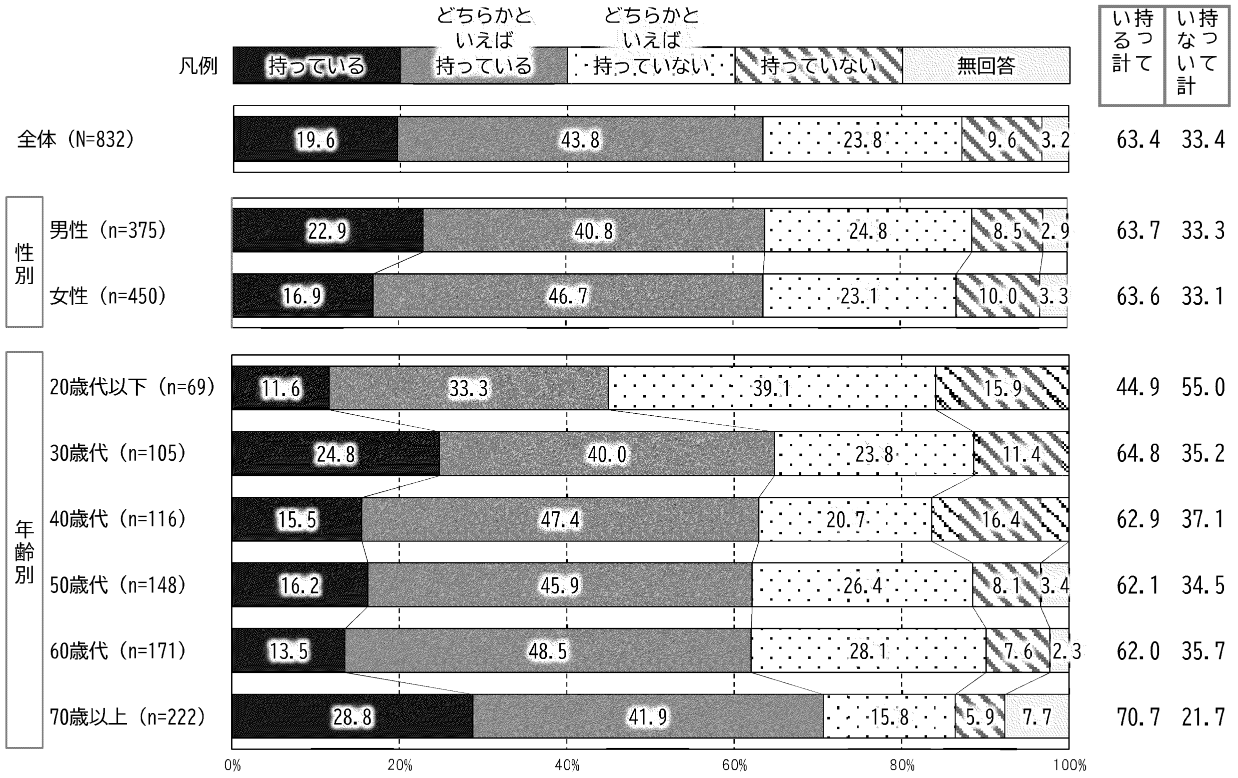


問 19　町の計画や取り組みについて関心を持っていますか。（１つに○）

町の計画や取り組みに対する関心をみると、「持っている」の割合が 19.6%、「どちらかといえば持っている」が 43.8%で、２つを合わせた『持っている』は 63.4%となっています。

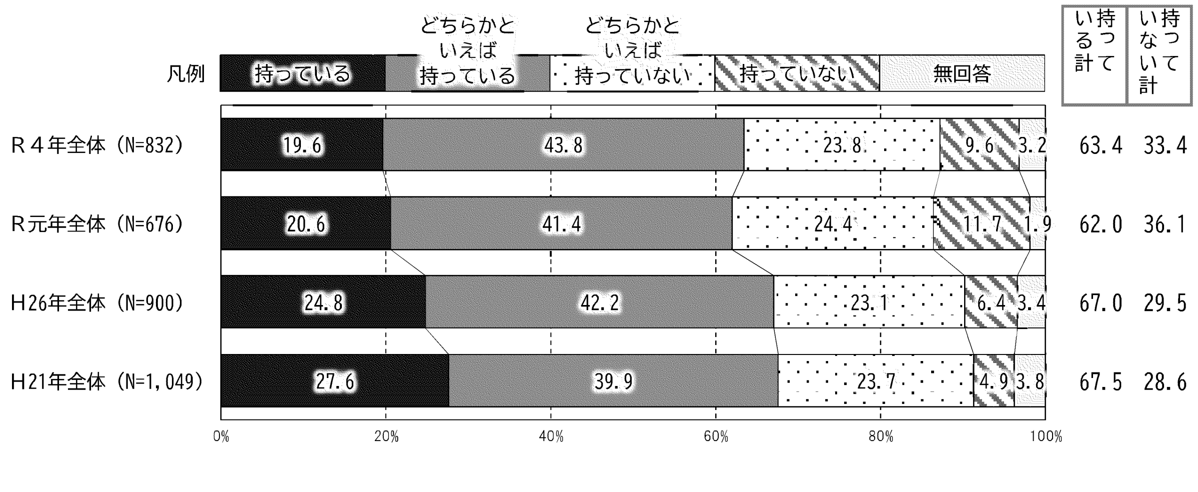
性別でみると、『持っている』の割合に差はないものの、「持っている」の割合は男性（22.9%）の方が女性（16.9%）よりも高く、関心の強さがうかがえます。

年齢別でみると、『持っている』は 20 歳代以下が 44.9%で最も低く、最も高い 70 歳以上は 70.7%で７割を超えています。



■過年度比較

過年度で比較すると、『持っている』の割合に大きな変化はないものの、「持っている」は低下傾向となっています。

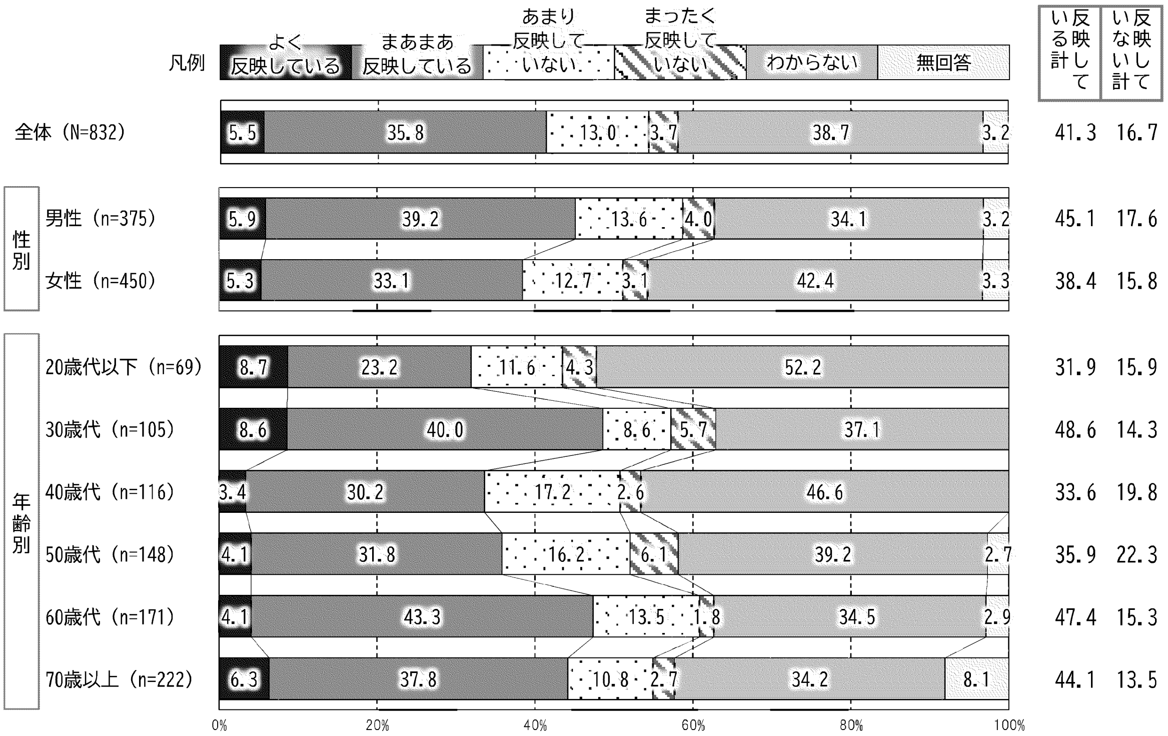


問 20　町は、住民の意見をまちづくりに反映していると思いますか。（１つに○）

まちづくりへの住民意見の反映をみると、「よく反映している」の割合が 5.5%、「まあまあ反映している」が 35.8%で、２つを合わせた『反映している』は 41.3%となっています。

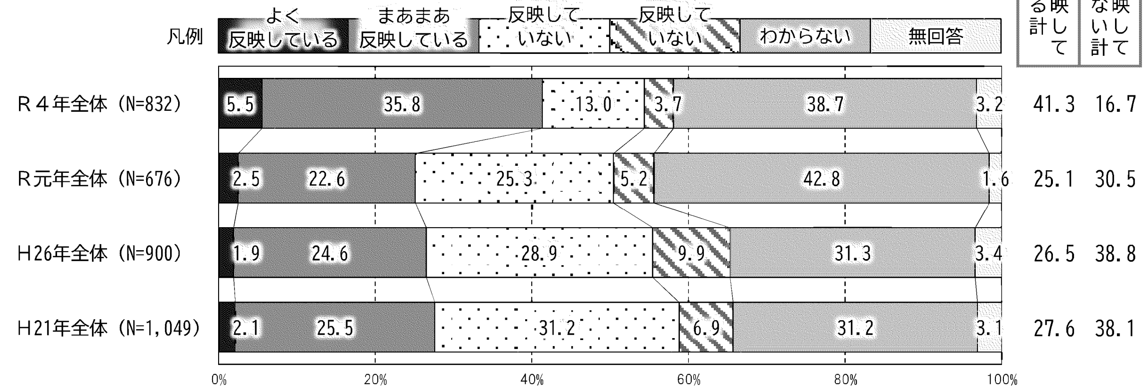
性別でみると、『反映している』の割合は男性（45.1%）の方が女性（38.4%）よりも高くなっています。

年齢別でみると、『反映している』は 30 歳代（48.6%）や 60 歳代（47.4%）、70 歳以上（44.1%）で４割を超え、高い割合となっています。一方、「あまり反映していない」と「まったく反映していない」を合わせた『反映していない』は、70 歳以上の 13.5%をはじめ、多くの年代で２割に満たない低い割合となっています。



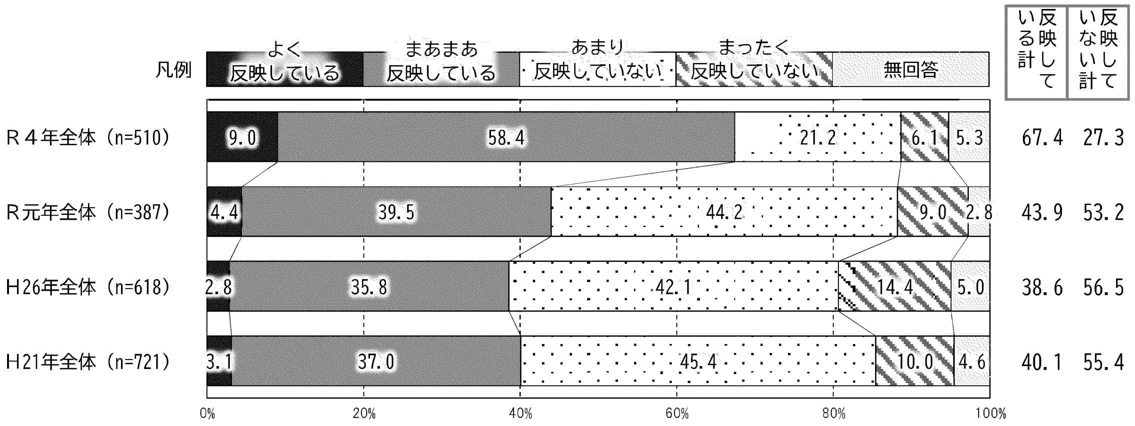
■過年度比較

過年度で比較すると、『反映している』の割合は、前回令和元年度調査から 16.2 ポイントの大きな上昇、『反映していない』は前回比 13.8 ポイントの大きな低下となっています。



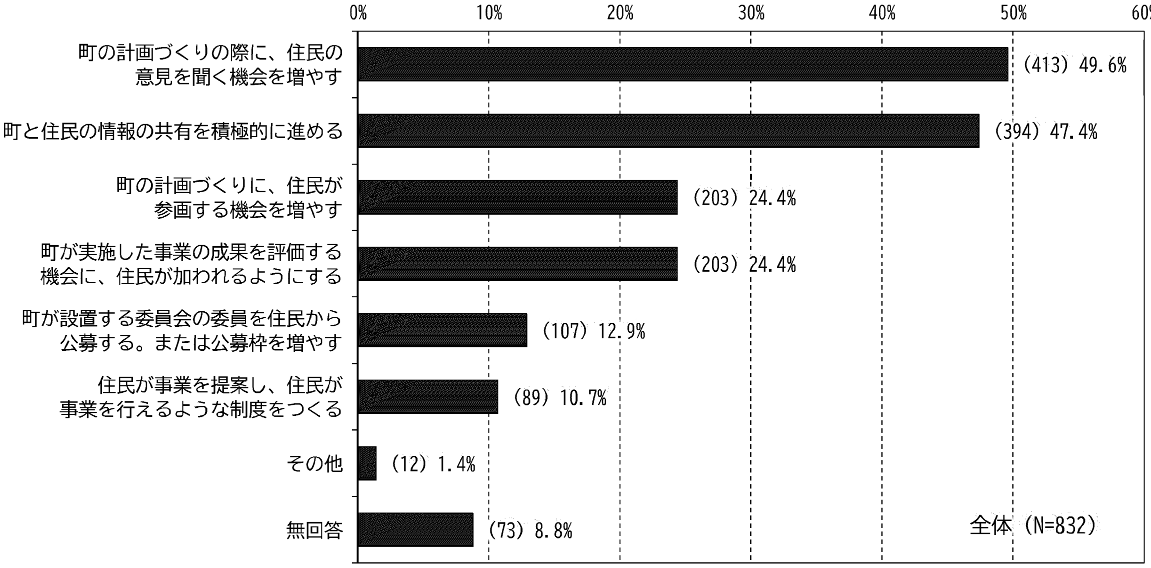
■過年度比較（参考：「わからない」を除く）

本設問については、「わからない」との回答が約４割となっています。このため、参考として「わからない」を除いた過年度比較を掲載します。



問 21　住民の意見をもっと反映するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

住民の意見を反映するために力を入れるべきことをみると、「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」の割合が 49.6％で最も高く、次いで「町と住民の情報の共有を積極的に進める」が 47.4％で、２つが突出して高い割合となっています。



小学校区別でみると、山鹿小学校区で「町と住民の情報の共有を積極的に進める」の割合が他の校区よりもやや高くなっています。

性別でみると、「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」の割合は女性（52.7％）の方が男性（45.9％）よりもやや高くなっています。

年齢別でみると、大きな差はないものの、30 歳代で「住民が事業を提案し、住民が事業を行えるような制度をつくる」が 21.0％で他の年代よりも高くなっています。

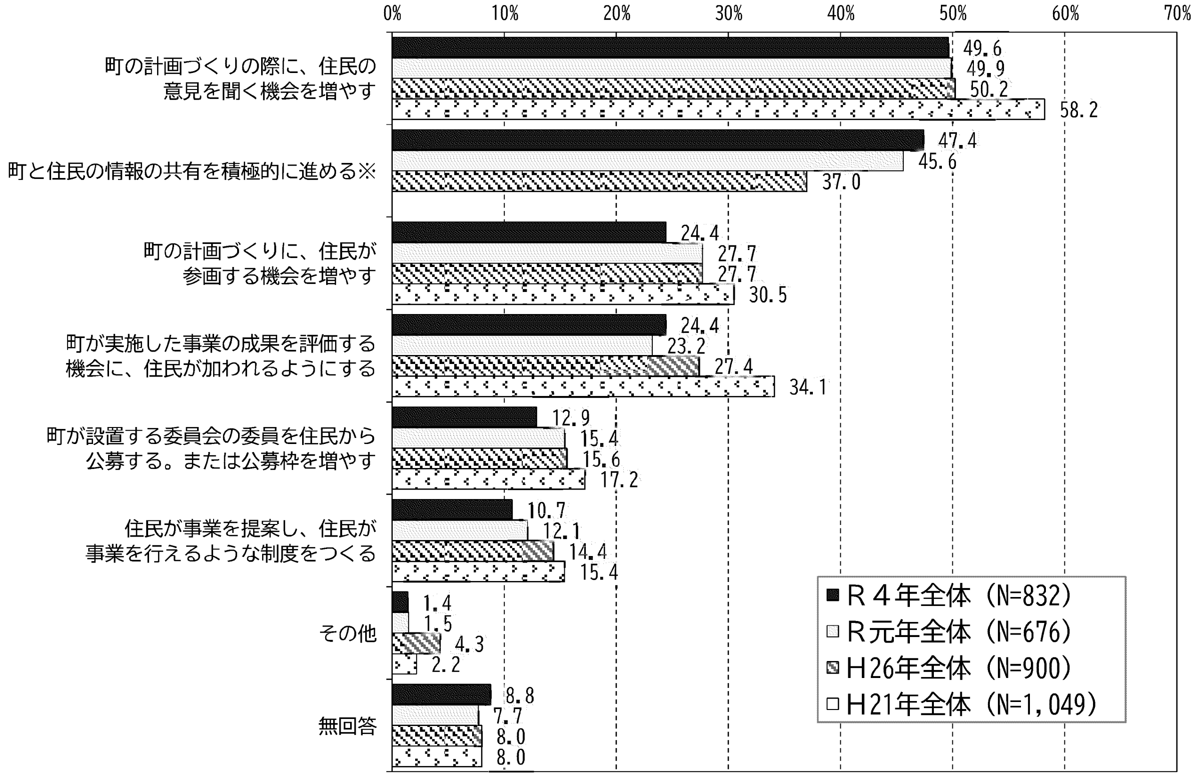
単位：％

		サンプル数（人）	町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす	町と住民の情報の共有を積極的に進める	町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす	町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加わるようにする	町が設置する委員会の委員を住民から公募する。または公募枠を増やす	住民が事業を提案し、住民が事業を行えるような制度をつくる	その他	無回答
全体		832	49.6	47.4	24.4	24.4	12.9	10.7	1.4	8.8
小学校区別	芦屋小学校区	264	50.4	47.7	24.2	24.6	11.7	12.1	2.3	8.0
	芦屋東小学校区	222	48.6	42.8	24.3	25.2	17.1	11.7	0.9	9.0
	山鹿小学校区	335	50.4	50.7	24.8	24.2	10.1	9.0	1.2	9.0
性別	男性	375	45.9	48.8	25.9	23.5	15.5	11.2	0.8	9.1
	女性	450	52.7	46.9	23.1	25.6	10.2	10.4	2.0	8.2
年齢別	20歳代以下	69	53.6	50.7	23.2	27.5	11.6	7.2	－	2.9
	30歳代	105	51.4	49.5	24.8	25.7	17.1	21.0	2.9	1.9
	40歳代	116	52.6	51.7	19.8	25.9	11.2	12.9	3.4	4.3
	50歳代	148	48.0	48.6	26.4	25.7	10.1	12.2	2.7	6.1
	60歳代	171	52.0	44.4	23.4	29.8	15.2	6.4	－	8.2
	70歳以上	222	45.0	44.6	26.6	17.1	11.7	8.1	0.5	18.5

※ ［濃い網掛け］は１番多い項目、［薄い網掛け］は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

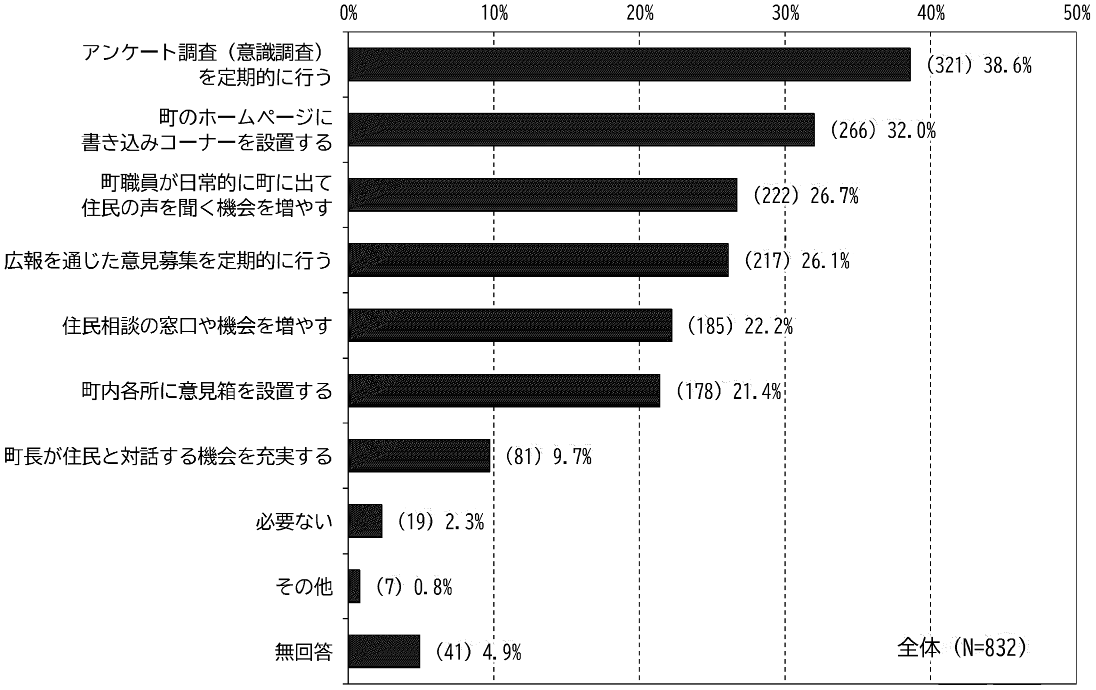
過年度で比較すると、「町と住民の情報の共有を積極的に進める」は上昇傾向となっています。



※「町と住民の情報の共有を積極的に進める」はH21年調査では設定なし

問22　まちづくりを行う際、住民の意見を集めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

住民の意見を集めるために力を入れるべきことをみると、「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」の割合が38.6％で最も高く、次いで「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」が32.0％、「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」が26.7％などの順となっています。



小学校区別でみると、大きな差はありません。

性別でみると、男性は「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」（43.5%）や「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」（32.0%）が女性よりも高く、女性は「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」（36.7%）や「町内各所に意見箱を設置する」（25.3%）が男性よりも高くなっています。

年齢別でみると、20 歳代以下で「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」（49.3%）、40 歳代で「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」（49.1%）が約５割を占め、高い割合となっています。「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」は年齢が高くなるほど高い割合となっています。

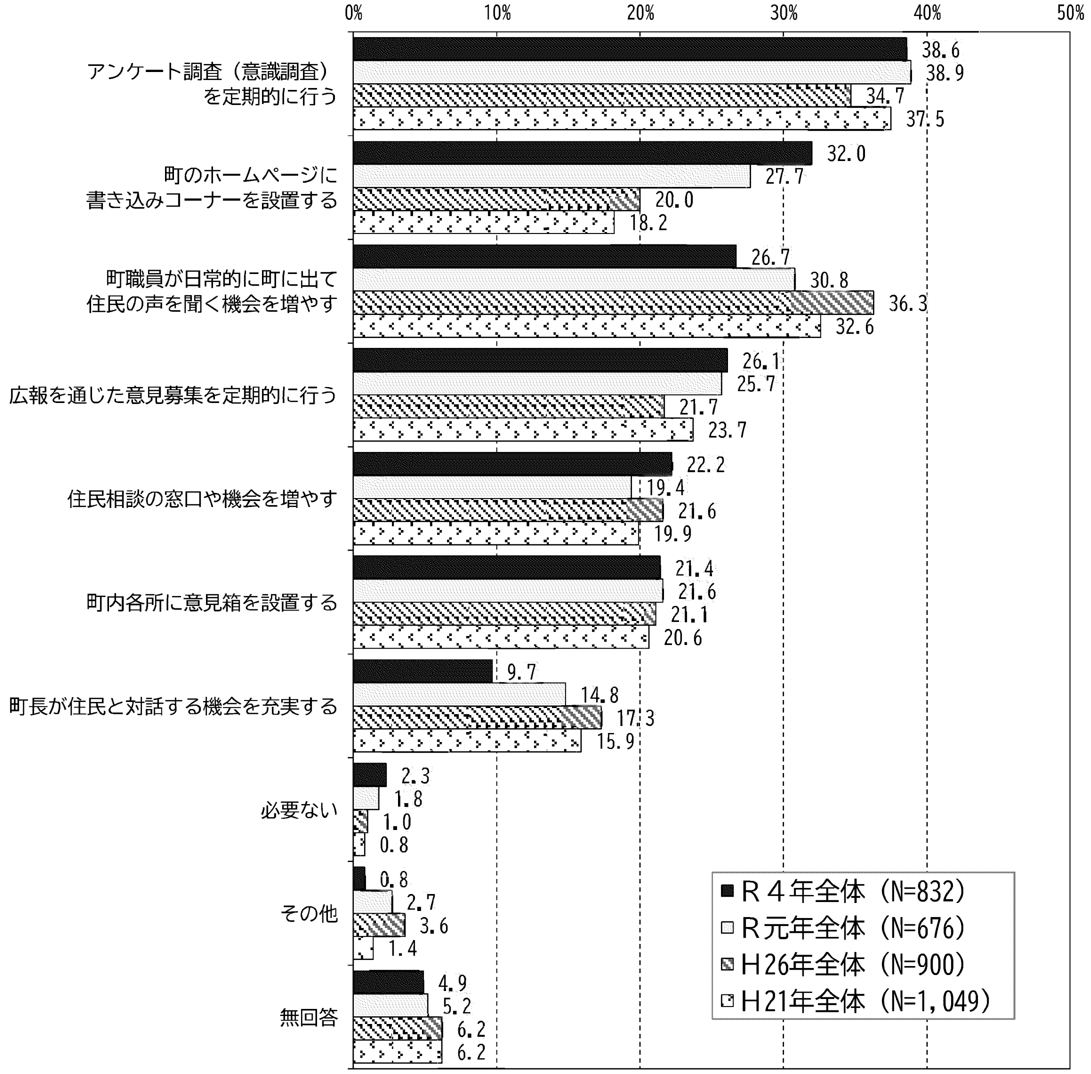
単位：%

		サンプル数（人）	アンケート調査（意識調査）を定期的に行う	町のホームページに書き込みコーナーを設置する	町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす	広報を通じた意見募集を定期的に行う	住民相談の窓口や機会を増やす	町内各所に意見箱を設置する	町長が住民と対話する機会を充実する	必要ない	その他	無回答
全体		832	38.6	32.0	26.7	26.1	22.2	21.4	9.7	2.3	0.8	4.9
小学校区別	芦屋小学校区	264	40.5	30.3	27.3	28.0	22.7	20.8	9.8	1.5	1.5	3.8
	芦屋東小学校区	222	36.0	31.5	27.9	23.9	24.3	19.4	11.7	1.8	0.5	5.4
	山鹿小学校区	335	38.5	34.0	25.7	26.3	21.2	23.0	8.7	3.0	0.6	5.1
性別	男性	375	43.5	26.9	32.0	29.1	20.0	16.8	10.7	2.9	1.3	3.5
	女性	450	34.9	36.7	22.4	23.8	24.2	25.3	9.1	1.6	0.4	5.6
年齢別	20歳代以下	69	49.3	40.6	11.6	24.6	15.9	29.0	7.2	2.9	1.4	1.4
	30歳代	105	39.0	40.0	18.1	19.0	22.9	24.8	19.0	3.8	2.9	-
	40歳代	116	37.9	49.1	25.0	29.3	15.5	22.4	6.0	3.4	1.7	-
	50歳代	148	40.5	37.8	25.7	21.6	27.7	18.9	8.8	1.4	-	0.7
	60歳代	171	35.1	34.5	30.4	29.2	22.8	19.9	8.2	0.6	-	7.6
	70歳以上	222	36.9	10.8	34.2	28.8	23.4	19.8	9.9	2.7	0.5	11.3

※ ■は１番多い項目、□は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

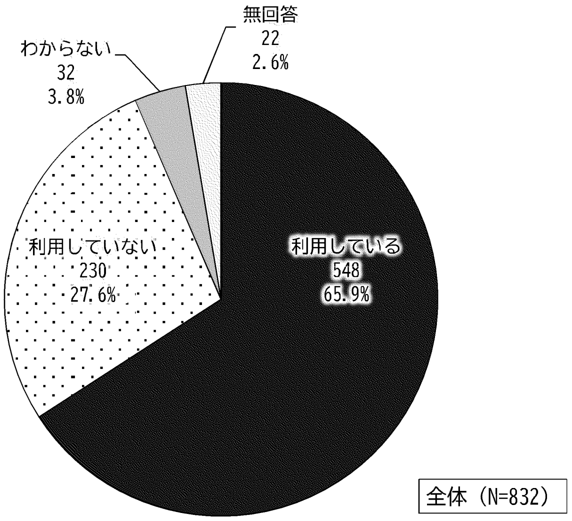
過年度で比較すると、「町のホームページに書き込みコーナーを設置する」の割合は上昇傾向、「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」は低下傾向となっています。「町長が住民と対話する機会を充実する」は令和元年度調査から 5.1 ポイント低下しています。



◆インターネット環境、情報入手経路について

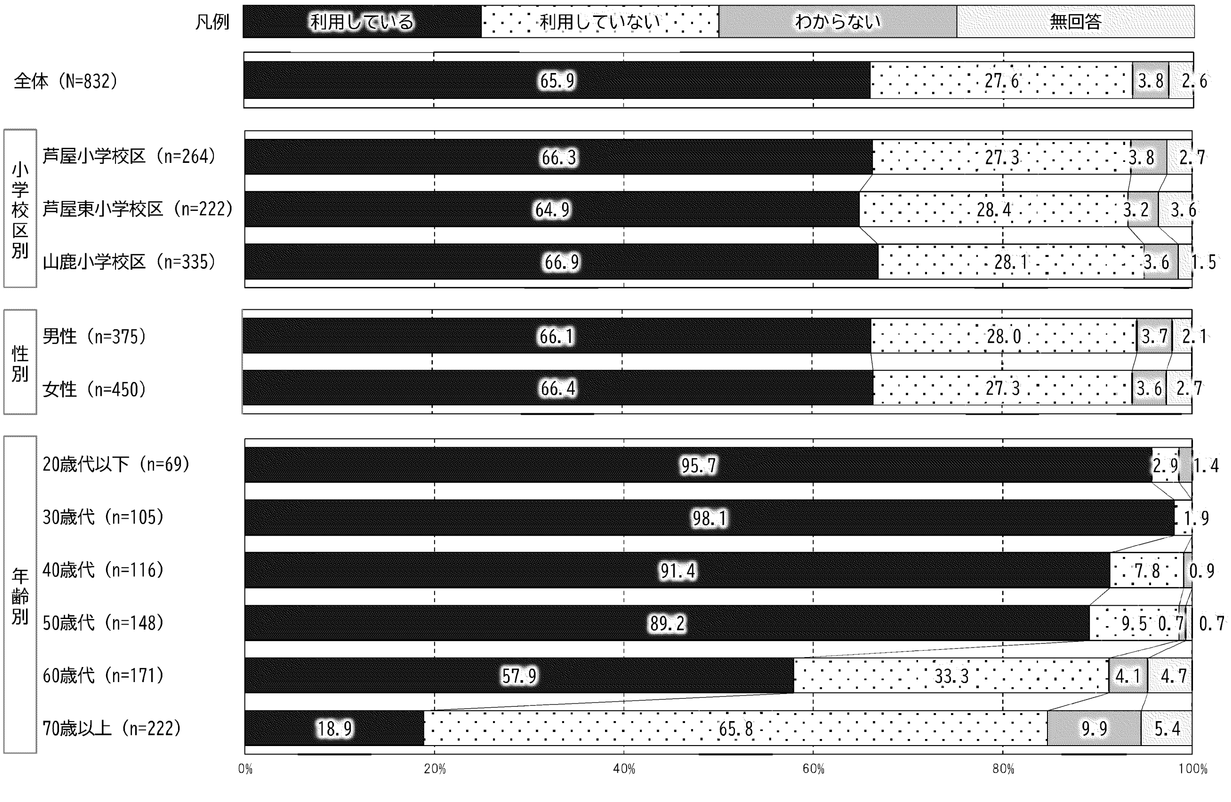
問 23　普段の生活でインターネットを利用していますか。（１つに○）

普段の生活でのインターネット利用をみると、「利用している」の割合が 65.9%、「利用していない」が 27.6%で、３分の２ほどが利用していることがうかがえます。



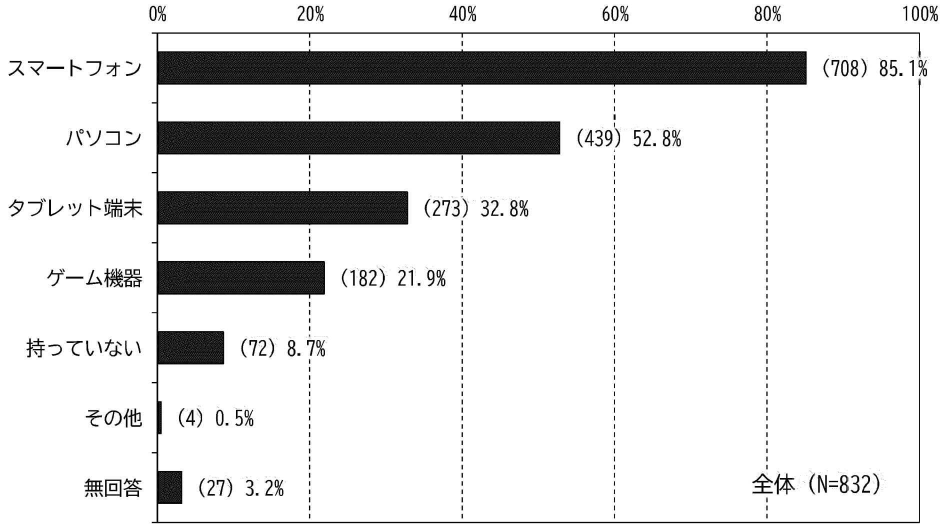
小学校区別、性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、「利用している」は年齢が高くなるほど低くなる傾向があり、20 歳代以下～40 歳代では９割を超えていますが、70 歳以上では２割に満たない 18.9%となっています。



問 24　ご自宅にある情報通信機器を教えてください。（複数回答）

自宅にある情報通信機器をみると、「スマートフォン」の割合が 85.1％で最も高く、次いで「パソコン」が 52.8％、「タブレット端末」が 32.8％などの順となっています。「持っていない」は 8.7％で約１割となっています。



小学校区別、性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、「スマートフォン」は50歳代までは95％を超え、60歳代では約８割（81.9％）、70 歳以上では約６割（62.6％）となっています。

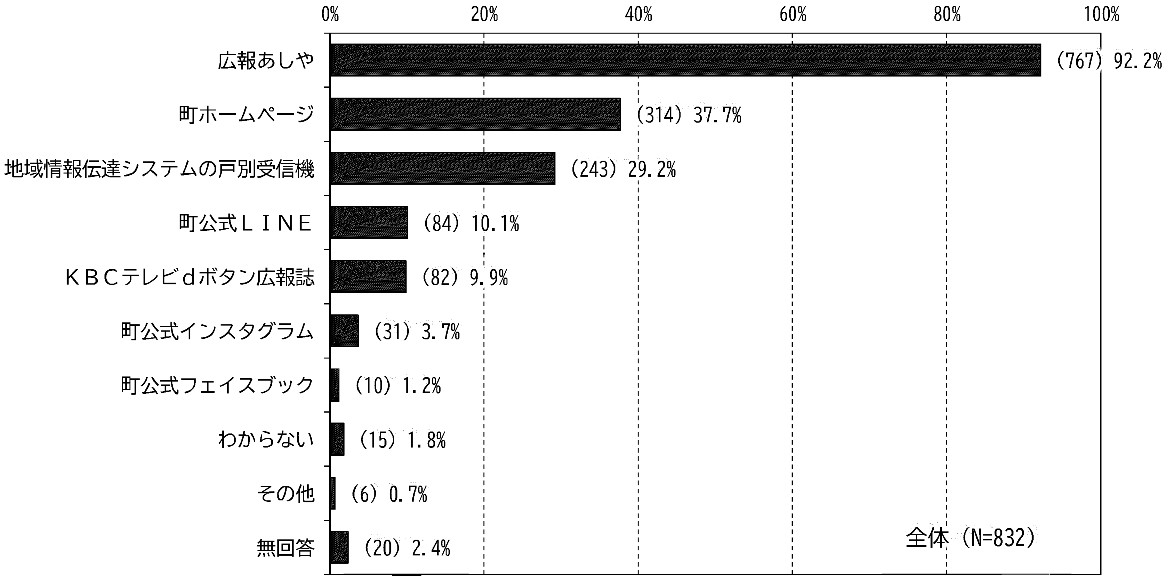
単位：％

		サンプル数（人）	スマートフォン	パソコン	タブレット端末	ゲーム機器	持っていない	その他	無回答
全体		832	85.1	52.8	32.8	21.9	8.7	0.5	3.2
小学校区別	芦屋小学校区	264	84.1	53.4	32.2	20.5	8.3	0.8	2.7
	芦屋東小学校区	222	84.2	51.8	35.6	19.8	9.0	0.9	4.1
	山鹿小学校区	335	87.2	53.4	31.6	24.8	9.0	-	2.4
性別	男性	375	86.4	52.8	31.7	22.4	6.9	0.5	2.4
	女性	450	85.1	53.6	34.0	21.8	9.6	0.4	3.3
年齢別	20歳代以下	69	100.0	81.2	50.7	46.4	-	-	-
	30歳代	105	99.0	63.8	51.4	42.9	1.0	-	-
	40歳代	116	96.6	72.4	49.1	42.2	2.6	-	-
	50歳代	148	97.3	60.8	38.5	19.6	-	-	0.7
	60歳代	171	81.9	50.9	24.6	10.5	8.2	-	4.1
	70歳以上	222	62.6	24.8	12.6	4.1	24.3	1.8	8.1

※ ■は１番多い項目、□は２番目に多い項目を示している

問25　町の情報を得るために、活用しているものを教えてください。（複数回答）

町の情報を得るために活用しているものをみると、「広報あしや」の割合が 92.2％で突出して高く、次いで「町ホームページ」が 37.7％、「地域情報伝達システムの戸別受信機」が 29.2％などの順となっています。



小学校区別でみると、「地域情報伝達システムの戸別受信機」は芦屋小学校区では 33.3％で芦屋東小学校区の 23.4％よりも約 10 ポイント高くなっています。

性別でみると、大きな差はないものの、「町公式ＬＩＮＥ」は女性（12.4％）の方が男性（7.5％）よりもやや高い割合となっています。

年齢別でみると、「広報あしや」はすべての年代で８割を超えています。70 歳代では他の年代と異なり、「町ホームページ」よりも「地域情報伝達システムの戸別受信機」の方が高い割合となっています。

単位：％

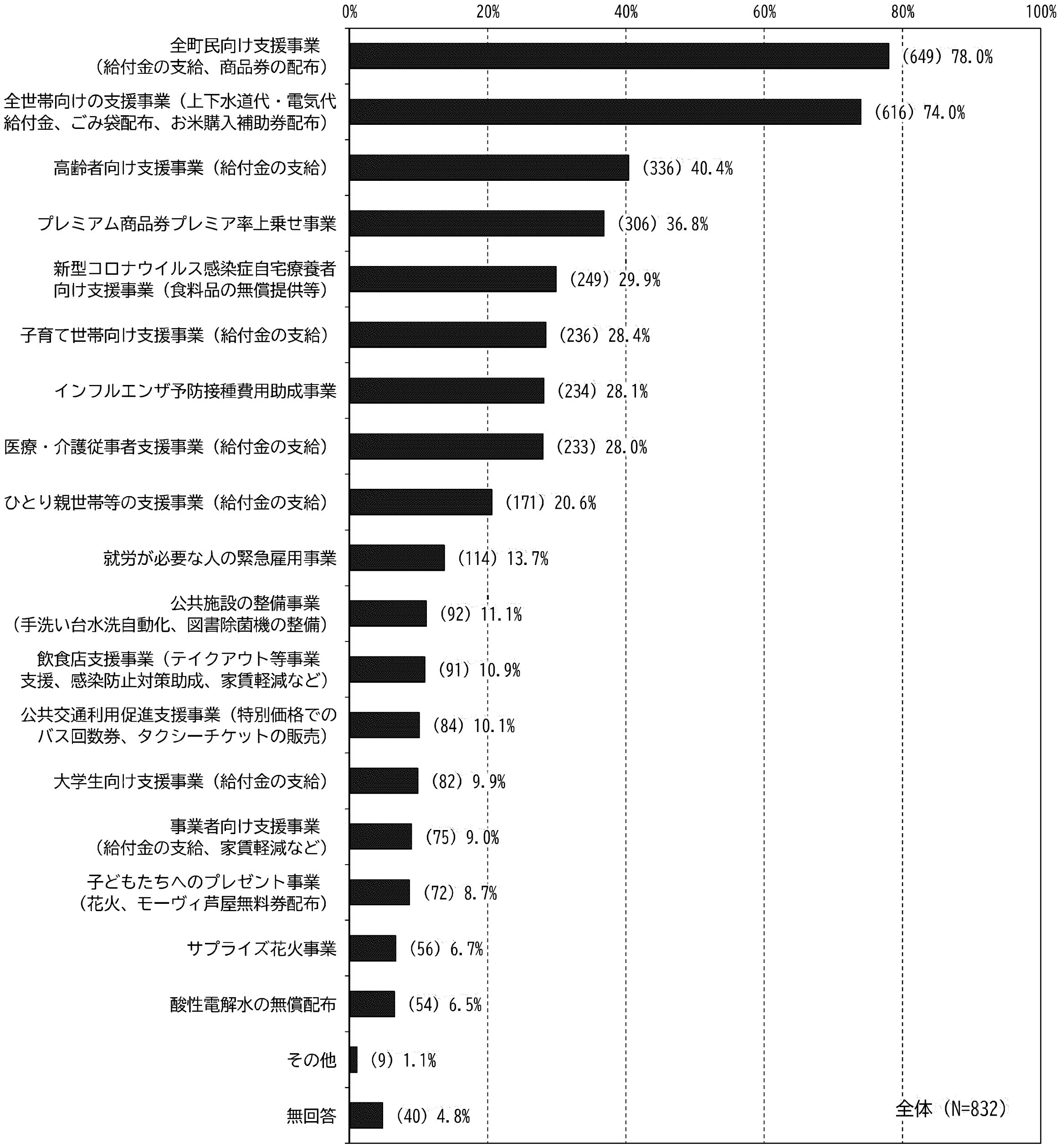
		サンプル数（人）	広報あしや	町ホームページ	地域情報伝達システムの戸別受信機	町公式ＬＩＮＥ	ＫＢＣテレビｄボタン広報誌	町公式インスタグラム	町公式フェイスブック	わからない	その他	無回答
全体		832	92.2	37.7	29.2	10.1	9.9	3.7	1.2	1.8	0.7	2.4
小学校区別	芦屋小学校区	264	95.8	36.0	33.3	9.8	9.1	3.0	1.9	-	1.1	1.9
	芦屋東小学校区	222	91.4	37.4	23.4	9.9	9.0	4.1	0.9	1.4	-	3.2
	山鹿小学校区	335	91.0	40.3	29.9	10.7	11.3	4.2	0.9	3.3	0.6	1.5
性別	男性	375	91.2	38.7	28.5	7.5	9.6	2.9	1.6	2.4	1.1	1.3
	女性	450	93.8	37.3	30.2	12.4	10.2	4.4	0.9	1.1	0.4	2.7
年齢別	20歳代以下	69	84.1	39.1	20.3	13.0	2.9	4.3	-	8.7	1.4	1.4
	30歳代	105	92.4	53.3	23.8	21.9	4.8	7.6	1.9	2.9	-	-
	40歳代	116	94.0	50.9	23.3	12.9	6.9	6.0	3.4	0.9	1.7	-
	50歳代	148	90.5	52.0	28.4	13.5	13.5	6.8	2.7	1.4	-	1.4
	60歳代	171	94.2	36.3	33.3	5.3	13.5	1.8	-	1.8	1.8	3.5
	70歳以上	222	93.7	14.9	35.1	3.6	10.8	-	-	-	-	4.5

※ ▇は１番多い項目、▢は２番目に多い項目を示している

◆新型コロナウイルス感染症について

問 26　町が実施する新型コロナウイルス感染症対策として有効だと思う施策を教えてください。（複数回答）

新型コロナウイルス感染症対策として有効だと思う芦屋町の施策をみると、「全町民向け支援事業（給付金の支給、商品券の配布）」の割合が 78.0％で最も高く、次いで「全世帯向けの支援事業（上下水道代・電気代給付金、ごみ袋配布、お米購入補助券配布）」が 74.0％で、この２つが突出して高い割合となっています。



小学校区別でみると、芦屋小学校区では「高齢者向け支援事業（給付金の支給）」の割合（34.8%）は他校区よりも低く、「プレミアム商品券プレミア率上乗せ事業」（45.5%）は他校区よりも高くなっています。

性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、「全町民向け支援事業（給付金の支給、商品券の配布）」は年齢が高くなるほど低い割合となっています。30 歳代では、「子育て世帯向け支援事業（給付金の支給）」（58.1%）や「子どもたちへのプレゼント事業（花火、モーヴィ芦屋無料券配布）」（30.5%）などの子ども関連の事業が高い割合となっています。

単位：%

		サンプル数（人）	全町民向け支援事業（給付金の支給、商品券の配布）	全世帯向けの支援事業（上下水道代・電気代給付金、ごみ袋配布、お米購入補助券配布）	高齢者向け支援事業（給付金の支給）	プレミアム商品券プレミア率上乗せ事業	新型コロナウイルス感染症自宅療養者向け支援事業（食料品の無償提供等）	子育て世帯向け支援事業（給付金の支給）	インフルエンザ予防接種費用助成事業	医療・介護従事者支援事業（給付金の支給）	ひとり親世帯等の支援事業（給付金の支給）	就労が必要な人の緊急雇用事業
全体		832	78.0	74.0	40.4	36.8	29.9	28.4	28.1	28.0	20.6	13.7
小学校区別	芦屋小学校区	264	78.8	75.4	34.8	45.5	29.9	28.4	28.4	24.6	21.6	17.0
	芦屋東小学校区	222	79.7	71.6	43.2	33.3	31.5	26.6	30.2	27.0	19.8	14.4
	山鹿小学校区	335	76.4	74.6	43.6	31.9	29.3	29.9	26.9	31.9	20.3	11.0
性別	男性	375	78.4	71.7	44.8	34.7	30.9	29.3	27.2	27.2	21.6	13.6
	女性	450	78.4	76.2	36.9	38.7	29.6	27.8	29.1	28.9	20.0	13.8
年齢別	20歳代以下	69	87.0	68.1	15.9	30.4	30.4	30.4	13.0	18.8	18.8	20.3
	30歳代	105	84.8	84.8	21.9	43.8	24.8	58.1	21.9	23.8	18.1	14.3
	40歳代	116	83.6	76.7	23.3	29.3	28.4	39.7	25.9	22.4	16.4	13.8
	50歳代	148	80.4	80.4	29.1	37.2	31.8	19.6	25.7	39.9	20.3	17.6
	60歳代	171	73.7	71.3	50.3	39.8	32.7	21.6	29.2	28.7	22.2	16.4
	70歳以上	222	70.7	67.1	65.8	36.9	29.7	18.9	37.8	27.5	23.4	6.8

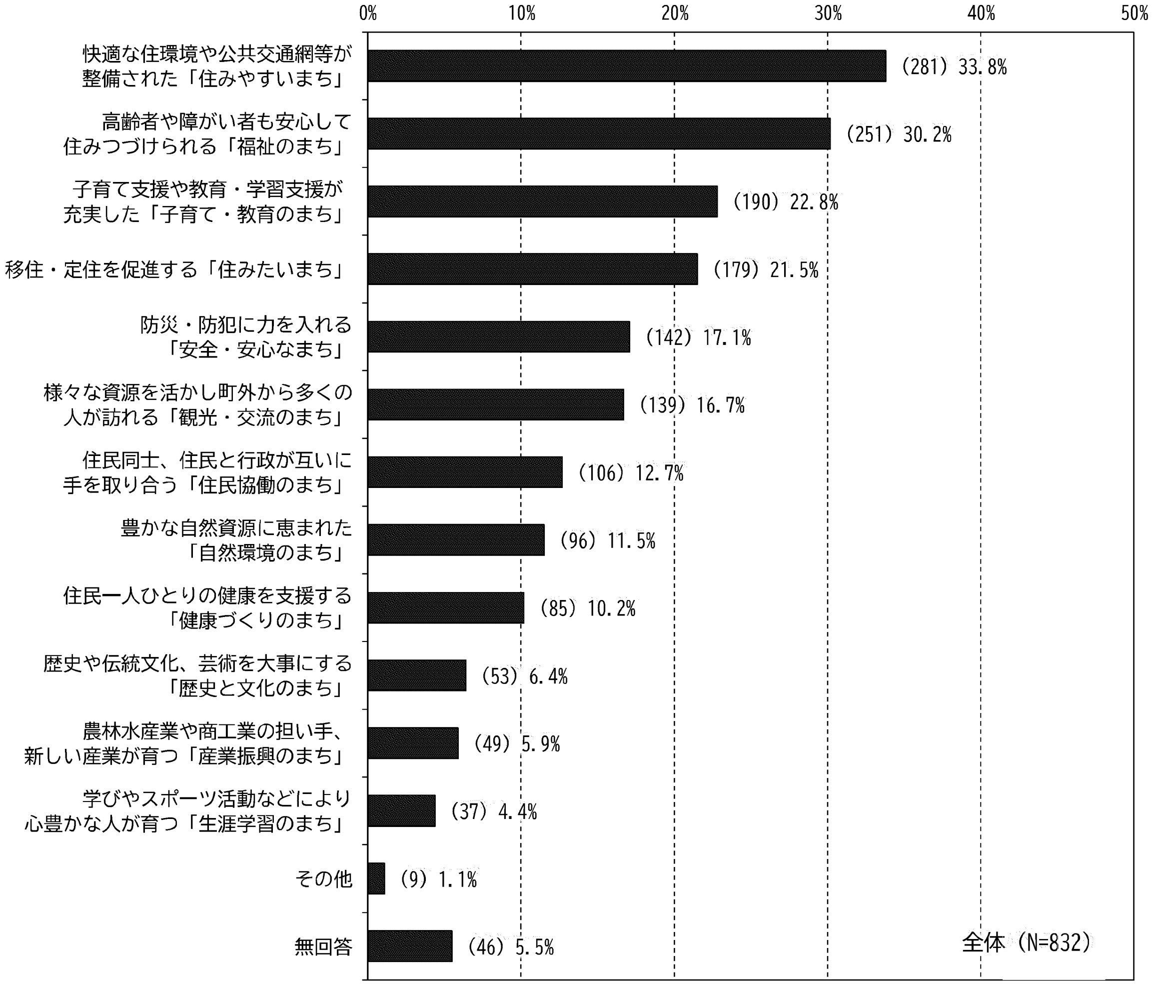
		サンプル数（人）	公共施設の整備事業（手洗い台水洗自動化、図書除菌機の整備）	飲食店支援事業（テイクアウト等事業支援、感染防止対策助成、家賃軽減など）	公共交通利用促進支援事業（特別価格でのバス回数券、タクシーチケットの販売）	大学生向け支援事業（給付金の支給）	事業者向け支援事業（給付金の支給、家賃軽減など）	子どもたちへのプレゼント事業（花火、モーヴィ芦屋無料券配布）	サプライズ花火事業	酸性電解水の無償配布	その他	無回答
全体		832	11.1	10.9	10.1	9.9	9.0	8.7	6.7	6.5	1.1	4.8
小学校区別	芦屋小学校区	264	13.6	11.0	11.7	11.4	9.1	6.8	10.2	4.5	1.1	3.4
	芦屋東小学校区	222	8.1	10.4	11.3	7.7	8.6	10.4	5.4	8.1	0.9	5.0
	山鹿小学校区	335	11.0	11.0	8.4	9.9	9.0	9.0	5.1	7.2	1.2	5.4
性別	男性	375	9.6	10.7	7.2	10.1	10.7	9.1	6.4	5.3	0.8	4.5
	女性	450	12.4	11.3	12.4	9.6	7.8	8.4	7.1	7.6	1.3	4.4
年齢別	20歳代以下	69	7.2	15.9	4.3	20.3	14.5	17.4	18.8	4.3	−	2.9
	30歳代	105	5.7	16.2	6.7	2.9	8.6	30.5	6.7	2.9	1.0	3.8
	40歳代	116	13.8	12.1	6.9	17.2	13.8	7.8	8.6	6.0	2.6	1.7
	50歳代	148	14.2	12.8	12.8	10.8	6.8	4.7	5.4	4.1	1.4	1.4
	60歳代	171	11.7	9.4	9.4	7.6	12.3	3.5	6.4	6.4	0.6	6.4
	70歳以上	222	10.8	6.3	14.0	7.2	4.1	2.7	3.2	10.8	0.9	8.6

※ ▒は１番多い項目、░は２番目に多い項目を示している

５．今後の芦屋町について

問 27　芦屋町が今後 10 年間のまちづくりで、特に力を入れるべきことはどれだと思いますか。（複数回答）

今後 10 年間のまちづくりで、特に力を入れるべきことをみると、「住みやすいまち」の割合が 33.8％で最も高く、次いで「福祉のまち」が 30.2％、「子育て・教育のまち」が 22.8％などの順となっています。



小学校区別でみると、大きな差はないものの、芦屋東小学校区では「住みやすいまち」(39.2%)や「福祉のまち」(35.6%)は他の校区よりも特に高くなっています。

性別でみると、大きな差はありません。

年齢別でみると、「住みやすいまち」が最も高い年代が多い中、30 歳代は「子育て・教育のまち」(56.2%)、70 歳代は「福祉のまち」(44.6%)が最も高くなっています。

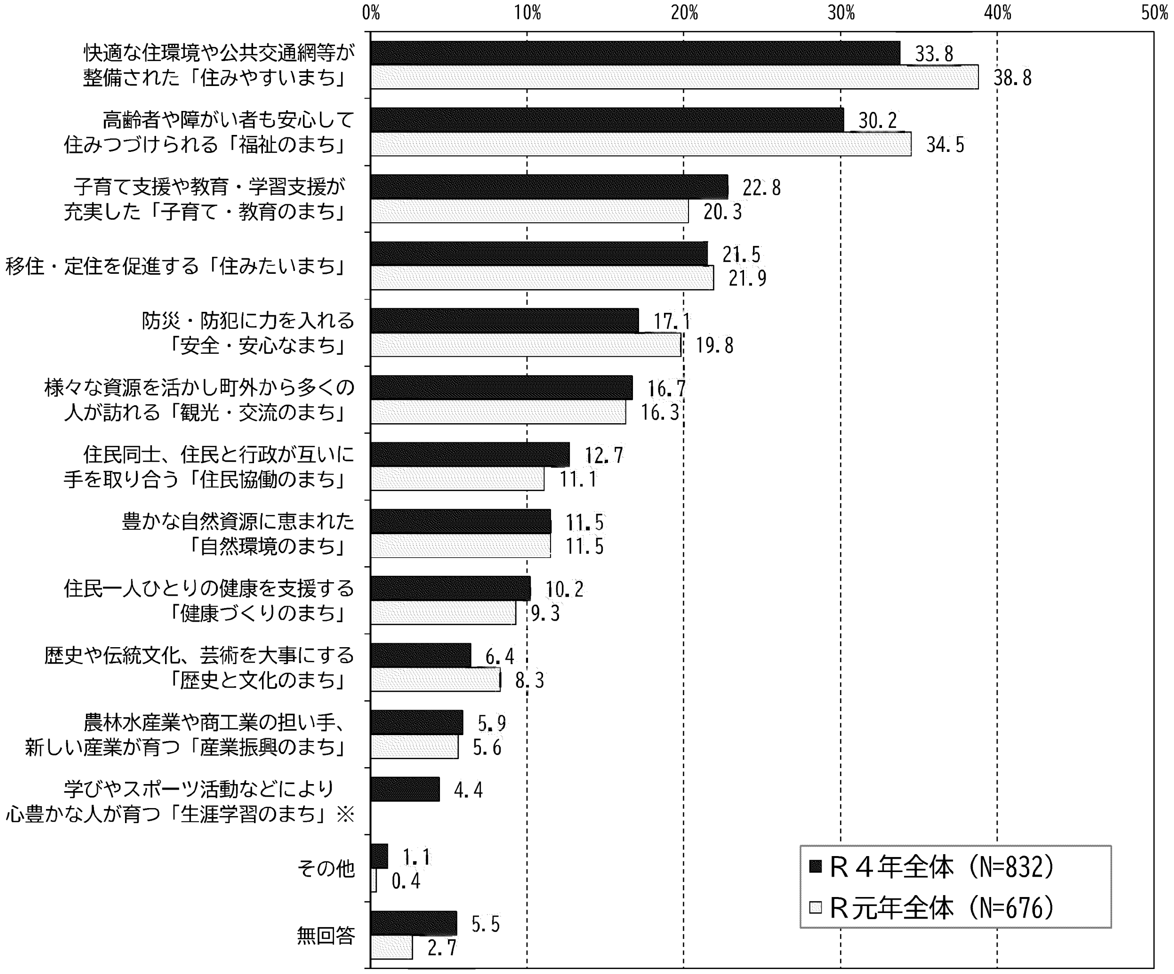
単位：%

		サンプル数（人）	快適な住環境や公共交通網等が整備された「住みやすいまち」	高齢者や障がい者も安心して住みつづけられる「福祉のまち」	子育て支援や教育・学習支援が充実した「子育て・教育のまち」	移住・定住を促進する「住みたいまち」	防災・防犯に力を入れる「安全・安心なまち」	様々な資源を活かし町外から多くの人が訪れる「観光・交流のまち」	住民同士、住民と行政が互いに手を取り合う「住民協働のまち」	豊かな自然資源に恵まれた「自然環境のまち」	住民一人ひとりの健康を支援する「健康づくりのまち」	歴史や伝統文化、芸術を大事にする「歴史と文化のまち」	農林水産業や商工業の担い手、新しい産業が育つ「産業振興のまち」	学びやスポーツ活動などにより心豊かな人が育つ「生涯学習のまち」	その他	無回答
全体		832	33.8	30.2	22.8	21.5	17.1	16.7	12.7	11.5	10.2	6.4	5.9	4.4	1.1	5.5
小学校区別	芦屋小学校区	264	34.1	26.9	20.5	24.2	19.3	18.9	12.9	12.1	7.6	9.1	8.3	6.4	1.9	5.3
	芦屋東小学校区	222	39.2	35.6	23.4	21.2	14.0	13.1	14.4	9.9	11.3	3.2	6.3	3.2	0.9	5.0
	山鹿小学校区	335	30.7	29.6	24.5	19.7	16.7	17.9	11.6	12.2	11.6	6.6	3.9	3.6	0.6	5.7
性別	男性	375	31.5	29.1	20.3	22.4	14.4	16.8	12.3	13.9	11.2	7.5	8.5	5.3	0.5	5.1
	女性	450	36.0	31.6	25.3	20.9	18.4	16.7	13.3	9.6	9.6	5.6	3.8	3.8	1.6	5.6
年齢別	20歳代以下	69	40.6	15.9	27.5	23.2	15.9	26.1	13.0	2.9	7.2	2.9	7.2	4.3	−	4.3
	30歳代	105	26.7	14.3	56.2	21.9	15.2	18.1	8.6	14.3	9.5	13.3	5.7	5.7	3.8	3.8
	40歳代	116	34.5	19.0	29.3	20.7	12.9	18.1	9.5	9.5	10.3	10.3	6.0	6.9	2.6	4.3
	50歳代	148	39.9	28.4	16.2	31.1	20.3	18.2	12.2	8.1	11.5	3.4	5.4	3.4	0.7	3.4
	60歳代	171	39.2	36.3	17.0	18.1	18.1	14.0	9.9	12.3	9.9	5.8	5.8	4.7	−	5.8
	70歳以上	222	26.6	44.6	11.3	17.6	17.1	13.5	18.9	15.3	10.8	4.5	5.9	3.2	0.5	8.6

※ （濃い網掛け）は１番多い項目、（薄い網掛け）は２番目に多い項目を示している

■過年度比較

過年度で比較すると、「住みやすいまち」や「福祉のまち」の割合は依然高いものの、令和元年度調査と比較すると５ポイント程度低下しています。割合が大きく上昇した項目はなく、「子育て・教育のまち」の+2.5ポイントが最大の上昇幅となっています。



※ H21年、H26年は質問を設けていない
※「学びやスポーツ活動などにより心豊かな人が育つ「生涯学習のまち」」はＲ元年では設定なし

Ⅲ　調査結果の経年比較分析
（平成21年度～令和4年度）

1. 調査票回収状況

1．調査票回収状況

平成 21 年度から令和４年度の調査票の回収率をみると、平成 21 年度の 52.5%が最も高く、以降は低下傾向であったものの、令和４年度はインターネット回答にも対応したことにより、前回の令和元年度からは 7.8 ポイント上昇しています。

	配布数（A）	回収票数（B）	回収率　（B)/(A）
令和４年度	2,000	832	41.6%
令和元年度	2,000	676	33.8%
平成 29 年度	2,000	797	39.9%
平成 26 年度	2,000	900	45.0%
平成 24 年度	2,000	871	43.6%
平成 21 年度	2,000	1,050	52.5%

2. 満足度と重要度の経年比較による分析

平成21年度から実施している過去のコミュニティ活動状況調査（住民意識調査）の満足度と重要度の結果と、今回の結果を比較し分析を行いました。

【平成21年度から令和4年度の満足度と重要度】

【平均評定値】	満足度						重要度					
	H21	H24	H26	H29	R元	R４	H21	H24	H26	H29	R元	R４
平均	**2.65**	**2.69**	**2.70**	**2.73**	**2.72**	**2.97**	**3.00**	**3.01**	**2.99**	**3.00**	**3.04**	**3.09**
公共交通機関の利便性	2.25	2.16	1.99	2.00	1.98	2.21	3.18	3.16	3.21	3.22	3.27	3.14
道路網の利便性や生活道路の整備	2.80	2.81	2.72	2.62	2.67	2.67	2.97	3.07	3.05	3.03	3.08	3.06
交通安全の推進	2.73	2.71	2.59	2.51	2.52	2.62	3.14	3.22	3.19	3.16	3.21	3.12
上水道の安定供給	3.25	3.27	3.22	3.35	3.30	3.39	3.25	3.27	3.26	3.26	3.38	3.38
下水道	3.27	3.27	3.23	3.31	3.28	3.36	3.28	3.32	3.27	3.28	3.36	3.33
地震や風水害などの防災対策	2.49	2.48	2.56	2.63	2.61	3.10	3.35	3.45	3.38	3.37	3.39	3.33
火事などの消防対策	3.02	2.96	3.06	3.09	3.11	3.19	3.31	3.37	3.34	3.37	3.38	3.20
犯罪などの防犯対策	2.53	2.51	2.58	2.47	2.46	2.66	3.33	3.31	3.32	3.32	3.36	3.18
町並み、景観の向上	2.58	2.61	2.74	2.77	2.64	2.83	2.80	2.82	2.82	2.88	2.88	2.97
公園や緑地の充実	2.40	2.39	2.61	2.85	2.93	2.96	2.97	2.91	2.81	2.79	2.82	2.96
ごみの資源化や減量化	2.76	2.85	2.93	2.83	2.85	3.09	3.21	3.13	2.90	2.92	2.98	3.04
海や川などの自然環境の保全	2.69	2.68	2.81	2.82	2.86	2.91	3.16	3.09	3.01	2.96	3.03	3.02
生活環境の向上	2.40	2.41	2.32	2.30	2.33	2.54	3.09	3.08	3.09	3.04	3.07	3.06
農業の振興	2.78	2.81	2.83	2.66	2.62	2.92	2.85	2.91	2.80	2.91	2.92	3.02
漁業の振興	2.74	2.74	2.78	2.70	2.62	2.90	2.83	2.91	2.82	2.88	2.94	3.03
商業の振興	2.46	2.52	2.63	2.63	2.54	3.22	2.90	2.91	2.76	2.69	2.78	3.07
商店街などの中心市街地の整備	2.05	2.35	2.08	1.91	1.86	2.47	3.08	2.92	3.02	3.00	3.02	3.10
観光の振興	2.62	2.58	2.49	2.56	2.61	2.76	2.95	2.95	3.00	2.96	3.03	3.01
イベントの開催	2.51	2.94	2.73	2.84	2.92	3.05	2.93	2.87	2.94	2.91	2.96	3.09
地域医療の充実	2.56	2.52	2.22	2.59	2.62	2.96	3.46	3.39	3.38	3.38	3.41	3.42
健康づくり事業の充実	2.82	2.94	2.98	3.02	3.07	3.18	3.24	3.19	3.20	3.19	3.27	3.33
高齢者福祉の充実	2.76	2.78	2.74	2.86	2.78	3.05	3.14	3.15	3.17	3.19	3.19	3.15
障がい者福祉の充実	2.75	2.80	2.79	2.81	2.70	3.04	3.06	3.08	3.14	3.19	3.20	3.16
児童福祉、子育て支援の充実	2.72	2.82	2.83	2.91	2.97	3.18	3.08	3.12	3.19	3.25	3.22	3.21
学校教育と就学前の教育の充実	2.85	2.84	2.86	2.89	2.97	3.17	3.06	3.20	3.26	3.25	3.33	3.23
生涯学習の充実	2.80	2.86	2.83	2.86	2.85	3.13	2.68	2.78	2.81	2.85	2.84	2.98
公民館などの社会教育施設の充実	2.72	2.82	2.86	2.83	2.86	3.00	2.73	2.94	2.88	2.88	2.87	3.02
人権教育の推進	2.80	2.82	2.83	2.93	2.80	3.05	2.62	2.69	2.60	2.67	2.59	2.88
地域などのコミュニティの活性化	2.64	2.66	2.71	2.75	2.70	2.86	2.57	2.62	2.72	2.85	2.83	2.98
レクリエーション、スポーツの振興	2.75	2.78	2.86	2.83	2.85	3.11	2.55	2.63	2.73	2.74	2.84	2.82
歴史・文化の振興	2.79	2.85	2.82	2.91	2.85	3.12	2.61	2.68	2.66	2.72	2.75	2.83
国際交流の推進	2.77	2.84	2.90	2.94	2.90	3.05	2.60	2.66	2.64	2.63	2.65	2.88
男女共同参画の推進	2.64	2.70	2.77	2.84	2.74	2.95	2.46	2.59	2.58	2.60	2.58	2.79
雇用対策や就業環境の向上	2.15	2.24	2.40	2.34	2.19	2.89	3.18	3.13	3.04	2.97	3.03	2.99
町内情報通信基盤の整備	2.44	2.48	2.55	2.60	2.59	3.06	2.87	2.90	2.80	2.79	2.87	2.94
町の情報の積極的な公表・発信	2.80	2.75	2.78	2.91	2.83	3.11	2.98	3.01	2.93	2.93	2.95	3.07
まちづくりへの住民参画・協働	2.46	2.47	2.50	2.49	2.43	2.78	3.03	3.07	2.95	2.94	2.99	3.08
ボートレース事業の振興	2.38	2.51	2.67	2.76	2.73	3.18	2.79	2.75	2.78	2.85	2.92	3.10
行財政改革の推進	2.32	2.36	2.41	2.42	2.34	2.92	3.14	3.15	3.21	3.28	3.29	3.37

1．満足度の分析

【満足度が上昇・低下した主な項目】

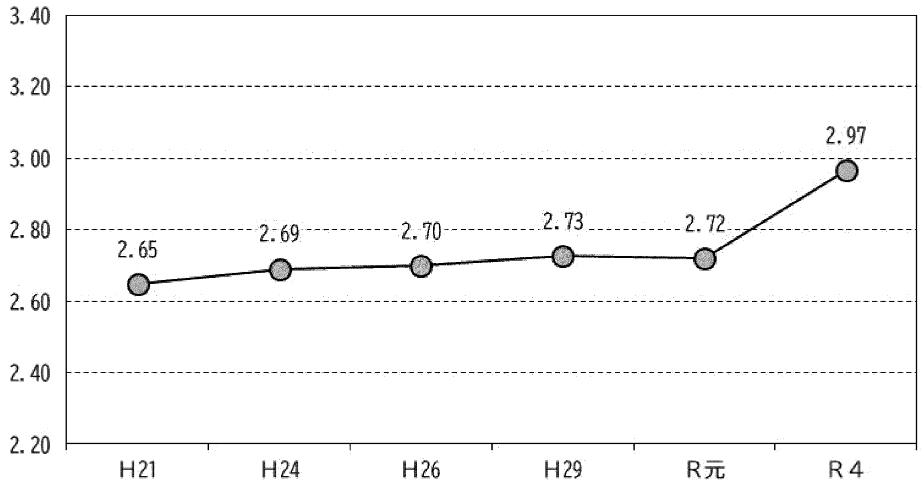
上昇した主な項目	低下した主な項目
①雇用対策や就業環境の向上 ②商業の振興 ③商店街などの中心市街地の整備 ④地震や風水害などの防災対策 ⑤町内情報通信基盤の整備 ⑥ボートレース事業の振興及び行財政改革の推進	満足度が低下した項目はありませんでした。

（1）満足度について

「満足」４点、「やや満足」３点、「やや不満」２点、「不満」１点の設定であるため、平均は2.5点です。

平成21年度から令和４年度の満足度の平均評定値をみると、全項目の平均はすべての年度で2.5点を上回っており、満足度は比較的高いと考えられます。

平成21年度から令和元年度にかけては横ばいが続いたものの、今回の令和４年度は+0.25ポイントの大きな上昇となっています。これは、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、町の取り組みが評価されたものと考えられます。

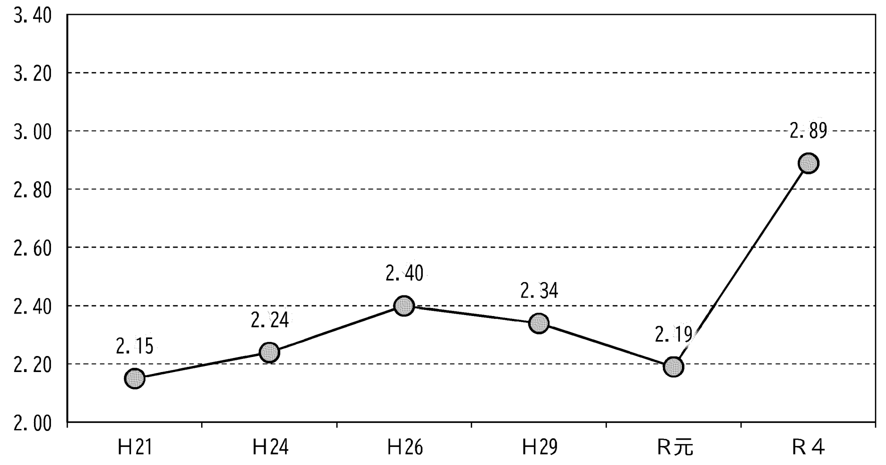


（２）満足度が上昇した主な項目について

①雇用対策や就業環境の向上

満足度は平成 21 年度から平成 26 年度にかけて+0.25 ポイント上昇し、平成 26 年度から令和元年度にかけて-0.21 ポイント低下したものの、今回の令和４年度に+0.70 ポイントの大きな上昇となっています。理由として以下の事項が考えられます。

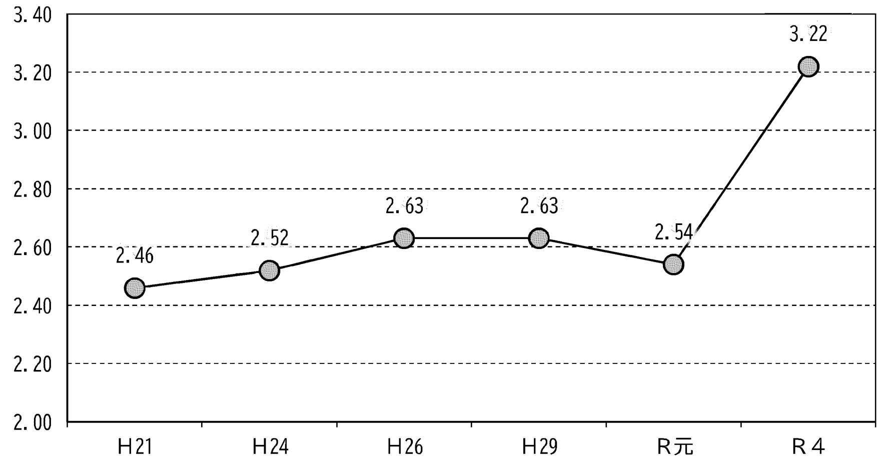
・ 「創業等促進事業補助金」の申請件数が、平成 27 年度からの５年間で年平均 2.20 件だったのに対し、令和２年度以降の３年間では年平均 5.00 件に増加するなど、新たな事業などの創出によって、地域経済の活性化や雇用の創出につながった
・ 町内事業者への給付金支援など新型コロナウイルス感染症対策によって、事業の存続や雇用の維持に寄与した



②商業の振興

満足度は平成 21 年度から令和元年度にかけて+0.08 ポイントのほぼ横ばいで、今回の令和４年度に+0.68 ポイントの大きな上昇となっています。理由として以下の事項が考えられます。

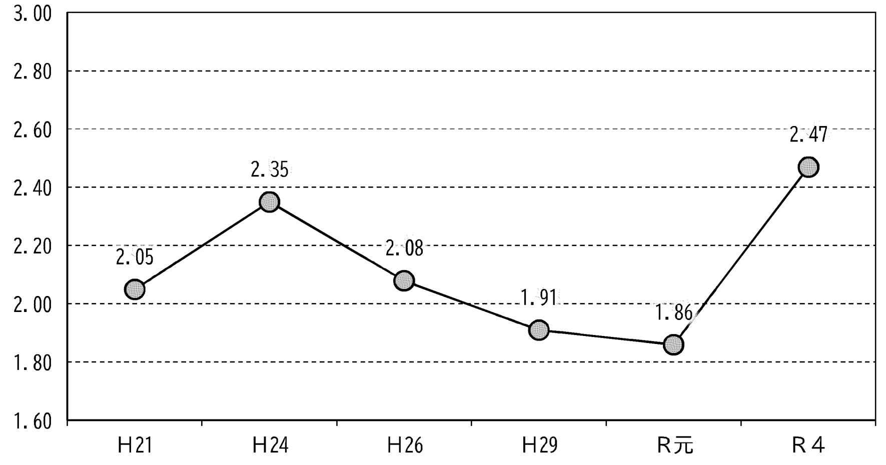
・ 新型コロナウイルス感染症対策として、令和２年５月以降、令和元年度は 15%だった「にこにこ商品券」のプレミアム率を最大 35%まで上乗せし、町内での消費喚起を促した



③商店街などの中心市街地の整備

満足度は平成 21 年度から平成 24 年度にかけて+0.30 ポイント上昇し、そこから令和元年度にかけて-0.49 ポイントの低下となった後、今回の令和４年度に+0.61 ポイントの大きな上昇となっています。理由として以下の事項が考えられます。

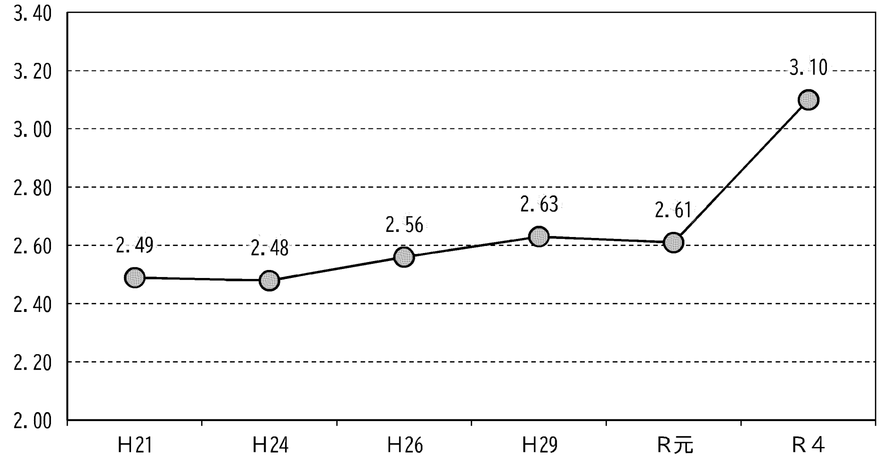
・「芦屋町空き店舗等活用事業補助金」の申請件数が、平成 26 年度からの６年間で年平均 1.33 件だったのに対し、令和２年度以降は年平均 2.67 件に増加するなど、新たな店舗・事業がまちのにぎわいづくりに寄与した
・新型コロナウイルス感染症対策として、事業復活支援金の上乗せや家賃支援を行い、町内事業者を支援した



④地震や風水害などの防災対策

満足度は平成 21 年度から令和元年度にかけて+0.12 ポイントゆるやかに上昇し、今回の令和４年度に+0.49 ポイントの大きな上昇となっています。理由として以下の事項が考えられます。

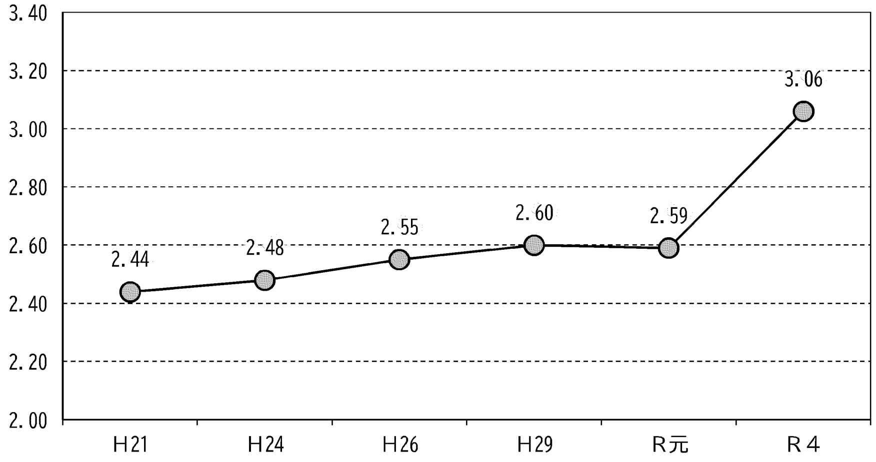
・令和３年 11 月から、「地域情報伝達システム」の導入（戸別受信機の全戸配布）を行い、自宅に居ながら、即時かつ確実に音と文字で避難情報を把握できる環境を整備した
・防災訓練の実施や避難所備蓄物資の充実、指定避難所の空調整備など、ソフト・ハード両面の防災対策を行った



⑤町内情報通信基盤の整備

満足度は平成 21 年度から令和元年度にかけて+0.15 ポイントゆるやかに上昇し、今回の令和４年度に+0.47 ポイントの大きな上昇となっています。理由として以下の事項が考えられます。

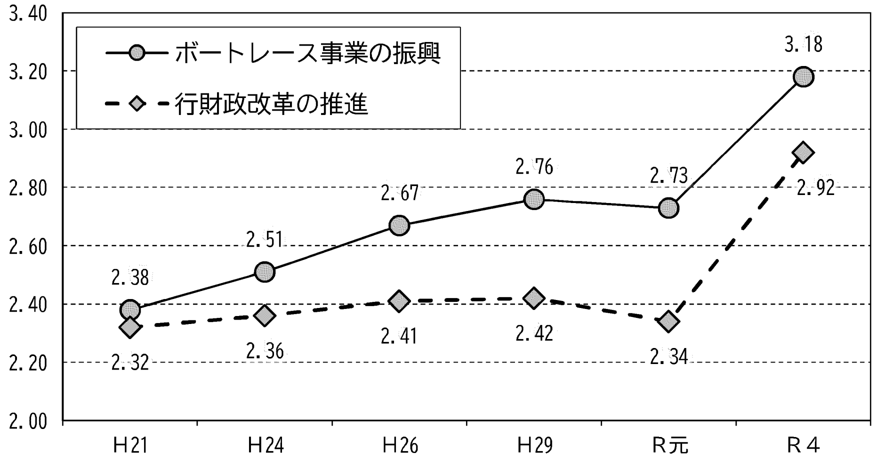
・ 平成 29 年度以降令和３年度にかけて、役場庁舎や総合体育館などに防災用の、芦屋釜の里などに観光用の Wi-Fi スポットを構築し、来訪者の Wi-Fi 利用が可能になった



⑥ボートレース事業の振興及び行財政改革の推進

満足度は平成 21 年度から令和元年度にかけて、ボートレース事業の振興では+0.35 ポイント上昇、行財政改革の推進ではほぼ横ばいでしたが、今回の令和４年度にボートレース事業の振興では+0.45 ポイント、行財政改革の推進では+0.58 ポイントの大きな上昇となり、どちらも過去最高となりました。理由としては以下の事項が考えられます。

・ ボートレース事業の業績が上向き、令和２年度には７億円、令和３年度には 10 億７千万円を町に繰り出すことができた
・ ボートレース事業の繰入金を活用して、新型コロナウイルス感染症対策事業や子育て支援施策、小中学校情報機器（ICT）活用推進事業などを行うことができた



2．重要度の分析

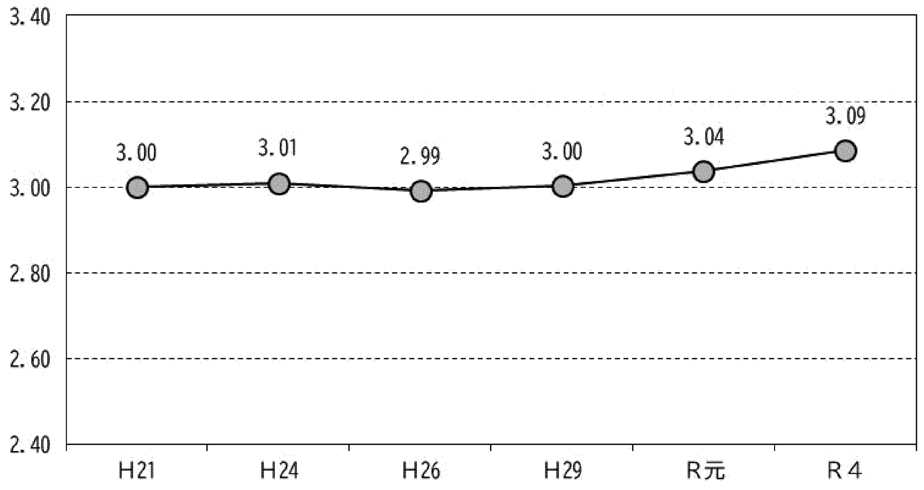
【重要度が上昇・低下した主な項目】

上昇した主な項目	低下した主な項目
①商業の振興	①犯罪などの防犯対策
②人権教育の推進	②火事などの消防対策
③国際交流の推進	③公共交通機関の利便性
④男女共同参画の推進	④学校教育と就学前の教育の充実
⑤ボートレース事業の振興	⑤交通安全の推進

（1）重要度について

「極めて重要」４点、「重要」３点、「あまり重要でない」２点、「重要でない」１点の設定であるため、平均は2.5点です。

平成21年度から令和４年度の重要度の平均評定値をみると、全項目の平均はほぼ同水準となっています。



（２）重要度の年度別の傾向について

重要度の平均評定値が高い項目は、１位は「地域医療の充実」で 3.42 点、２位は「上水道の安定供給」で 3.38 点、以下「行財政改革の推進」（３位、3.37 点）、「下水道」、「地震や風水害などの防災対策」、「健康づくり事業の充実」（４位、3.33 点）などとなっています。

過去の調査の上位５位までの重要度をみると、毎回必ず５位までに入っていた「火事などの消防対策」（今回９位）と「犯罪などの防犯対策」（今回 10 位）は順位を下げており、替わって「行財政改革の推進」（今回３位）と「健康づくり事業の充実」（今回４位）が上位となっています。

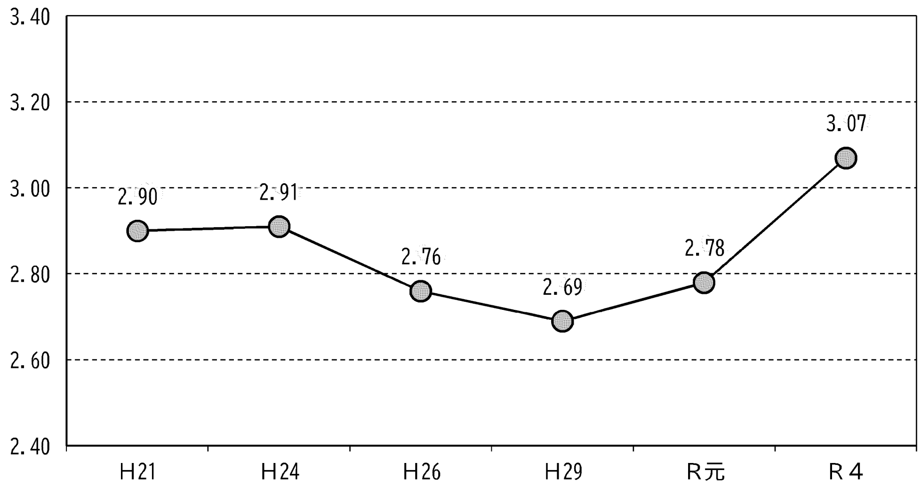
【重要度の変動】

項目名	H21		H24		H26		H29		R元		R4	
地域医療の充実	1位	3.46	2位	3.39	1位	3.38	1位	3.38	1位	3.41	1位	3.42
上水道の安定供給	6位	3.25	6位	3.27	6位	3.26	7位	3.26	3位	3.38	2位	3.38
行財政改革の推進	12位	3.14	11位	3.15	8位	3.21	5位	3.28	8位	3.29	3位	3.37
下水道	5位	3.28	4位	3.32	5位	3.27	5位	3.28	5位	3.36	4位	3.33
地震や風水害などの防災対策	2位	3.35	1位	3.45	1位	3.38	2位	3.37	2位	3.39	4位	3.33
健康づくり事業の充実	7位	3.24	9位	3.19	10位	3.20	11位	3.19	9位	3.27	4位	3.33
犯罪などの防犯対策	3位	3.33	5位	3.31	4位	3.32	4位	3.32	5位	3.36	10位	3.18
火事などの消防対策	4位	3.31	3位	3.37	3位	3.34	2位	3.37	3位	3.38	9位	3.20

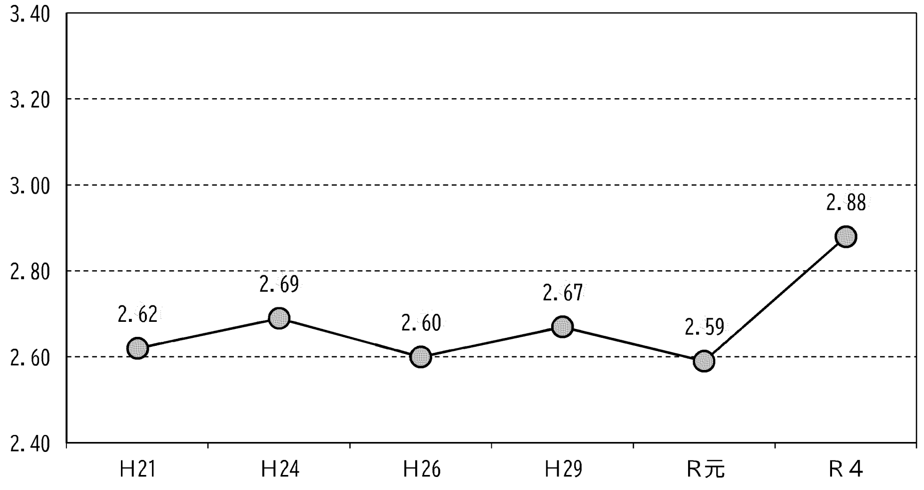
（３）重要度が上昇した主な項目について

令和４年度の調査で重要度が特に上昇した５項目は、①「商業の振興」(+0.29 ポイント上昇)、②「人権教育の推進」（+0.29 ポイント上昇）、③「国際交流の推進」（+0.23 ポイント上昇）、④「男女共同参画の推進」（+0.21 ポイント上昇）、⑤「ボートレース事業の振興」（+0.18 ポイント上昇）となっています。

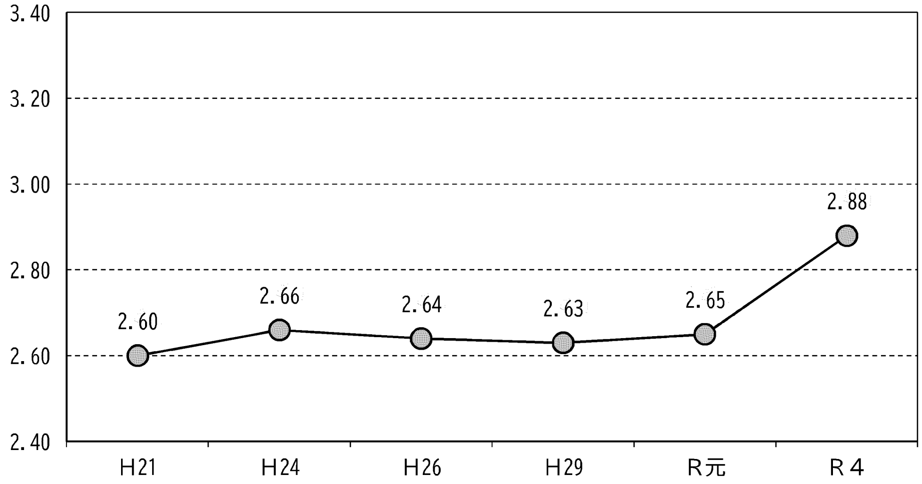
①商業の振興



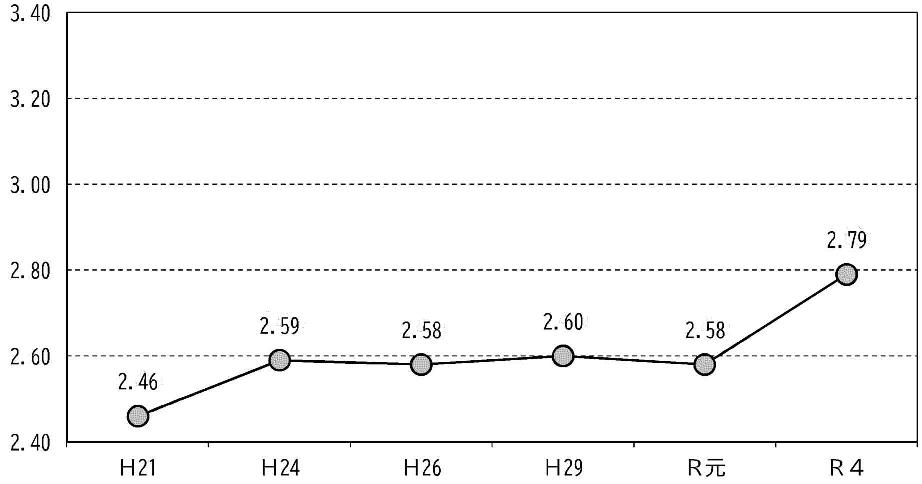
②人権教育の推進



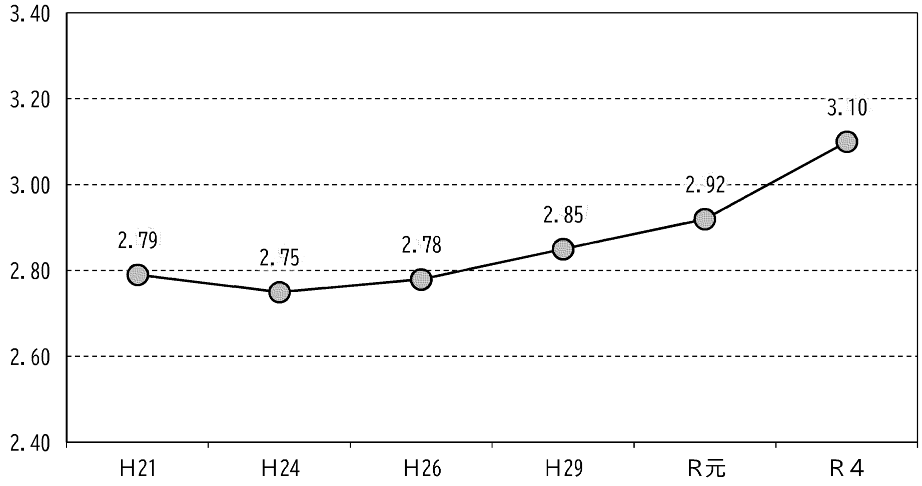
③国際交流の推進



④男女共同参画の推進



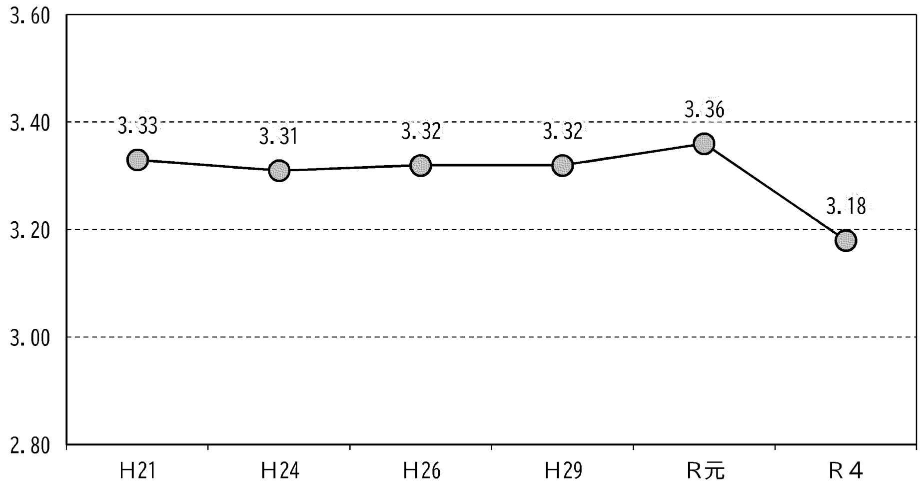
⑤ボートレース事業の振興



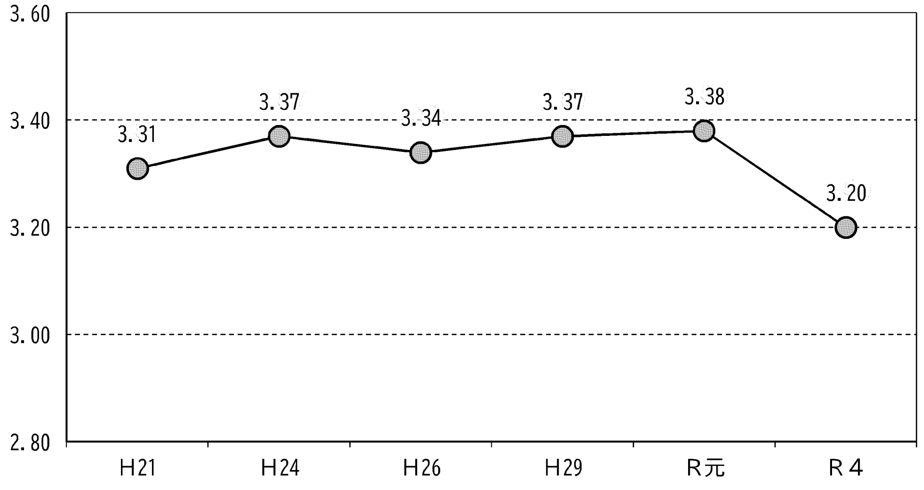
（4）重要度が低下した主な項目について

令和４年度の調査で重要度が大きく低下した５項目は、①「犯罪などの防犯対策」（−0.18 ポイント低下）、②「火事などの消防対策」（−0.18 ポイント低下）、③「公共交通機関の利便性」（−0.13 ポイント低下）、④「学校教育と就学前の教育の充実」（−0.10 ポイント低下）、⑤「交通安全の推進」（−0.09 ポイント低下）となっています。ただし、これらの５項目はどれもが全項目の平均重要度 3.09 点を超えていることから、引き続き重要な項目であることに変わりはありません。

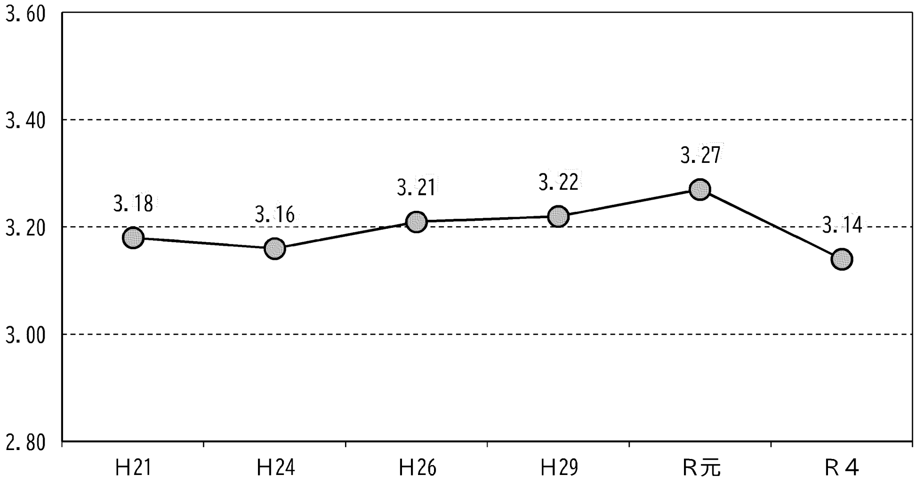
①犯罪などの防犯対策



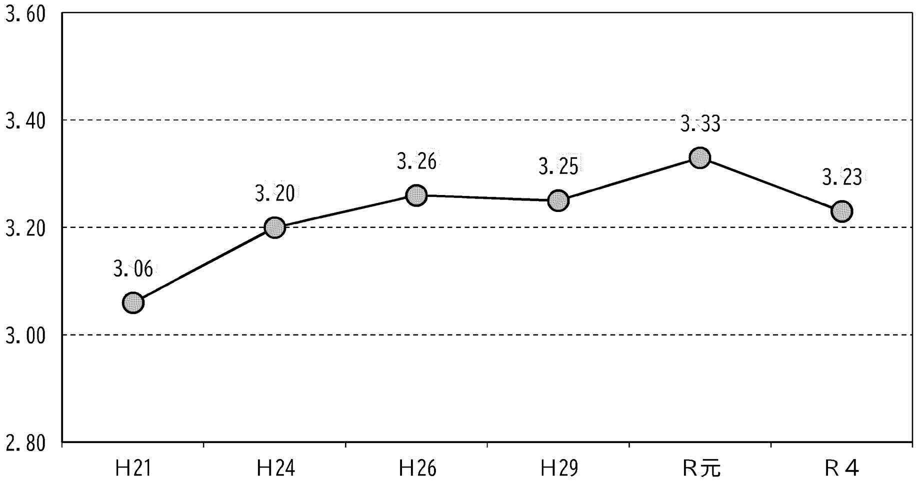
②火事などの消防対策



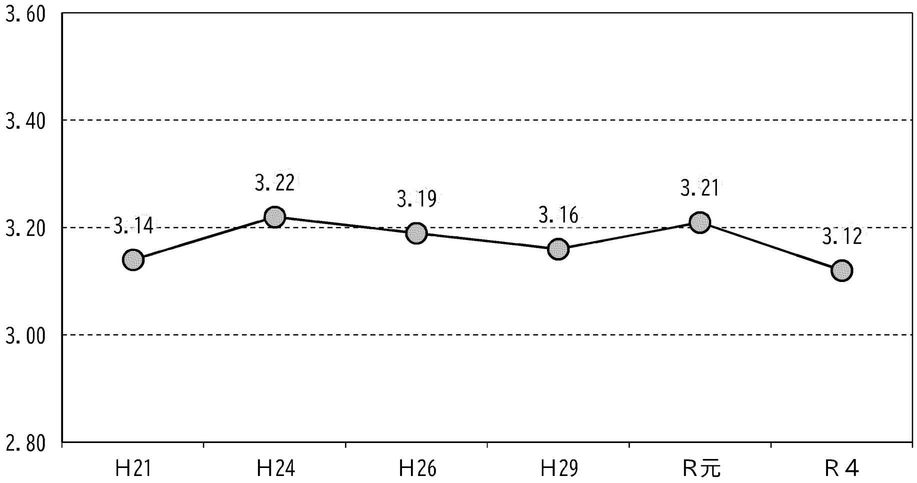
③公共交通機関の利便性



④学校教育と就学前の教育の充実



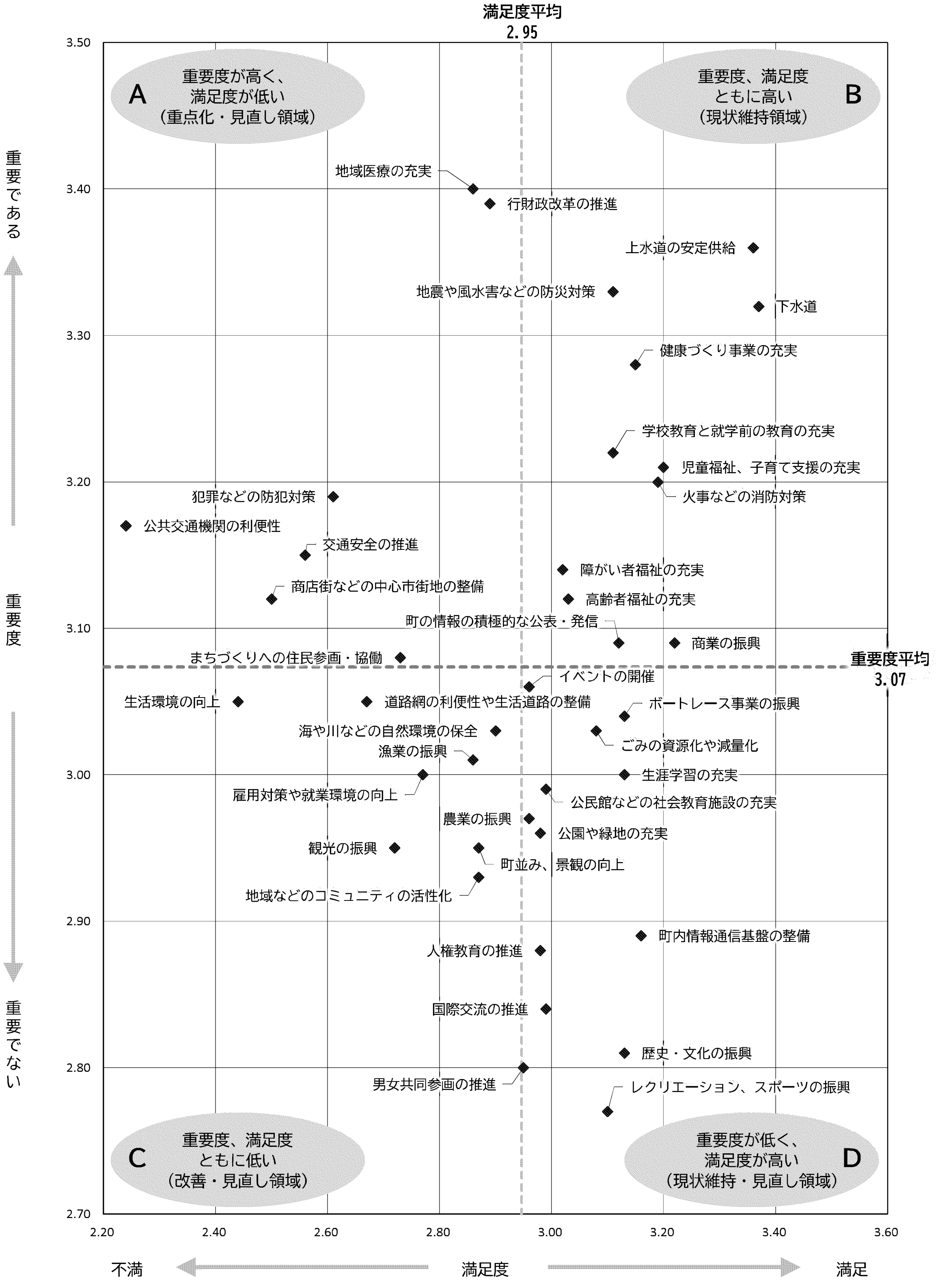
⑤交通安全の推進



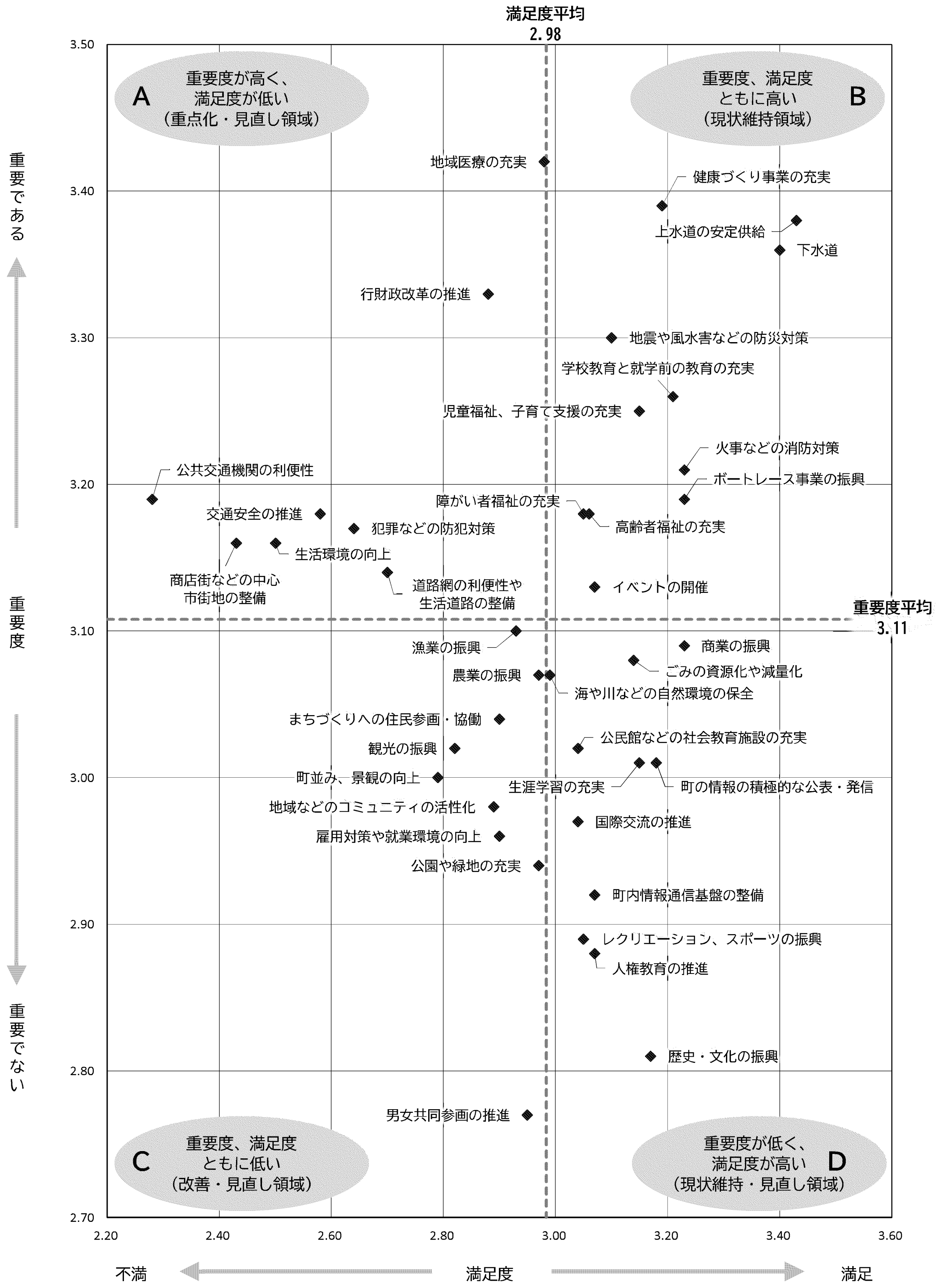
3. 資料編

1. 満足度と重要度の相関図による分析（クロス集計：小学校区別・性別・年齢別）

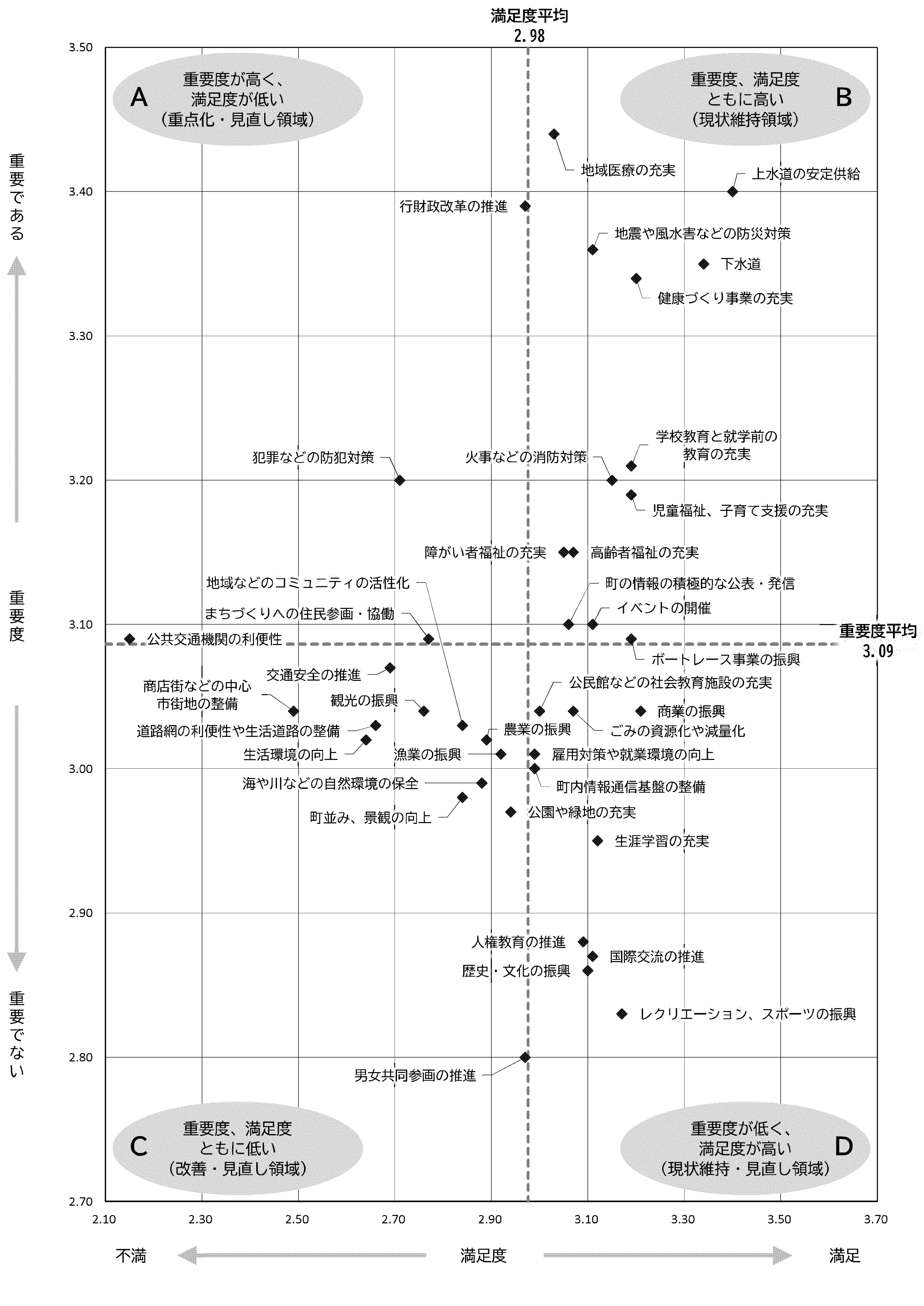
◆芦屋小学校区◆



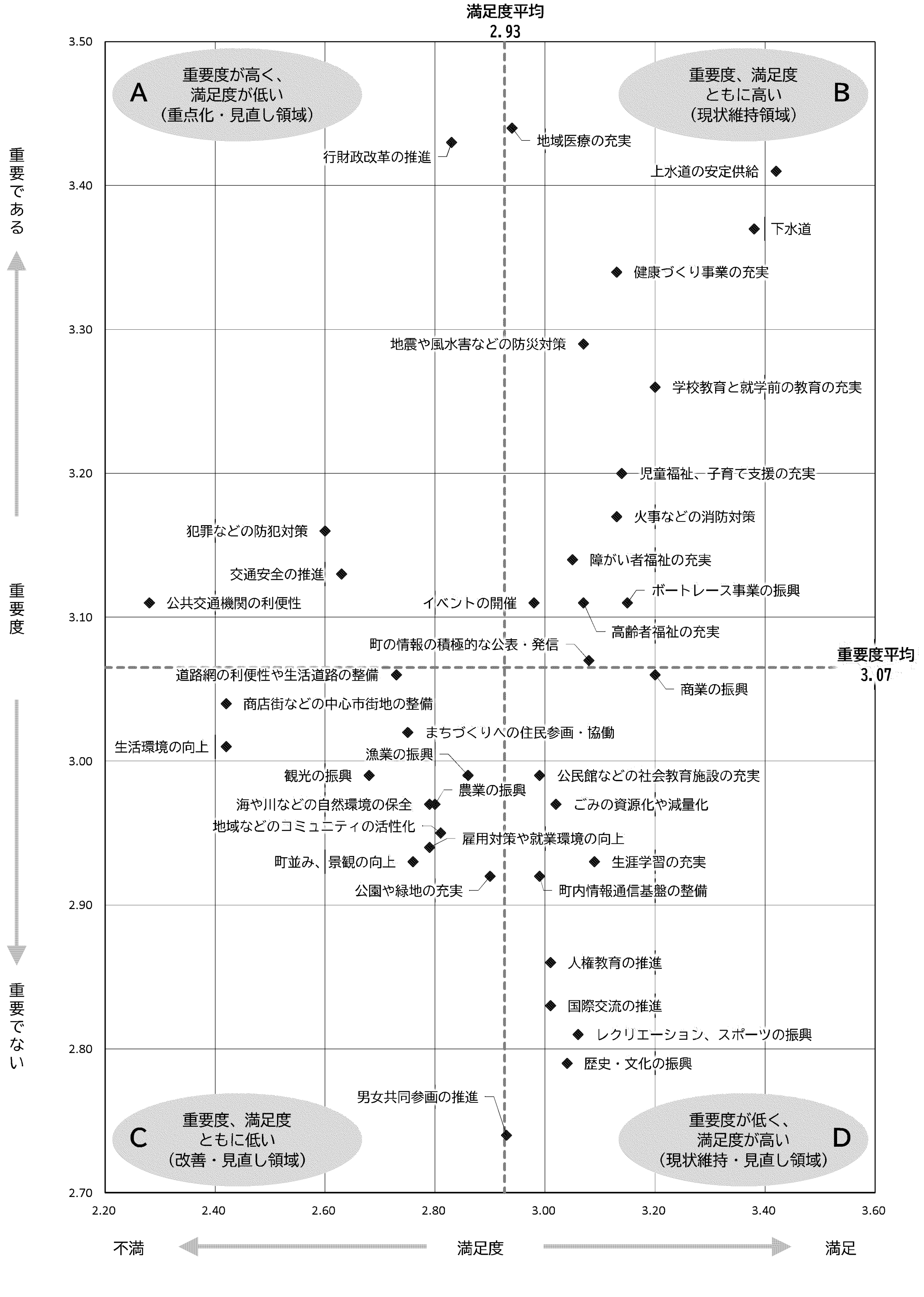
◆芦屋東小学校区◆


満足度平均
2.98
重要度平均
3.11
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
地域医療の充実
健康づくり事業の充実
上水道の安定供給
下水道
行財政改革の推進
地震や風水害などの防災対策
学校教育と就学前の教育の充実
児童福祉、子育て支援の充実
火事などの消防対策
公共交通機関の利便性
ボートレース事業の振興
障がい者福祉の充実
交通安全の推進
高齢者福祉の充実
犯罪などの防犯対策
生活環境の向上
商店街などの中心
市街地の整備
道路網の利便性や
生活道路の整備
イベントの開催
漁業の振興
商業の振興
ごみの資源化や減量化
農業の振興
海や川などの自然環境の保全
まちづくりへの住民参画・協働
公民館などの社会教育施設の充実
観光の振興
町並み、景観の向上
生涯学習の充実
町の情報の積極的な公表・発信
地域などのコミュニティの活性化
国際交流の推進
雇用対策や就業環境の向上
公園や緑地の充実
町内情報通信基盤の整備
レクリエーション、スポーツの振興
人権教育の推進
歴史・文化の振興
男女共同参画の推進

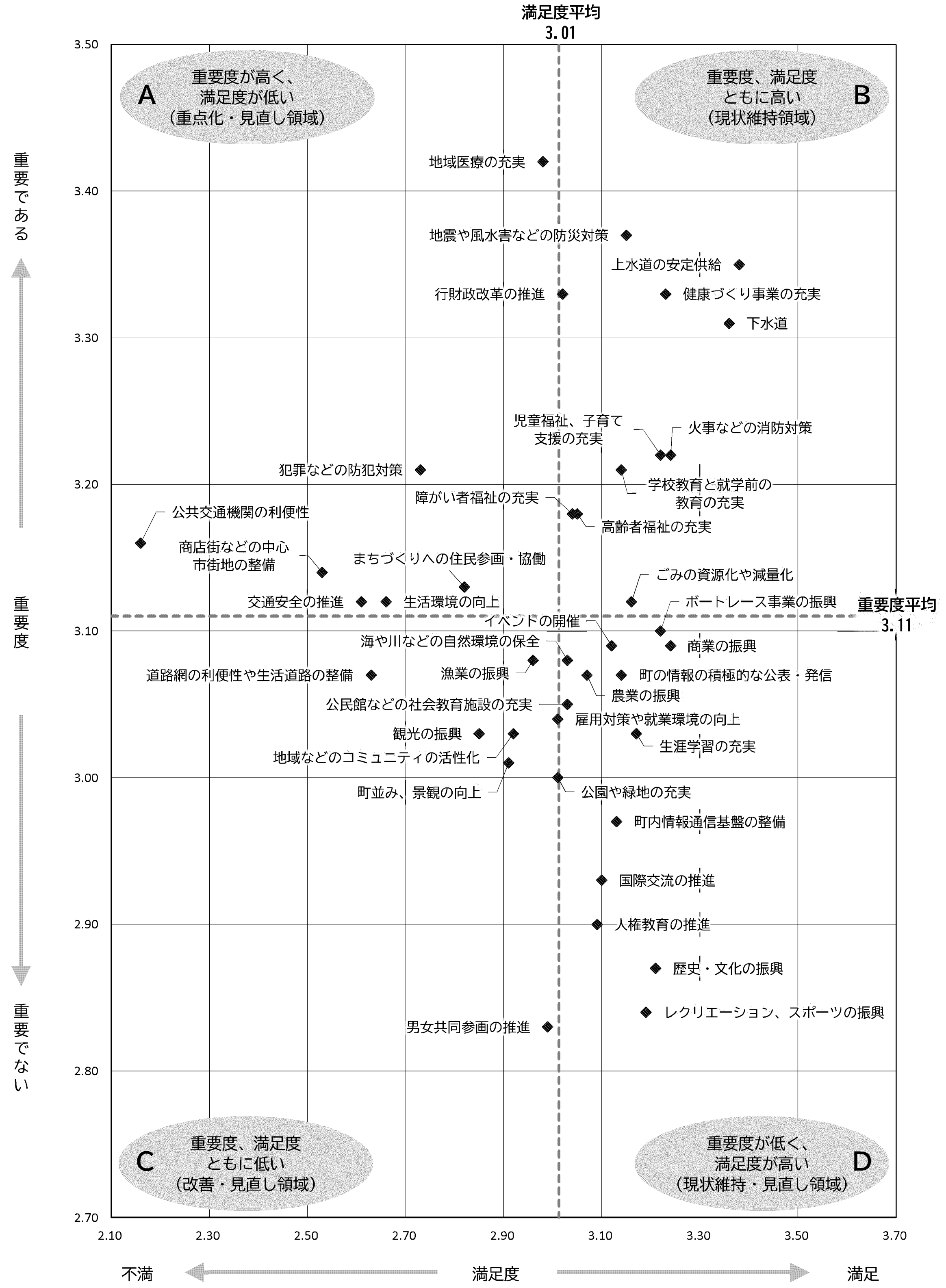
◆山鹿小学校区◆


満足度平均
2.98
重要度平均
3.09
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.10
2.30
2.50
2.70
2.90
3.10
3.30
3.50
3.70
地域医療の充実
上水道の安定供給
行財政改革の推進
地震や風水害などの防災対策
下水道
健康づくり事業の充実
学校教育と就学前の
教育の充実
犯罪などの防犯対策
火事などの消防対策
児童福祉、子育て支援の充実
障がい者福祉の充実
高齢者福祉の充実
地域などのコミュニティの活性化
町の情報の積極的な公表・発信
まちづくりへの住民参画・協働
イベントの開催
公共交通機関の利便性
ボートレース事業の振興
交通安全の推進
公民館などの社会教育施設の充実
商店街などの中心
市街地の整備
観光の振興
商業の振興
道路網の利便性や生活道路の整備
農業の振興
ごみの資源化や減量化
生活環境の向上
漁業の振興
雇用対策や就業環境の向上
海や川などの自然環境の保全
町内情報通信基盤の整備
町並み、景観の向上
公園や緑地の充実
生涯学習の充実
人権教育の推進
国際交流の推進
歴史・文化の振興
レクリエーション、スポーツの振興
男女共同参画の推進

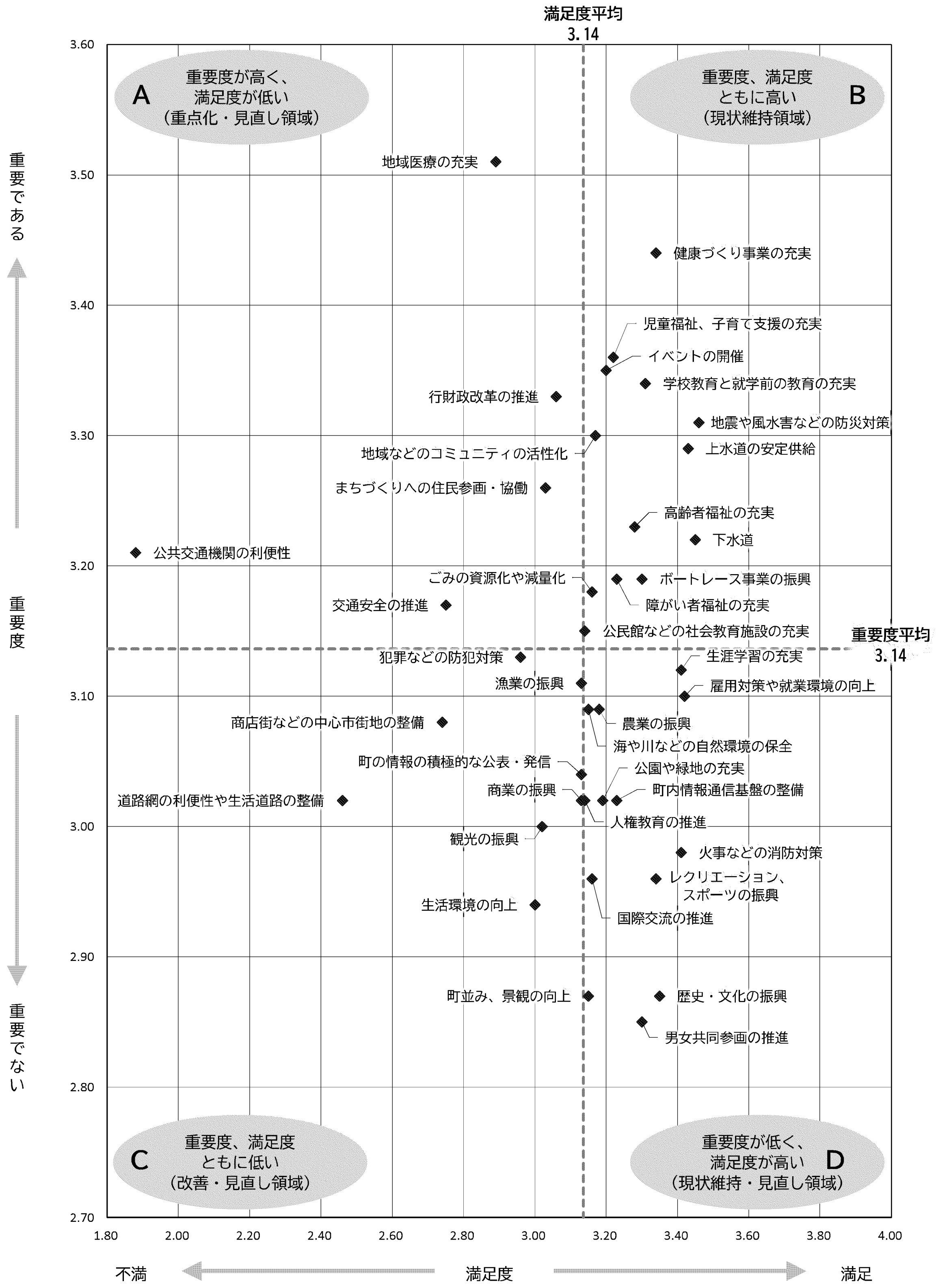
◆男性◆


満足度平均
2.93
重要度平均
3.07
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
地域医療の充実
行財政改革の推進
上水道の安定供給
下水道
健康づくり事業の充実
地震や風水害などの防災対策
学校教育と就学前の教育の充実
児童福祉、子育て支援の充実
火事などの消防対策
犯罪などの防犯対策
障がい者福祉の充実
交通安全の推進
ボートレース事業の振興
公共交通機関の利便性
イベントの開催
高齢者福祉の充実
町の情報の積極的な公表・発信
道路網の利便性や生活道路の整備
商業の振興
商店街などの中心市街地の整備
まちづくりへの住民参画・協働
生活環境の向上
漁業の振興
観光の振興
公民館などの社会教育施設の充実
農業の振興
海や川などの自然環境の保全
ごみの資源化や減量化
地域などのコミュニティの活性化
雇用対策や就業環境の向上
町並み、景観の向上
生涯学習の充実
公園や緑地の充実
町内情報通信基盤の整備
人権教育の推進
国際交流の推進
レクリエーション、スポーツの振興
歴史・文化の振興
男女共同参画の推進

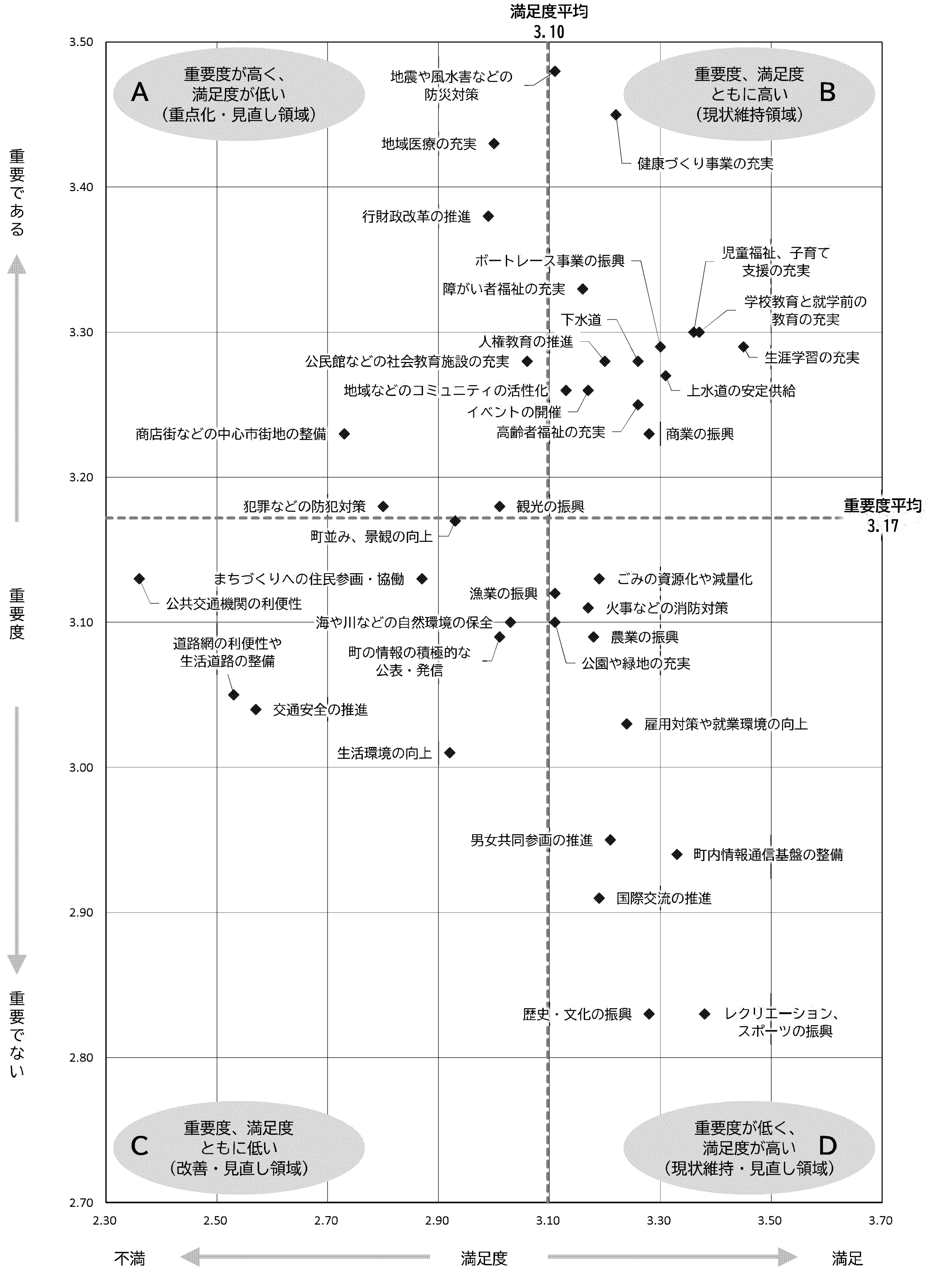
◆女性◆


満足度平均
3.01
重要度平均
3.11
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.10
2.30
2.50
2.70
2.90
3.10
3.30
3.50
3.70
地域医療の充実
地震や風水害などの防災対策
上水道の安定供給
行財政改革の推進
健康づくり事業の充実
下水道
児童福祉、子育て
支援の充実
火事などの消防対策
犯罪などの防犯対策
学校教育と就学前の
教育の充実
障がい者福祉の充実
高齢者福祉の充実
公共交通機関の利便性
商店街などの中心
市街地の整備
まちづくりへの住民参画・協働
ごみの資源化や減量化
交通安全の推進
生活環境の向上
ボートレース事業の振興
イベントの開催
海や川などの自然環境の保全
商業の振興
道路網の利便性や生活道路の整備
漁業の振興
町の情報の積極的な公表・発信
農業の振興
公民館などの社会教育施設の充実
雇用対策や就業環境の向上
観光の振興
生涯学習の充実
地域などのコミュニティの活性化
町並み、景観の向上
公園や緑地の充実
町内情報通信基盤の整備
国際交流の推進
人権教育の推進
歴史・文化の振興
レクリエーション、スポーツの振興
男女共同参画の推進

◆20 歳代以下◆

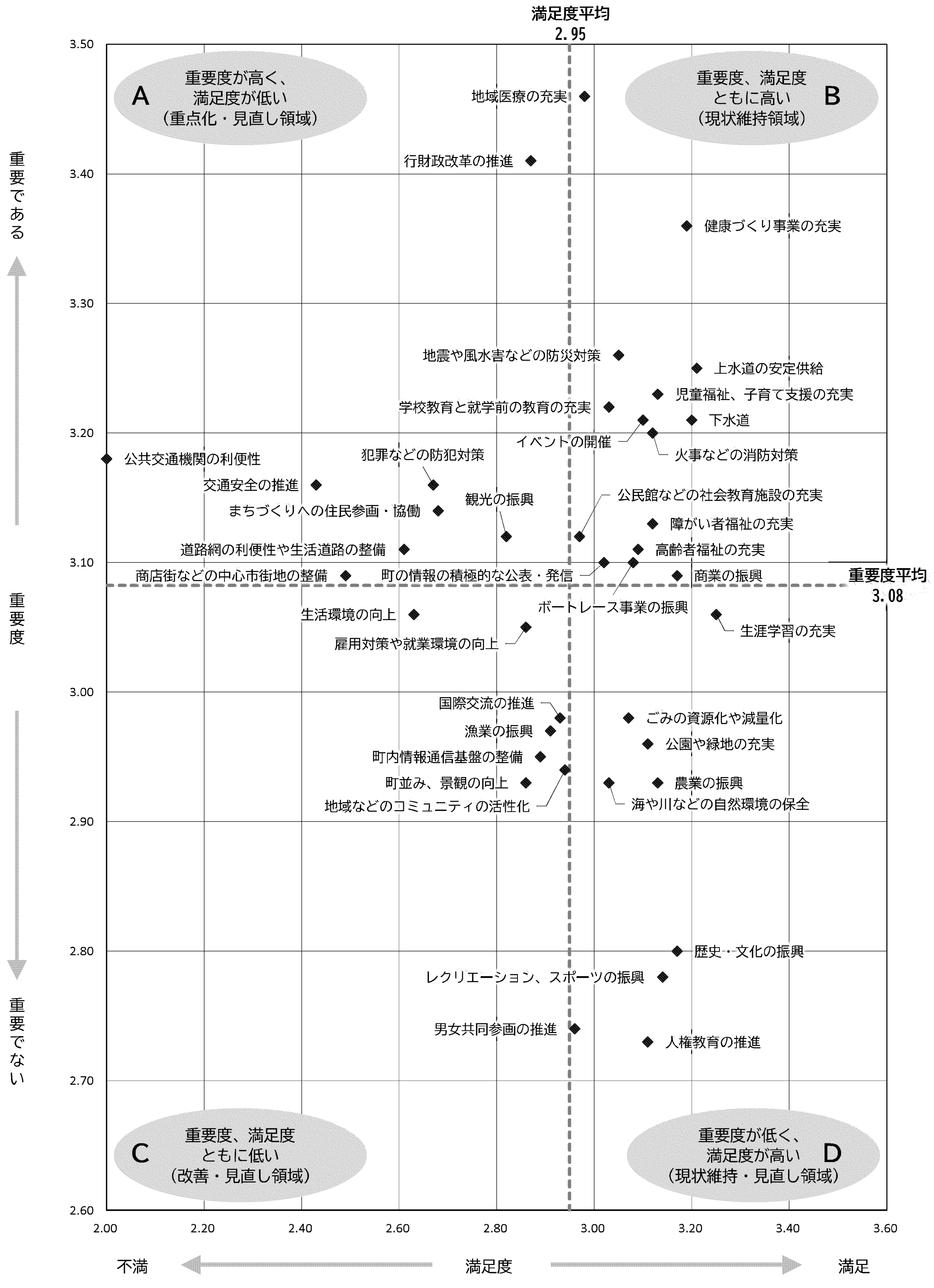

満足度平均
3.14
重要度平均
3.14
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.60
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
1.80
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
3.80
4.00
地域医療の充実
健康づくり事業の充実
児童福祉、子育て支援の充実
イベントの開催
学校教育と就学前の教育の充実
行財政改革の推進
地震や風水害などの防災対策
地域などのコミュニティの活性化
上水道の安定供給
まちづくりへの住民参画・協働
高齢者福祉の充実
下水道
公共交通機関の利便性
ごみの資源化や減量化
ボートレース事業の振興
交通安全の推進
障がい者福祉の充実
公民館などの社会教育施設の充実
犯罪などの防犯対策
生涯学習の充実
漁業の振興
雇用対策や就業環境の向上
商店街などの中心市街地の整備
農業の振興
海や川などの自然環境の保全
町の情報の積極的な公表・発信
公園や緑地の充実
商業の振興
町内情報通信基盤の整備
道路網の利便性や生活道路の整備
人権教育の推進
観光の振興
火事などの消防対策
レクリエーション、
スポーツの振興
生活環境の向上
国際交流の推進
町並み、景観の向上
歴史・文化の振興
男女共同参画の推進

◆30 歳代◆

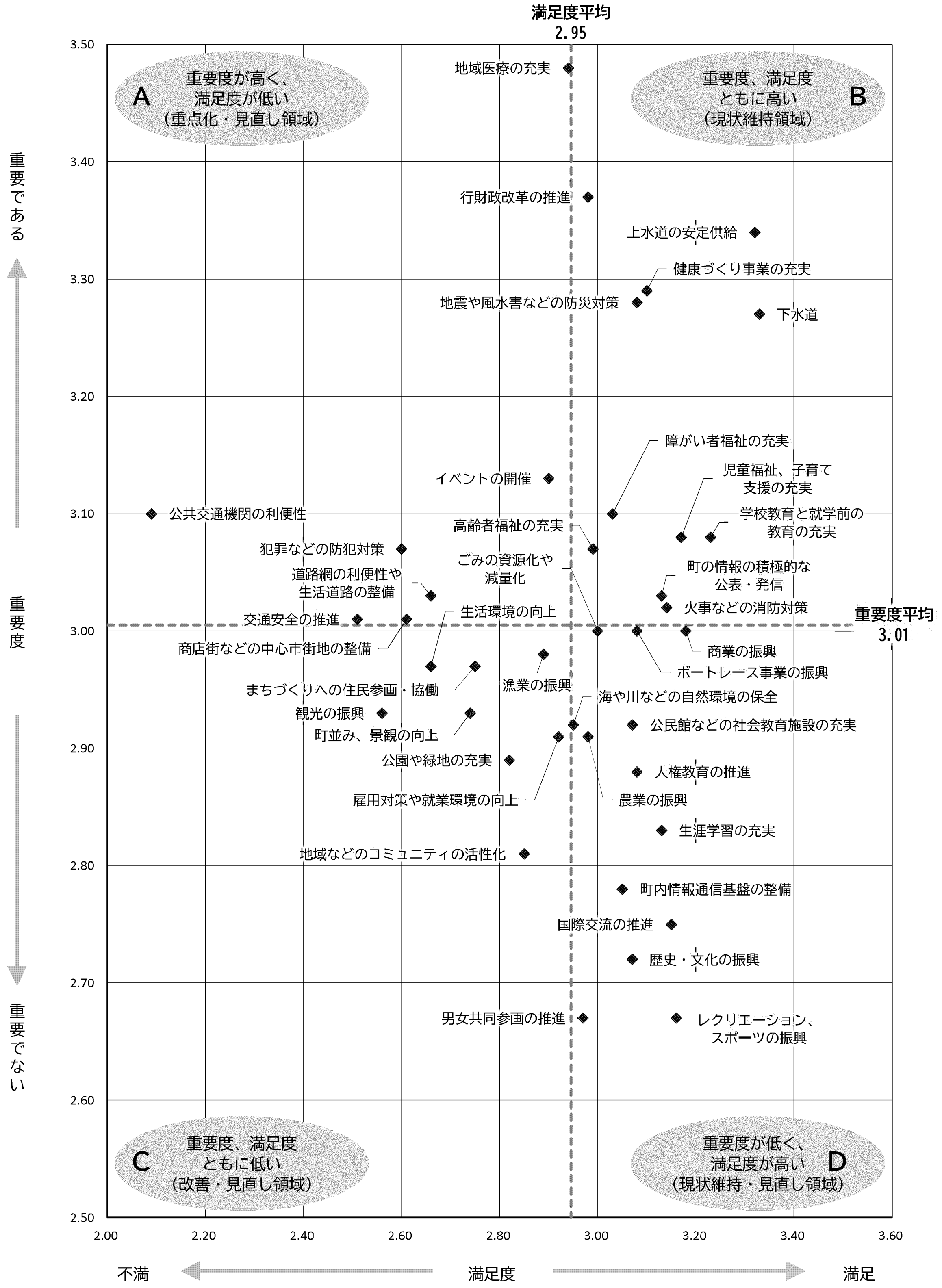


満足度平均
3.10
重要度平均
3.17
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.30
2.50
2.70
2.90
3.10
3.30
3.50
3.70
地震や風水害などの
防災対策
地域医療の充実
健康づくり事業の充実
行財政改革の推進
ボートレース事業の振興
児童福祉、子育て
支援の充実
障がい者福祉の充実
学校教育と就学前の
教育の充実
下水道
人権教育の推進
生涯学習の充実
公民館などの社会教育施設の充実
地域などのコミュニティの活性化
上水道の安定供給
イベントの開催
高齢者福祉の充実
商業の振興
商店街などの中心市街地の整備
犯罪などの防犯対策
観光の振興
町並み、景観の向上
まちづくりへの住民参画・協働
ごみの資源化や減量化
公共交通機関の利便性
漁業の振興
火事などの消防対策
海や川などの自然環境の保全
道路網の利便性や
生活道路の整備
農業の振興
町の情報の積極的な
公表・発信
公園や緑地の充実
交通安全の推進
雇用対策や就業環境の向上
生活環境の向上
男女共同参画の推進
町内情報通信基盤の整備
国際交流の推進
歴史・文化の振興
レクリエーション、
スポーツの振興

◆40 歳代◆

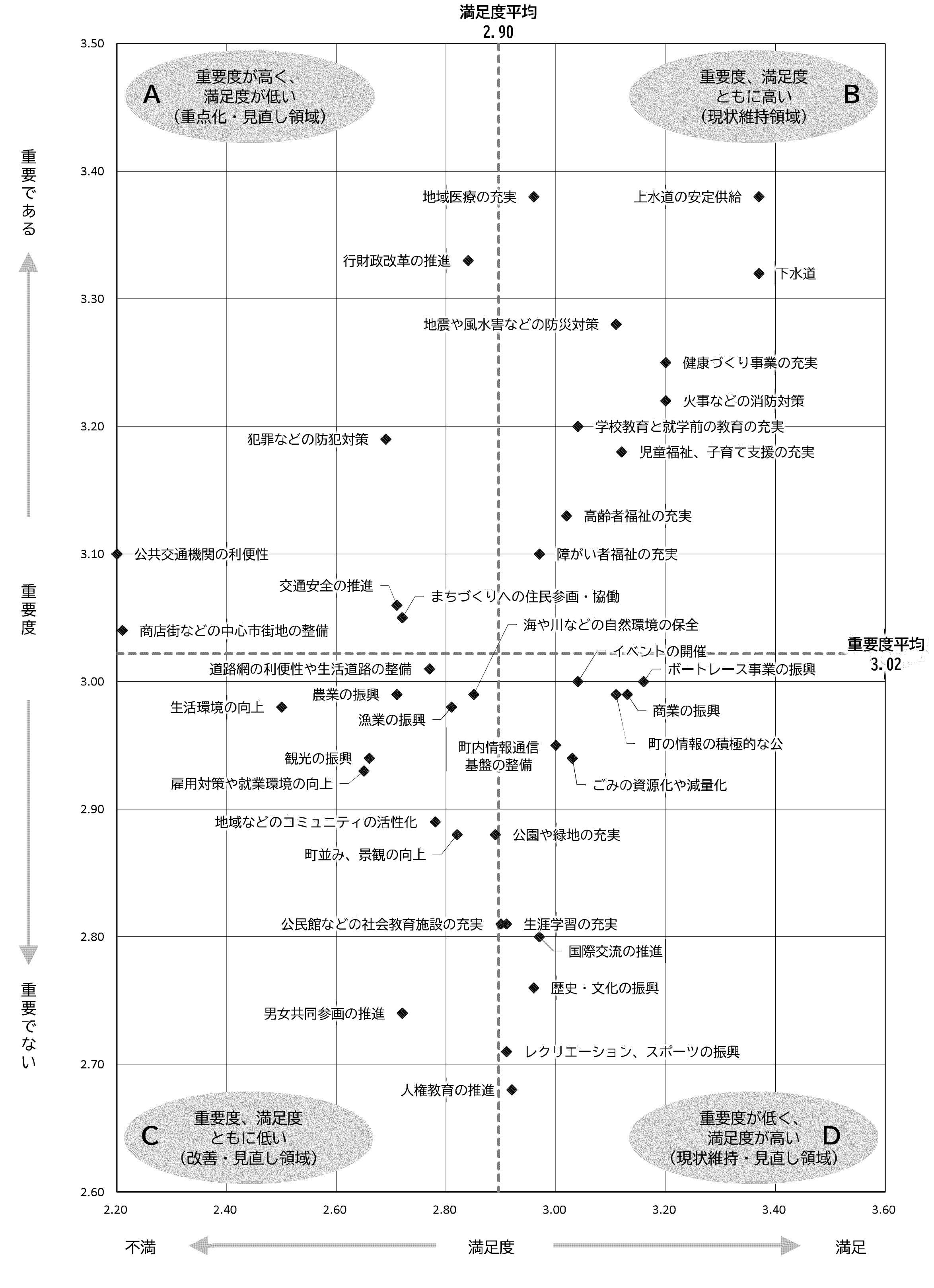

満足度平均
2.95
重要度平均
3.08
A 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）
B 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）
C 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）
D 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.60
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
地域医療の充実
行財政改革の推進
健康づくり事業の充実
地震や風水害などの防災対策
上水道の安定供給
児童福祉、子育て支援の充実
学校教育と就学前の教育の充実
下水道
イベントの開催
火事などの消防対策
公共交通機関の利便性
犯罪などの防犯対策
交通安全の推進
観光の振興
公民館などの社会教育施設の充実
まちづくりへの住民参画・協働
障がい者福祉の充実
道路網の利便性や生活道路の整備
高齢者福祉の充実
商店街などの中心市街地の整備
町の情報の積極的な公表・発信
商業の振興
ボートレース事業の振興
生活環境の向上
生涯学習の充実
雇用対策や就業環境の向上
国際交流の推進
ごみの資源化や減量化
漁業の振興
公園や緑地の充実
町内情報通信基盤の整備
町並み、景観の向上
農業の振興
地域などのコミュニティの活性化
海や川などの自然環境の保全
歴史・文化の振興
レクリエーション、スポーツの振興
男女共同参画の推進
人権教育の推進

◆50 歳代◆



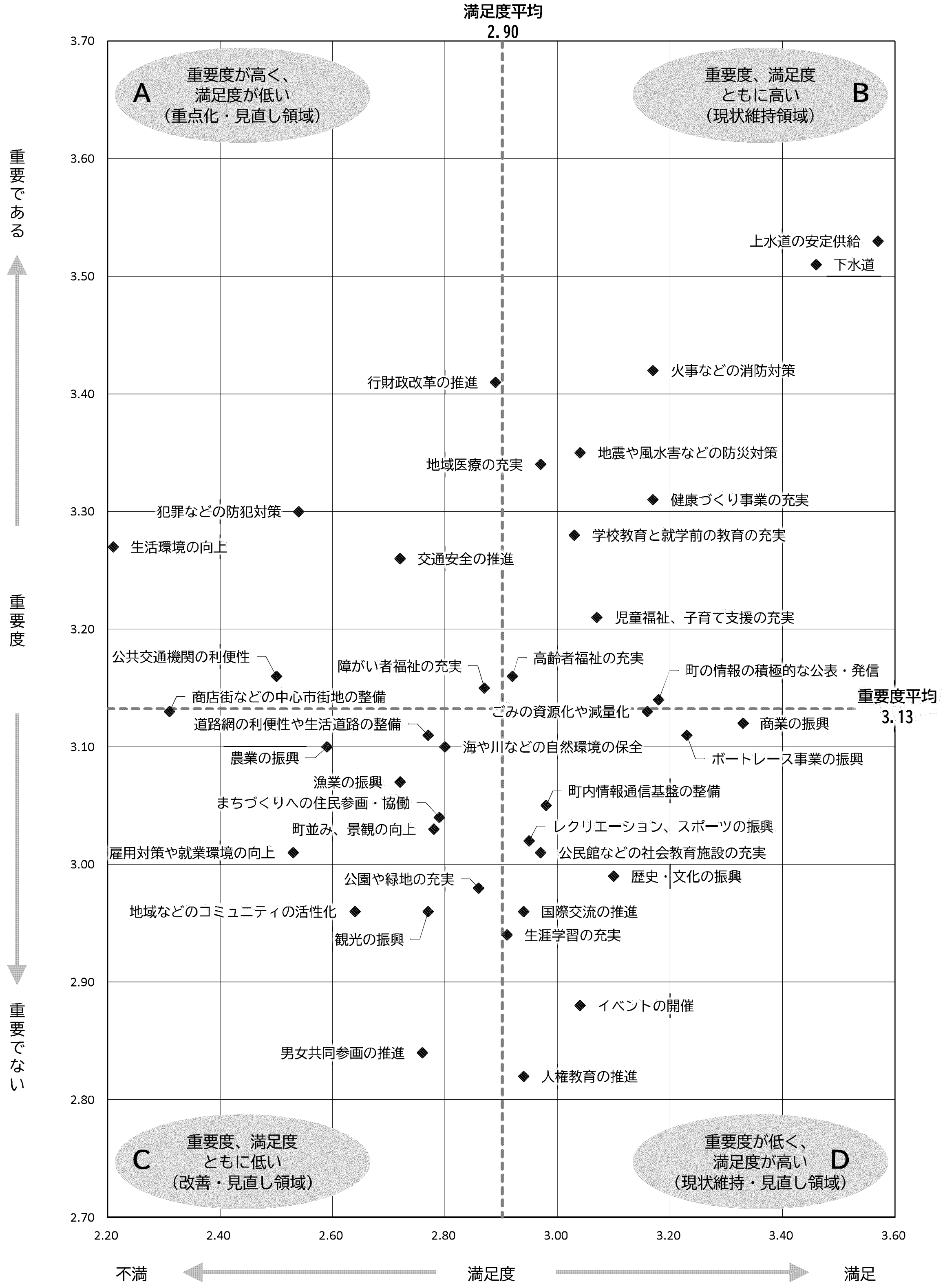
満足度平均
2.95
重要度平均
3.01
A
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
B
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
C
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
D
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.60
2.50
2.00
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
地域医療の充実
行財政改革の推進
上水道の安定供給
健康づくり事業の充実
地震や風水害などの防災対策
下水道
障がい者福祉の充実
児童福祉、子育て
支援の充実
イベントの開催
公共交通機関の利便性
学校教育と就学前の
教育の充実
高齢者福祉の充実
犯罪などの防犯対策
ごみの資源化や
減量化
町の情報の積極的な
公表・発信
道路網の利便性や
生活道路の整備
火事などの消防対策
生活環境の向上
交通安全の推進
商店街などの中心市街地の整備
商業の振興
ボートレース事業の振興
漁業の振興
まちづくりへの住民参画・協働
海や川などの自然環境の保全
観光の振興
公民館などの社会教育施設の充実
町並み、景観の向上
公園や緑地の充実
人権教育の推進
雇用対策や就業環境の向上
農業の振興
生涯学習の充実
地域などのコミュニティの活性化
町内情報通信基盤の整備
国際交流の推進
歴史・文化の振興
男女共同参画の推進
レクリエーション、
スポーツの振興

◆60 歳代◆



満足度平均
2.90
重要度平均
3.02
A 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）
B 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）
C 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）
D 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.60
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
地域医療の充実
上水道の安定供給
行財政改革の推進
下水道
地震や風水害などの防災対策
健康づくり事業の充実
火事などの消防対策
学校教育と就学前の教育の充実
犯罪などの防犯対策
児童福祉、子育て支援の充実
高齢者福祉の充実
公共交通機関の利便性
障がい者福祉の充実
交通安全の推進
まちづくりへの住民参画・協働
海や川などの自然環境の保全
商店街などの中心市街地の整備
イベントの開催
道路網の利便性や生活道路の整備
ボートレース事業の振興
農業の振興
生活環境の向上
商業の振興
漁業の振興
町内情報通信基盤の整備
町の情報の積極的な公
観光の振興
雇用対策や就業環境の向上
ごみの資源化や減量化
地域などのコミュニティの活性化
公園や緑地の充実
町並み、景観の向上
公民館などの社会教育施設の充実
生涯学習の充実
国際交流の推進
歴史・文化の振興
男女共同参画の推進
レクリエーション、スポーツの振興
人権教育の推進

◆70 歳以上◆



満足度平均
2.90
重要度が高く、
満足度が低い
（重点化・見直し領域）
A
重要度、満足度
ともに高い
（現状維持領域）
B
重要度、満足度
ともに低い
（改善・見直し領域）
C
重要度が低く、
満足度が高い
（現状維持・見直し領域）
D
重要度平均
3.13
重要である
重要度
重要でない
不満
満足度
満足
3.70
3.60
3.50
3.40
3.30
3.20
3.10
3.00
2.90
2.80
2.70
2.20
2.40
2.60
2.80
3.00
3.20
3.40
3.60
上水道の安定供給
下水道
火事などの消防対策
行財政改革の推進
地震や風水害などの防災対策
地域医療の充実
健康づくり事業の充実
犯罪などの防犯対策
学校教育と就学前の教育の充実
生活環境の向上
交通安全の推進
児童福祉、子育て支援の充実
公共交通機関の利便性
高齢者福祉の充実
障がい者福祉の充実
町の情報の積極的な公表・発信
商店街などの中心市街地の整備
ごみの資源化や減量化
商業の振興
道路網の利便性や生活道路の整備
海や川などの自然環境の保全
農業の振興
ボートレース事業の振興
漁業の振興
町内情報通信基盤の整備
まちづくりへの住民参画・協働
レクリエーション、スポーツの振興
町並み、景観の向上
雇用対策や就業環境の向上
公民館などの社会教育施設の充実
歴史・文化の振興
公園や緑地の充実
地域などのコミュニティの活性化
国際交流の推進
観光の振興
生涯学習の充実
イベントの開催
男女共同参画の推進
人権教育の推進

2. 調査票

コミュニティ活動状況調査
（住民意識調査）

調査ご協力のお願い

皆さまには、日ごろから町政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。

さて、今回送付させていただきました「コミュニティ活動状況調査（住民意識調査）」は、第６次芦屋町総合振興計画に対する住民の皆さまの評価や、今後のまちづくりに対する意向などを把握するために実施するものです。

また、過去に実施したコミュニティ活動状況調査結果との比較・分析を行うことで、町の取り組みなどに関する課題を抽出し、今後の取り組みに活かそうとするものです。

今回の調査は、本町在住の 18 歳以上の方の中から 2,000 名の皆さまに本調査票をお送りさせていただきました。調査票に記入された内容につきましては、統計的な処理をしたうえで活用させていただくものであり、個人が特定されることは一切ございませんので、皆さまにご迷惑をおかけすることはありません。また、ご回答いただいた内容は、調査の目的以外には使用いたしません。

お忙しい中誠に恐縮ではございますが、本調査の目的、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和４年９月

芦屋町長　波多野 茂丸

★ **あて名のご本人がお答えください。**

★ **回答方法は、以下のいずれかの方法でお願いします。**

1. この調査票に直接記入して郵送回答
   - 次のページの「ご記入にあたってのお願い」をお読みになって、お答えください。
2. インターネットによる回答
   - お手持ちのスマートフォン等で、右記二次元バーコードを読み込んでお答えください。または、下記 URL より回答画面に進み、お答えください。（回答は１人１回、ご本人のみです）

アンケートフォーム URL	https://rsch.jp/71af24c672130d19/login.php

- 回答時には下記のＩＤ・パスワードの入力が必要です。

ＩＤ	«ID»
パスワード	«PW»

- 10 月 14 日（金）までに回答を終えていただくようお願いします。

【調査に関するお問い合わせ先】

芦屋町役場　企画政策課　企画係

電話：(093) 223-3570（直通）　FAX：(093) 223-3927

ご記入にあたってのお願い

・調査票や同封の返信用封筒に氏名や住所を記入する必要はございません。

・回答の方法は、設問によって「１つに○」、「あてはまるものすべてに○」など指定されていますので、その指示に従ってください。

・ご記入いただいた調査票は、**１０月１４日（金）**までに、四つ折りにして同封の返信用封筒に入れて投函してください。（切手と記名は必要ございません）

・インターネットでご回答いただく場合、調査票の提出は不要です。

あなたご自身のことについて

問1　お住まいの小学校区

1．芦屋小学校区	2．芦屋東小学校区	3．山鹿小学校区

問2　性別

1．男性	3．どちらでもない/わからない
2．女性	4．答えたくない

問3　年齢

1．10 歳代	5．50 歳代
2．20 歳代	6．60 歳代
3．30 歳代	7．70 歳以上
4．40 歳代	

問4　職業（主なもの１つに○）

1．農林漁業	7．金融・保険・不動産業
2．製造業、工業	8．公務員
3．建設業	9．主婦・主夫（専業）
4．商業（小売、卸売、飲食）	１０．パート・アルバイト
5．サービス業（公務員を除く）	１１．学生・無職
6．運輸通信業	１２．その他（　　　　　　　　　　　　）

問5　家族構成（※ご一緒にお住まいのご家族についてお答えください）

1．単身者（1 人住まい）	4．三世代家族（夫婦・子ども・孫など）
2．夫婦のみ	5．その他（　　　　　　　　　　　　）
3．二世代家族（夫婦と子どもなど）	

問6　芦屋町での通算居住年数

1．１年未満	4．10 年以上 20 年未満
2．１年以上５年未満	5．20 年以上 30 年未満
3．５年以上 10 年未満	6．30 年以上

町の暮らしやすさについて

問７　芦屋町は住みやすいと感じていますか。（１つに○）

１．住みやすい
２．まあまあ住みやすい
３．あまり住みやすくない
４．住みにくい

（問７で「１」「２」を選んだ方におたずねします。）

問７-１　どのような点で住みやすいと感じていますか。（主なもの３つに○）

１．住宅価格、家賃が適当、安い
２．買い物など日常生活が便利
３．交通の便がよい
４．職場、学校が近い
５．のどかさがあって、静かな居住環境
６．自然が豊か
７．魅力的なイベント、行事がある
８．治安がよい
９．近所づきあいがよい
10．町のイメージがよい
11．子育て支援が充実している
12．高齢者、障がい者福祉が充実している
13．医療環境が充実している
14．学校の教育内容、環境がよい
15．定住に関する補助が充実している
16．都市基盤が整備されている
17．親戚、知り合い、友人が近くにいる
18．親、子どもが近くにいる
19．その他
（　　　　　　　　　　）

（問７で「３」「４」を選んだ方におたずねします。）

問７-２　どのような点で住みにくいと感じていますか。（主なもの３つに○）

１．住宅価格、家賃が適当でない、高い
２．買い物など日常生活が不便
３．交通の便がよくない
４．職場、学校が遠い
５．居住環境が騒がしい
６．自然が少ない
７．魅力的なイベント、行事がない
８．治安がよくない
９．近所づきあいがよくない
10．町のイメージがよくない
11．子育て支援が充実していない
12．高齢者、障がい者福祉が充実していない
13．医療環境が充実していない
14．学校の教育内容、環境がよくない
15．定住に関する補助が充実していない
16．都市基盤が整備されていない
17．親戚、知り合い、友人が近くにいない
18．親、子どもが近くにいない
19．その他
（　　　　　　　　　　）

問８　今後も芦屋町に住み続けたいですか。（１つに○）

１．ずっと住み続けたい
２．当分住み続けたい
３．いずれ町外に出ていきたい
４．わからない

（問８で「１」「２」を選んだ方におたずねします。）

問８-１　どのような点で今後も住み続けたいと思いますか。（主なもの３つに○）

１．住宅価格、家賃が適当、安い
２．買い物など日常生活が便利
３．交通の便がよい
４．職場、学校が近い
５．のどかさがあって、静かな居住環境
６．自然が豊か
７．魅力的なイベント、行事がある
８．治安がよい
９．近所づきあいがよい
10．町のイメージがよい
11．子育て支援が充実している
12．高齢者、障がい者福祉が充実している
13．医療環境が充実している
14．学校の教育内容、環境がよい
15．定住に関する補助が充実している
16．都市基盤が整備されている
17．親戚、知り合い、友人が近くにいる
18．親、子どもが近くにいる
19．その他
（　　　　　　　　　　）

（問８で「３」を選んだ方におたずねします。）

問８-２　どのような点でいずれ町外に出ていきたいと思いますか。（主なもの３つに○）

１．住宅価格、家賃が適当でない、高い
２．買い物など日常生活が不便
３．交通の便がよくない
４．職場、学校が遠い
５．居住環境が騒がしい
６．自然が少ない
７．魅力的なイベント、行事がない
８．治安がよくない
９．近所づきあいがよくない
10．町のイメージがよくない
11．子育て支援が充実していない
12．高齢者、障がい者福祉が充実していない
13．医療環境が充実していない
14．学校の教育内容、環境がよくない
15．定住に関する補助が充実していない
16．都市基盤が整備されていない
17．親戚、知り合い、友人が近くにいない
18．親、子どもが近くにいない
19．その他
（　　　　　　　　　　）

町の取り組みに対する満足度・重要度について

問９　芦屋町のこれまでの取り組みについて、あなたはどのくらい満足し、また、重要とお考えですか。（各項目について、「満足度」、「重要度」からそれぞれ１つずつに○）

項目 / 代表的な事業など（あなたの考え）		満足度：満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	重要度：極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
1	公共交通機関の利便性 ・町内を運行する北九州市営バス、芦屋タウンバスの路線や運行本数、巡回バスの運行など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2	道路網の利便性や生活道路の整備 ・幹線道路、身近な生活道路の利便性、整備の状態など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3	交通安全の推進 ・交通安全運動の実施、カーブミラーや道路照明などの交通安全施設の設置状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4	上水道の安定供給 ・北九州市による水道の安全・安定供給など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5	下水道 ・下水道施設の整備状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6	地震や風水害などの防災対策 ・自主防災組織への支援、防災訓練の実施、防災無線や防災マップの整備、避難所の設置状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7	火事などの消防対策 ・迅速な消火活動、消防団活動の支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8	犯罪などの防犯対策 ・自治防犯組合などの町内巡回活動の支援、見回りの強化、防犯街灯や防犯カメラの設置など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9	町並み、景観の向上 ・花壇の整備、街路樹の剪定、誘導看板や総合案内板などの整備状況など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10	公園や緑地の充実 ・中央公園、海浜公園、夏井ヶ浜はまゆう公園などの維持や整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき

項目 代表的な事業など ＼ あなたの考え		満足度 満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	重要度 極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
11	ごみの資源化や減量化 ・自治区などによる資源物の集団回収奨励制度、生ごみ処理容器やダンボールコンポストなどの助成制度など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12	海や川などの自然環境の保全 ・ラブアース活動(海岸線や河川の一斉清掃)など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13	生活環境の向上 ・不法投棄防止パトロール、放置自転車対策、不法係留船対策など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14	農業の振興 ・新規就農者への就農支援、用水路やため池などの維持や整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15	漁業の振興 ・漁港や漁業施設の維持や整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16	商業の振興 ・にこにこ商品券・高額商品券発行の補助、商工業者への運営や設備資金の借入支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17	商店街などの中心市街地の整備 ・商業者への支援や企業誘致、空店舗活用の補助制度など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18	観光の振興 ・国民宿舎・レジャープールアクアシアン・芦屋海水浴場の運営、観光情報の発信、芦屋港レジャー港化の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19	イベントの開催 ・あしや砂像展の実施、花火大会や祭りあしやなどの開催支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20	地域医療の充実 ・芦屋中央病院の医療機器の充実や町内の医院との連携など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21	健康づくり事業の充実 ・特定健診・がん検診・乳幼児健診の実施、健康・運動教室や保健指導・栄養指導の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき

項目 代表的な事業など		あなたの考え	満足度 満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	重要度 極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
22	高齢者福祉の充実 ・介護予防事業、地域交流サロン事業や配食サービスなどの在宅福祉サービスの実施など		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23	障がい者福祉の充実 ・公共施設のバリアフリー化、福祉タクシーチケット給付、手話通訳者の派遣、障がい児デイサービス「芦屋すてっぷくらぶ」の運営など		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
24	児童福祉、子育て支援の充実 ・子ども医療費の助成、学童クラブの運営、保育所などの利用、子育て支援センターの運営や育児教室・相談の実施など		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25	学校教育と就学前の教育の充実 ・中学校 3 年生への放課後特別授業の実施、英語教育の充実(外国語専科教員の配置等)、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携、特別支援教育の推進、ICT(情報通信技術)教育の推進など		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
26	生涯学習の充実 ・各公民館講座、祖父母学級、同好会活動などの推進、文化協会への活動支援など		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
27	公民館などの社会教育施設の充実 ・中央公民館、東公民館、山鹿公民館、図書館、町民会館などの運営など		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
28	人権教育の推進 ・人権まつり、人権講演会の実施、人権カレンダーの発行や人権啓発の実施など		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
29	地域などのコミュニティの活性化 ・自治区活動への支援、自治区担当職員制度(職員が地域活動に参加し、町民による自主的な地域づくりのサポートを行う活動)の推進など		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき

項目 / 代表的な事業など（あなたの考え）		満足度					重要度				
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
30	レクリエーション、スポーツの振興 ・総合体育館・小体育館などの体育施設の管理運営、スロートレーニングなど健康づくり講座の開催、スポーツ大会や体育協会への支援など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
31	歴史・文化の振興 ・芦屋釜復興への取り組み、芦屋釜の里の運営やさくらコンサートなどの事業、歴史の里の運営や企画展の実施、ギャラリーあしやの運営など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
32	国際交流の推進 ・国際交流協会への支援、小学生を対象とした英語体験活動の実施、中学生を対象とした英語研修（ホームステイ・国内研修）事業など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
33	男女共同参画の推進 ・男女共同参画社会の実現に向けての啓発や講演会の実施など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
34	雇用対策や就業環境の向上 ・企業誘致を促進する条例、創業等促進支援事業補助金制度など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
35	町内情報通信基盤の整備 ・芦屋釜の里、レジャープールアクアシアン、マリンテラスあしや、町民会館、総合体育館、中央公民館、役場庁舎への無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
36	町の情報の積極的な公表・発信 ・広報あしやの発行、出前町長室、出前講座、町のホームページ、公式LINEなどの各種SNS運営、KBCテレビdボタン広報誌、地域情報伝達システムの戸別受信機など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
37	まちづくりへの住民参画・協働 ・住民と行政との情報の共有、パブリックコメントの実施、計画などへの住民の意見の反映など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問9のつづき

項目 代表的な事業など ＼ あなたの考え		満足度：満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	重要度：極めて重要	重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
38	ボートレース事業の振興 ・売上向上に向けた取り組み（電話投票の拡大、キャッシュレス投票の促進）、来場者増加に向けた取り組み（各種イベント、モーヴィ芦屋）、夢リアホールの活用、無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
39	行財政改革の推進 ・自主財源の確保、効率的な行政運営の推進など	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

その他、まちの重点的な取り組みなどについて

◆地域について

問10　ふだん近所の方とどの程度の付き合いをされていますか。（１つに○）

１．近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい
２．近所の方と会えば、世間話をする仲である
３．近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である
４．近所の方の顔は知っているが、話はしない
５．近所付き合いはない

問11　自治区に加入していますか。（１つに○）

１．加入している
２．加入していない

問12　自治区の活動に今後どのような活動が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

１．防災に関する活動や取り組み（防災訓練や災害が起きたときの対応）
２．防犯に関する活動や取り組み（防犯パトロール、防犯街灯の点検など）
３．交通安全のための活動（交通安全指導、交通安全教室など）
４．子どもを地域で守り育てる取り組み（あいさつ運動、見守り活動など）
５．子どもの健全育成に関する活動（野外活動、高齢者と子どもの交流活動など）
６．環境美化活動（地域一斉清掃、花いっぱい運動、公園の美化活動など）
７．ごみの減量・リサイクル推進のための活動
（資源物の回収、生ごみ堆肥化（ダンボールコンポスト）の推進など）
８．健康づくりの活動（健康教室、ウォーキングなど）
９．地域の行事やイベントなどの交流活動
（盆踊り、夏祭り、運動会、自治区公民館での趣味･教養活動など）
10．高齢者や障がい者への福祉活動（見守り、生活支援など）
11．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
12．わからない

◆環境問題への取り組みについて

問13　日ごろから環境問題について、どのような取り組みをされていますか。
（あてはまるものすべてに○）

１．資源物集団回収への協力
２．ごみの分別
３．節電・節水
４．公共交通機関の利用
５．その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

◆防災について

問 14-1　地震や洪水に備えてどのようなことが必要と考えていますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．地域の防災組織の確立	4．防災に関する学習
2．日ごろの近所付き合い	5．防災用品の準備
3．避難場所の確認	6．その他（　　　　　　　　　　　　　）

問 14-2　地域情報伝達システムの戸別受信機の設置状況について教えてください。（１つに○）

1．設置していて、内容も確認している	3．設置していない
2．設置しているが、内容は確認していない	4．受け取っていない

◆観光の活性化について

問 15　町の観光をより推進するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．花火大会や砂像展などのイベントの実施・充実
2．洞山や海水浴場をはじめとする観光地の整備
3．芦屋港レジャー港化の推進
4．芦屋釜の振興及び芦屋釜の里の整備
5．観光地（夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など）の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持
6．観光情報やイベントなどの周知・PR
7．特産品やグルメの開発
8．観光に携わる人材の発掘・育成
9．創業・起業の支援
10．観光消費額向上の取り組み
11．観光ルートマップなどの作成
12．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

◆教育について

問 16　町の小中学校の教育についてどう評価しますか。（１つに○）

1．大変良い	4．良くない
2．まあまあ良い	5．わからない
3．あまり良くない	

問17　町の小中学生等に対する教育を向上するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1．学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める
2．学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める
3．学校において、体力を高める授業の推進を図る
4．学校において、外部指導員や地域のスポーツクラブを活用した部活動の推進
5．学校において、タブレットや電子黒板などを活用した ICT（情報通信技術）教育の充実を進める
6．家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはんなど）の定着を進める
7．家庭において、児童生徒が家庭学習する時間を確保する
8．家庭において、親子の会話や読書の時間を確保する
9．地域において、住民が学校行事や教育的な催しに積極的に参加する
10．地区の子ども会や、校区育成会議などの子どもを育てる活動を推進する
11．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

◆協働のまちづくりについて

問18　ボランティア活動に参加していますか。（１つに○）

1．定期的に参加している	3．興味はあるが、参加していない
2．ときどき参加している	4．興味がなく、参加していない

問19　町の計画や取り組みについて関心を持っていますか。（１つに○）

1．持っている	3．どちらかといえば持っていない
2．どちらかといえば持っている	4．持っていない

問20　町は、住民の意見をまちづくりに反映していると思いますか。（１つに○）

1．よく反映している	4．まったく反映していない
2．まあまあ反映している	5．わからない
3．あまり反映していない	

問 21　住民の意見をもっと反映するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（<u>主なもの２つに○</u>）

1．町と住民の情報の共有を積極的に進める
2．町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす
3．町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす
4．町が設置する委員会の委員を住民から公募する。または公募枠を増やす
5．町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加われるようにする
6．住民が事業を提案し、住民が事業を行えるような制度をつくる
7．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問22　まちづくりを行う際、住民の意見を集めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（主なもの２つに○）

１．アンケート調査（意識調査）を定期的に行う
２．広報を通じた意見募集を定期的に行う
３．町のホームページに書き込みコーナーを設置する
４．町内各所に意見箱を設置する
５．住民相談の窓口や機会を増やす
６．町長が住民と対話する機会を充実する
７．町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす
８．必要ない
９．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

◆インターネット環境、情報入手経路について

問23　普段の生活でインターネットを利用していますか。（１つに○）

１．利用している
２．利用していない
３．わからない

問24　ご自宅にある情報通信機器を教えてください。（あてはまるものに○）

１．スマートフォン
２．タブレット端末
３．パソコン
４．ゲーム機器
５．持っていない
６．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問25　町の情報を得るために、活用しているものを教えてください。（あてはまるものに○）

１．広報あしや
２．町ホームページ
３．町公式ＬＩＮＥ
４．町公式インスタグラム
５．町公式フェイスブック
６．ＫＢＣテレビｄボタン広報誌
７．地域情報伝達システムの戸別受信機
８．わからない
９．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

◆新型コロナウイルス感染症について

問 26　町が実施する新型コロナウイルス感染症対策として有効だと思う施策を教えてください。
（主なもの５つに○）

１．全町民向け支援事業（給付金の支給、商品券の配布）
２．全世帯向け支援事業（上下水道代・電気代給付金、ごみ袋配布、お米購入補助券配布）
３．高齢者向け支援事業（給付金の支給）
４．医療・介護従事者支援事業（給付金の支給）
５．子育て世帯向け支援事業（給付金の支給）
６．ひとり親世帯等の支援事業（給付金の支給）
７．大学生向け支援事業（給付金の支給）
８．子どもたちへのプレゼント事業（花火、モーヴィ芦屋無料券配布）
９．プレミアム商品券プレミア率上乗せ事業
10．事業者向け支援事業（給付金の支給、家賃軽減など）
11．飲食店支援事業（テイクアウト等事業支援、感染防止対策助成、家賃軽減など）
12．新型コロナウイルス感染症自宅療養者向け支援事業（食料品の無償提供等）
13．就労が必要な人の緊急雇用事業
14．インフルエンザ予防接種費用助成事業
15．公共交通利用促進支援事業（特別価格でのバス回数券、タクシーチケットの販売）
16．酸性電解水の無償配布
17．公共施設の整備事業（手洗い台水栓自動化、図書除菌機の整備）
18．サプライズ花火事業
19．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

今後の芦屋町について

問 27　芦屋町が今後 10 年間のまちづくりで、特に力を入れるべきことはどれだと思いますか。
（主なもの２つに○）

1．住民同士、住民と行政が互いに手を取りあう「住民協働のまち」
2．防災・防犯に力を入れる「安全・安心なまち」
3．子育て支援や教育・学習支援が充実した「子育て・教育のまち」
4．高齢者や障がい者も安心して住みつづけられる「福祉のまち」
5．住民一人ひとりの健康を支援する「健康づくりのまち」
6．農林水産業や商工業の担い手、新しい産業が育つ「産業振興のまち」
7．様々な資源を活かし町外から多くの人が訪れる「観光・交流のまち」
8．歴史や伝統文化、芸術を大事にする「歴史と文化のまち」
9．豊かな自然資源に恵まれた「自然環境のまち」
10．快適な住環境や公共交通網等が整備された「住みやすいまち」
11．移住・定住を促進する「住みたいまち」
12．学びやスポーツ活動などにより心豊かな人が育つ「生涯学習のまち」
13．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

最後に、芦屋町のまちづくりについて、ご意見などご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

芦屋町コミュニティ活動状況調査　結果報告書

発　　　　行／令和５年３月
発　行　者／福岡県　芦屋町
編　　　　集／芦屋町　企画政策課
〒807-0198
福岡県遠賀郡芦屋町幸町 2 番 20 号
ＴＥＬ（０９３）２２３-３５７０
ＦＡＸ（０９３）２２３-３９２７